

第161図 南区（2004年度3区）ST5005・ST5006平・断面図

土壤墓（ST5005）（第161図）

位置

大グリッドLoc.F-1、中グリッドe-III、小グリッドC-17に位置する。

規模と形状

検出長1.50m、最大幅0.85m、最大深度0.28mの長方形である。

土層

造構の堆積土は3層に分層した。1層は黄褐色を呈するシルト層である。2層は灰オリーブ色を呈するシルト層である。3層はオリーブ色を呈する砂質シルト層である。

土壤墓（ST5006）（第161図）

位置

大グリッドLoc.F-1、中グリッドe-III、小グリッドC-17に位置する。

規模と形状

検出長1.80m、最大幅0.76m、最大深度0.30mの四角形である。

土層

造構の堆積土は3層に分層した。1層は黄褐色を呈するシルト層である。2層は灰オリーブ色を呈するシルト層である。3層はオリーブ色を呈するシルト層である。

(11) 2000年度 3区（第1造構面）

溝（SD1001）（第163図）

位置

大グリッド Loc.F-1、中グリッド δ-IV、小グリッド R、S-8 に位置する。

規模と形状

検出長4.85m、最大幅0.85m、最大深度0.20m の溝である。

土層

造構の堆積土は2層に分層した。1層は灰オリーブ色を呈するシルト層である。2層は暗黄褐色を呈するシルト層である。

溝（SD1002）（第163図）

位置

大グリッド Loc.F-1、中グリッド δ-IV、小グリッド O~S-6~8 に位置する。

規模と形状

検出長19.90m、最大幅1.65m、最大深度0.25m の溝である。南側はN-10°-W を軸とした直線状を呈するが、北端では西へ屈曲している。

土層

造構の堆積土は3層に分層した。すべて黄褐色を呈するシルト層である。

溝（SD1003）（第164図）

位置

大グリッド Loc.F-1、中グリッド δ-IV、小グリッド R-8 に位置する。

規模と形状

検出長1.05m、最大幅0.90m、最大深度0.40m の溝である。

土層

造構の堆積土は2層に分層した。1層は、にぶい黄色を呈するシルト層である。2層は灰黄色を呈するシルト層である。

溝（SD1004）（第164図）

位置

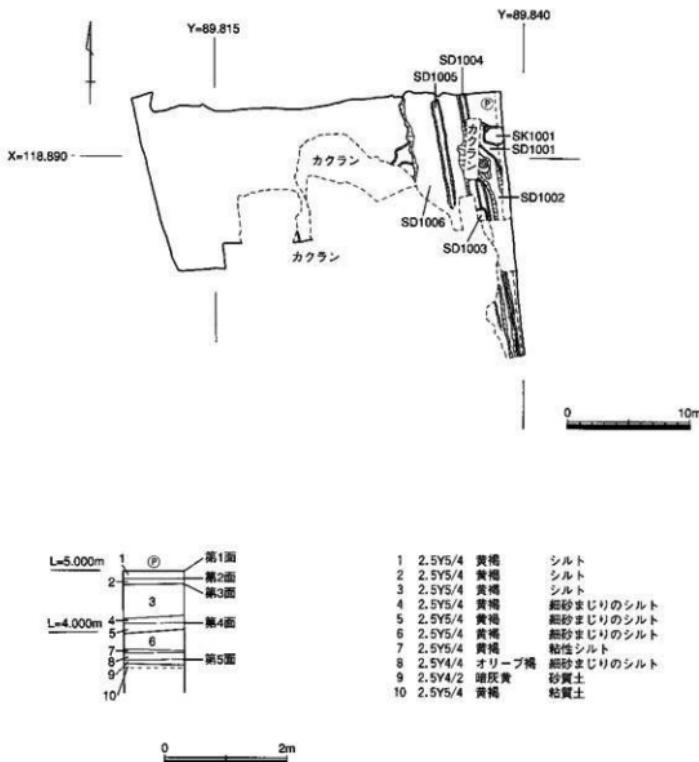
大グリッド Loc.F-1、中グリッド δ-IV、小グリッド O~R-8 に位置する。

規模と形状

検出長10.40m、最大幅0.45m、最大深度0.30m の溝である。N-12°-W を軸にした直線状を呈する。

土層

造構の堆積土は2層に分層した。1層はにぶい黄色を呈するシルト層である。2層は灰黄色を呈するシルト層である。



第162図 南区（2000年度3区）第1遺構面 調査区遺構平面図・土層柱状図

溝（SD1005）（第165図）

位置

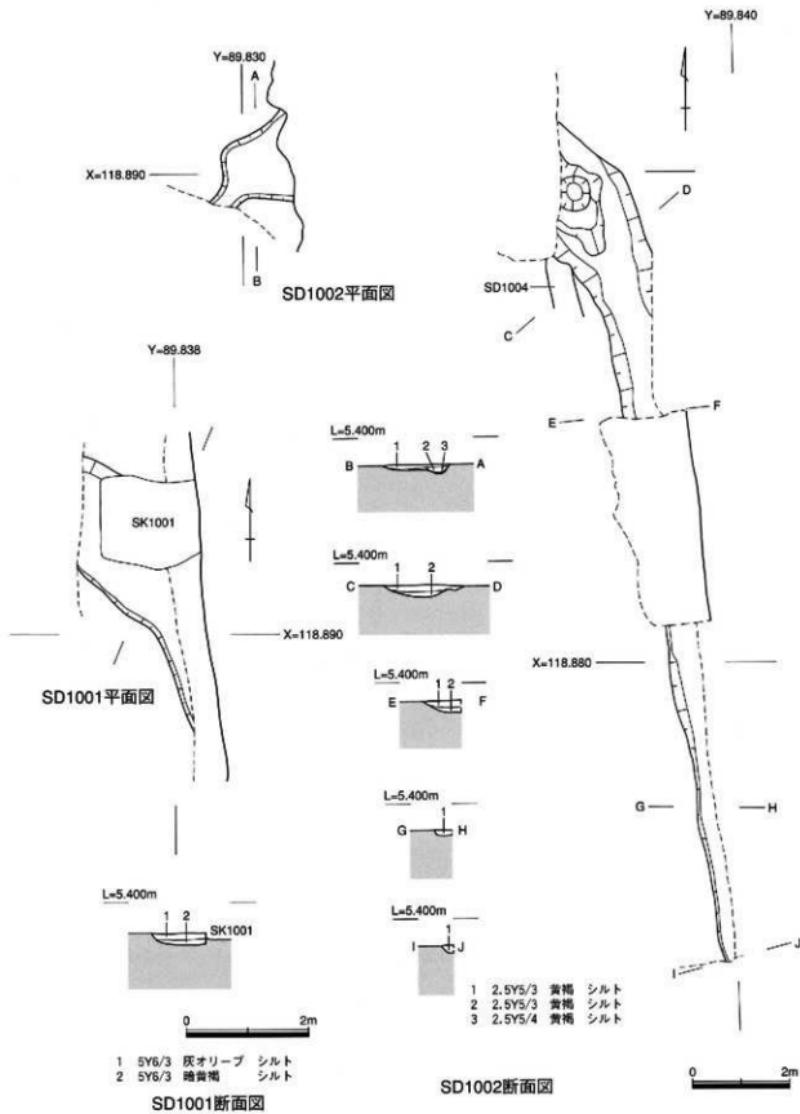
大グリッドLoc.F-1、中グリッドδ-IV、小グリッドR、S-7に位置する。

規模と形状

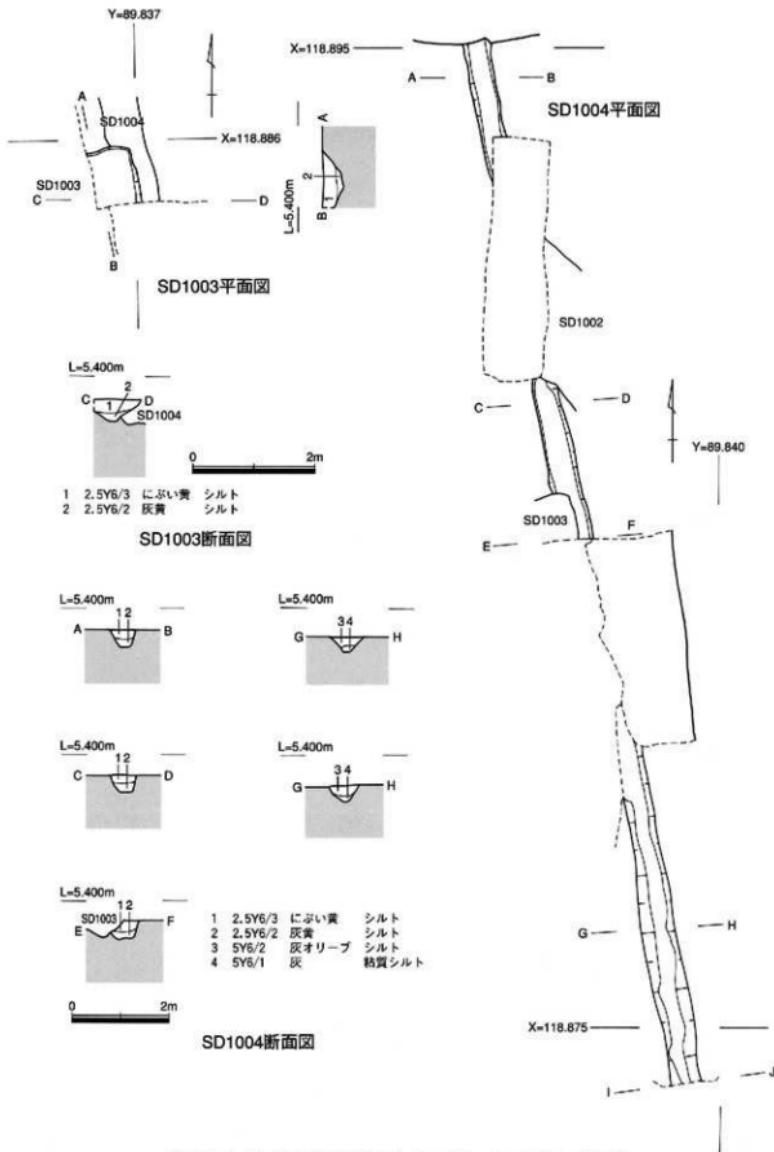
検出長9.00m、最大幅0.60m、最大深度0.30mの溝である。N-10°-Wを軸とした直線状を呈する。

土層

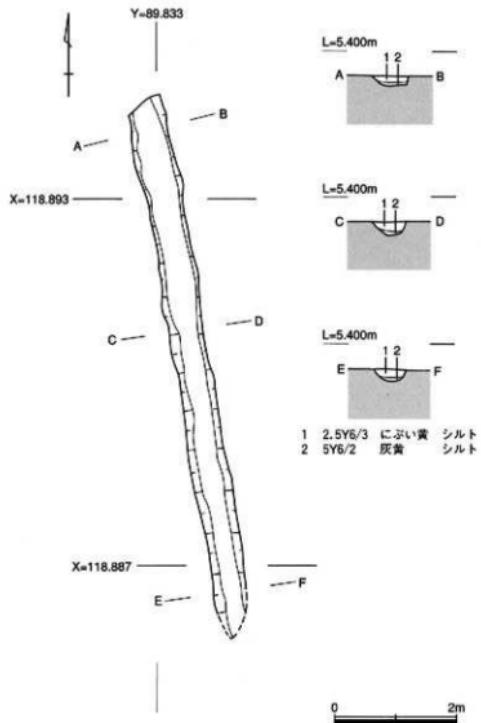
遺構の堆積土は2層に分層した。1層は、にぶい黄色を呈するシルト層である。2層は灰黄色を呈するシルト層である。



第163図 南区（2000年度3区）SD1001・SD1002平・断面図



第164図 南区（2000年度3区）SD1003・SD1004平・断面図



第165図 南区（2000年度3区）SD1005平・断面図

溝（SD1006）（第166図）

位置

大グリッドLoc.F-1、中グリッドδ-IV、小グリッドP-T-7、8に位置する。

規模と形状

検出長21.25m、最大幅5.00m、最大深度0.55mの幅の広い溝状である。

土層

A-Bは5層に分層した。1層～4層は灰オリーブ色を呈するシルト層である。5層は黄褐色を呈するシルト層である。

C-Dは5層に分層した。2層は灰オリーブ色を呈するシルト層である。6層、7層は黄褐色を呈するシルト層である。8層は灰オリーブ色を呈するシルト層である。9層はオリーブ黄色を呈するシルト層である。

E-Fは3層に分層した。2層は灰オリーブ色を呈するシルト層である。10層は灰オリーブ色を呈す

るシルト層である。11層は暗灰黄色を呈するシルト層である。

G-Hは3層に分層した。2層は灰オリーブ色を呈するシルト層である。10層は暗黄褐色を呈するシルト層である。11層は、黄褐色を呈するシルト層である。

出土遺物・時期

137は瓦器椀である。138は土師器の椀である。時期は13世紀前半頃である。

溝（SD1007）（第166図）

位置

大グリッド Loc.F-1、中グリッド δ-IV、小グリッド Q-5 に位置する。

規模と形状

検出長0.80m、最大幅0.70m、最大深度0.15m の溝である。

土坑（SK1001）（第167図）

位置

大グリッド Loc.F-1、中グリッド δ-IV、小グリッド S-8 に位置する。

規模と形状

検出長1.08m、最大幅0.97m、最大深度0.07m の正方形である。

土層

遺構の堆積土は灰色を呈するシルトによる單一層である。

土坑（SK1002）（第167図）

位置

大グリッド Loc.F-1、中グリッド δ-IV、小グリッド S-8 に位置する。

規模と形状

検出長0.33m、最大幅0.32m、最大深度0.08m の不整円形である。

土層

遺構の堆積土は、にぶい黄色を呈する砂質土による單一層である。

土坑（SK1003）（第167図）

位置

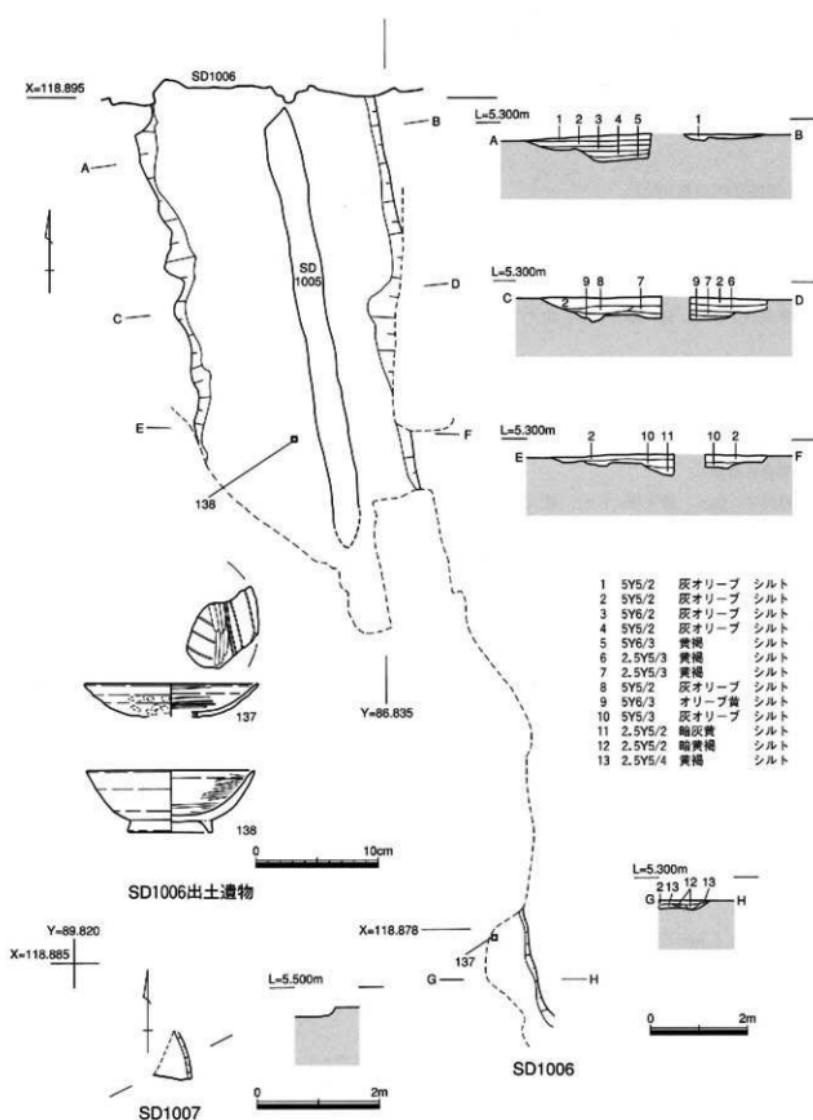
大グリッド Loc.F-1、中グリッド δ-IV、小グリッド S-8 に位置する。

規模と形状

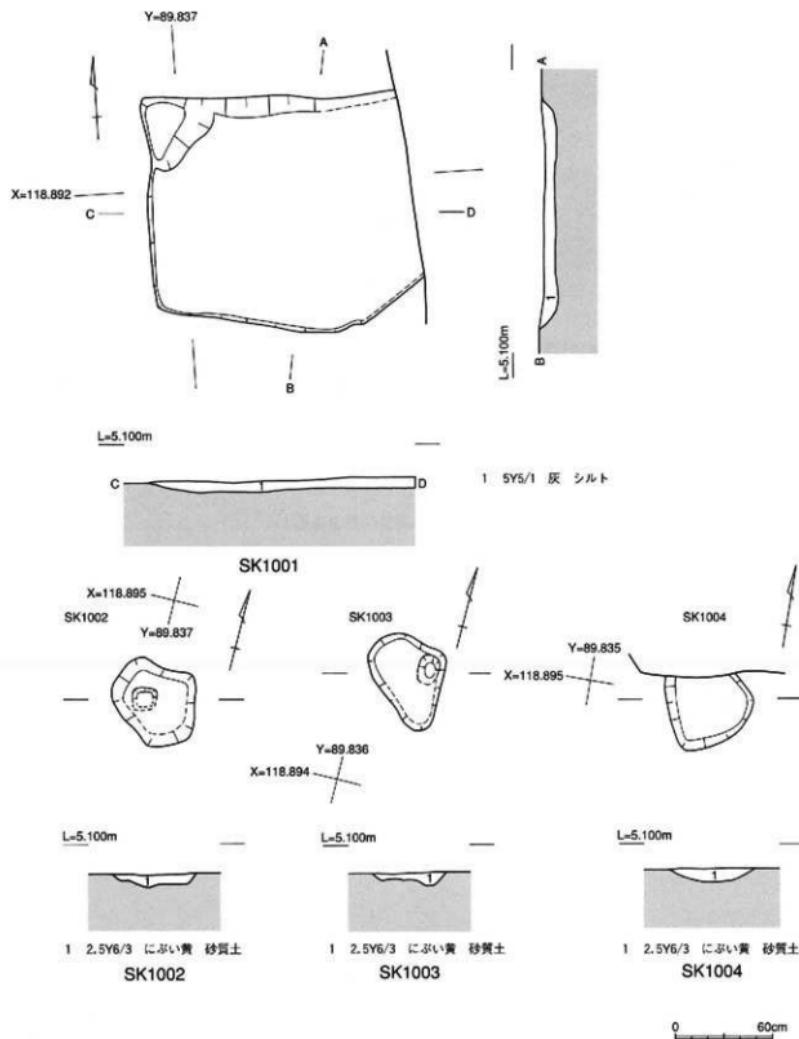
検出長0.34m、最大幅0.29m、最大深度0.09m の不整円形である。

土層

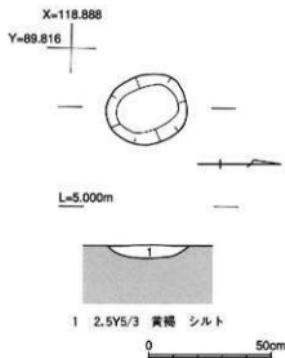
遺構の堆積土は、にぶい黄色を呈する砂質土による單一層である。



第166図 南区（2000年度3区）SD1006・SD1007平・断面図・遺物出土状況ドット図・SD1006出土遺物



第167図 南区（2000年度3区）SK1001・SK1002・SK1003・SK1004平・断面図



第168図 南区（2000年度3区）SP1001平・断面図

土坑（SK1004）（第167図）

位置

大グリッドLoc.F-1、中グリッドδ-IV、小グリッドS-8に位置する。

規模と形状

検出長0.35m、最大幅0.31m、最大深度0.09mの不整円形である。

土層

造構の堆積土は、にぶい黄色を呈する砂質土による単一層である。

柱穴（SP1001）（第168図）

位置

大グリッドLoc.F-1、中グリッドδ-IV、小グリッドR-4に位置する。

規模と形状

検出長0.33m、最大幅0.29m、最大深度0.05mの稍円形である。

土層

造構の堆積土は黄褐色を呈するシルトによる単一層である。

(12) 2000年度3区(第2遺構面)

溝(SD2001)(第170図)

位置

大グリッドLoc.F-1、中グリッドδ-IV、小グリッドS-3~6に位置する。

規模と形状

検出長15.20m、最大幅1.60m、最大深度0.15mの溝である。N=82°-Wを軸に蛇行している。

土層

遺構の堆積土は4層に分層した。すべて黄褐色を呈するシルト層である。4層と5層の一部に炭化物を含む。

溝(SD2002)(第170図)

位置

大グリッドLoc.F-1、中グリッドδ-IV、小グリッドS、T-7、8に位置する。

規模と形状

検出長5.05m、最大幅1.50m、最大深度0.30mの溝である。

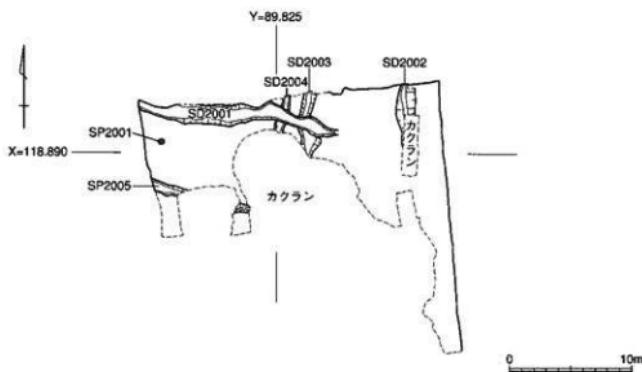
土層

遺構の堆積土は3層に分層した。1層は灰黄色を呈するシルト層である。2層は黄褐色を呈するシルト層である。3層は灰黄色を呈するシルト層である。

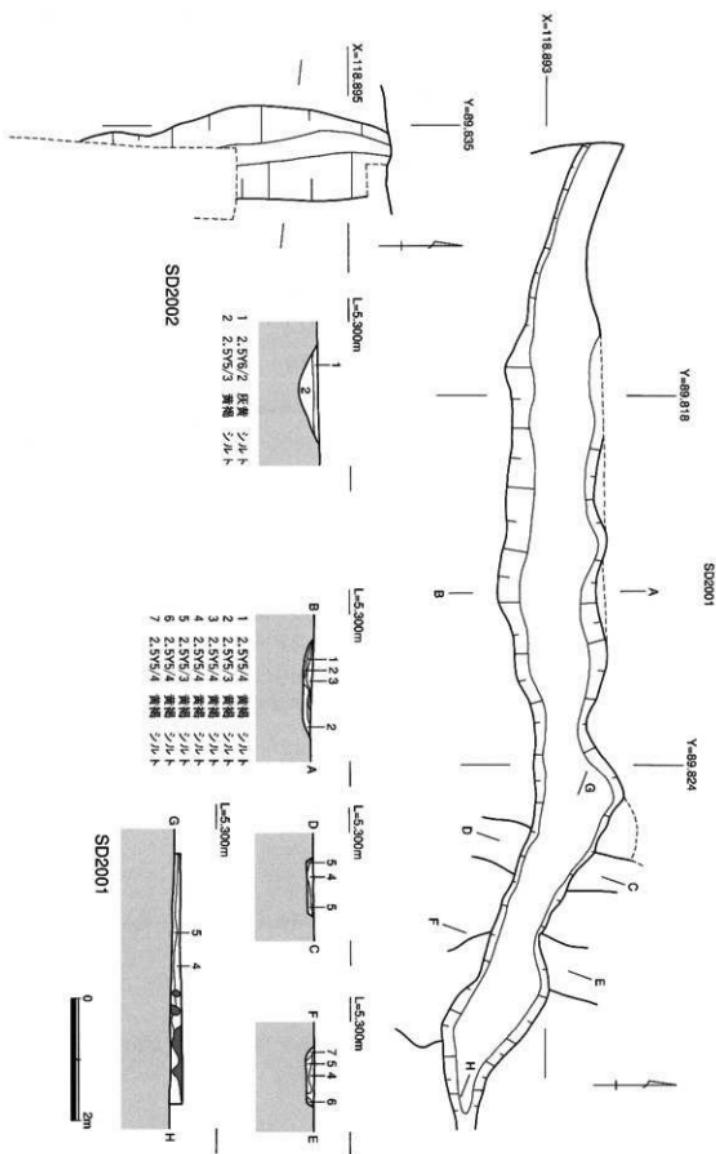
溝(SD2003)(第171図)

位置

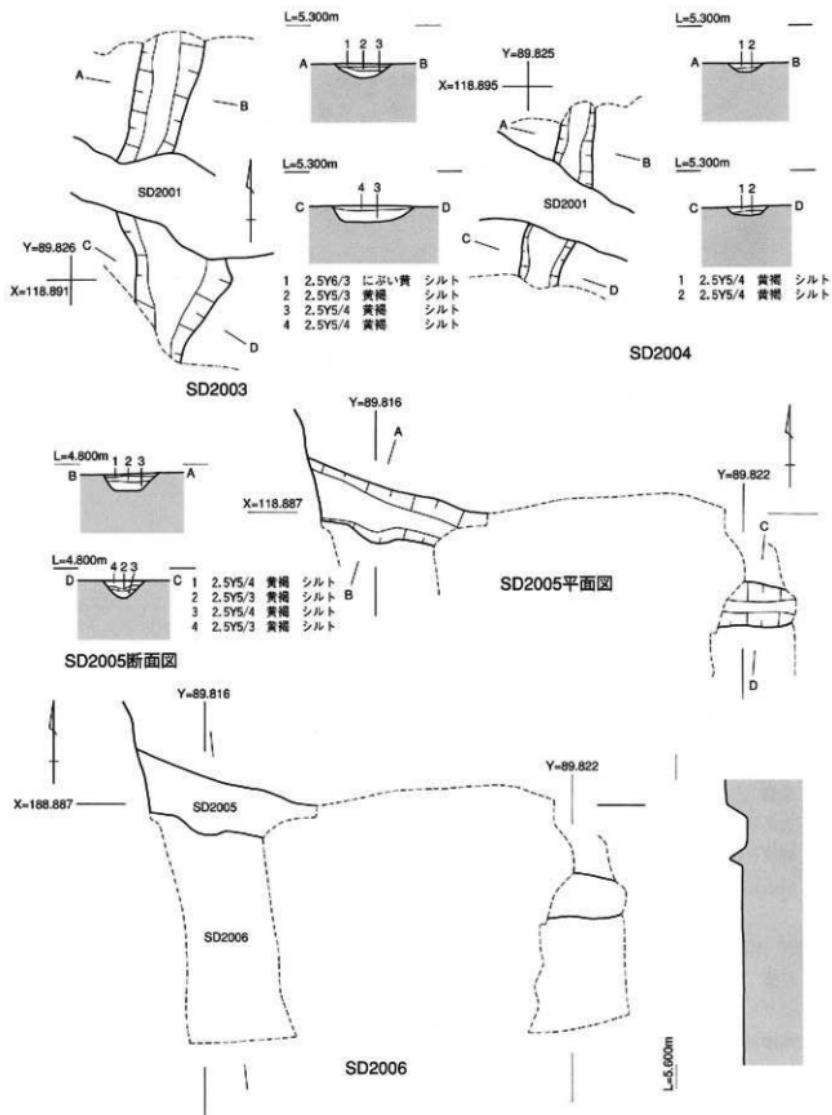
大グリッドLoc.F-1、中グリッドδ-IV、小グリッドS-6に位置する。



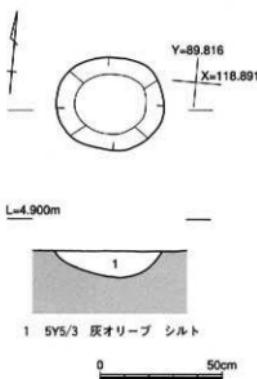
第169図 南区(2000年度3区)第2遺構面 調査区遺構平面図



第170図 南区(2000年度3区) SD2001・SD2002平・断面図



第171図 南区(2000年度3区) SD2003・SD2004・SD2005・SD2006平・断面図



第172図 南区（2000年度3区）
SP2001平・断面図

規模と形状

検出長5.45m、最大幅1.35m、最大深度0.27mの溝である。

土層

造構の堆積土は4層に分層した。1層は、にぶい黄色を呈するシルト層である。2層～4層は黄褐色を呈するシルト層である。

溝（SD2004）（第171図）

位置

大グリッドLoc.F-1、中グリッドδ-IV、小グリッドS-6に位置する。

規模と形状

検出長3.15m、最大幅0.65m、最大深度0.15mの溝である。

土層

造構の堆積土は2層に分層した。1層、2層は黄褐色を呈するシルト層である。

溝（SD2005）（第171図）

位置

大グリッドLoc.F-1、中グリッドδ-IV、小グリッドR-4、5に位置する。

規模と形状

検出長8.20m、最大幅0.90m、最大深度0.28mの溝である。

土層

造構の堆積土は4層に分層した。すべて黄褐色を呈するシルト層である。

溝（SD2006）（第171図）

位置

大グリッドLoc.F-1、中グリッドδ-IV、小グリッドQ、R-4、5に位置する。

規模と形状

検出長7.25m、最大幅3.65mの長方形である。

柱穴（SP2001）（第172図）

位置

大グリッドLoc.F-1、中グリッドδ-IV、小グリッドS-4に位置する。

規模と形状

検出長0.45m、最大幅0.37m、最大深度0.11mの円形である。

土層

造構の堆積土は灰オリーブ色を呈するシルトによる単一層である。

(13) 2000年度3区(第3造構面)

溝 (SD3001) (第173図)

位置

大グリッド Loc.F-1、中グリッド 8-IV、小グリッド Q-S-2~8 に位置する。

規模と形状

検出長31.20m、最大幅1.20m、最大深度0.40m の溝である。N-73°-W を軸とした直線状を呈する。

土層

造構の堆積土は7層に分層した。すべて黄褐色を呈するシルト層である。

溝 (SD3002) (第173図)

位置

大グリッド Loc.F-1、中グリッド 8-IV、小グリッド R-7、8 に位置する。

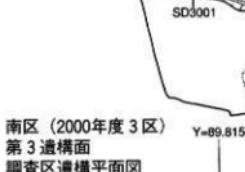
規模と形状

検出長7.15m、最大幅0.60、最大深度0.38m の溝である。N-73°-W を軸としているが、やや蛇行している。

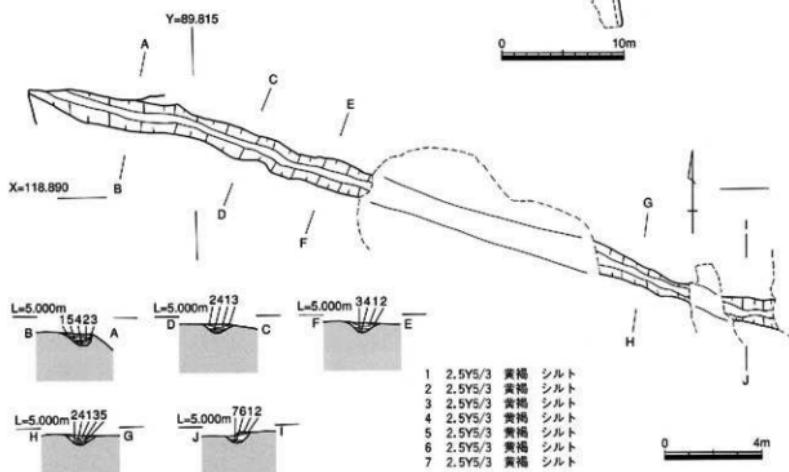
土層

造構の堆積土は4層に分層した。すべて黄褐色を呈するシルト層である。

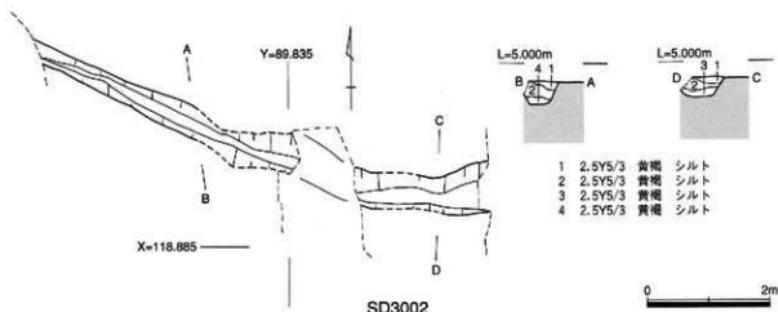
X=118.895



0 10m



SD3001



第173図 南区（2000年度3区）第3造構面 調査区造構平面図
SD3001・SD3002平・断面図

(14) 2000年度3区(第4遺構面)

溝 (SD4001) (第175図)

位置

大グリッドLoc.F-1、中グリッドδ-IV、小グリッドR、S-6に位置する。

規模と形状

検出長8.73m、最大幅1.05m、最大深度0.15mの溝である。N-83°-Eを軸とした直線状を呈する。

土層

遺構の堆積土は2層に分層した。1層は黄褐色を呈するシルト層である。2層はオリーブ褐色を呈するシルト層である。

土坑 (SK4001) (第176図)

位置

大グリッドLoc.F-1、中グリッドδ-IV、小グリッドT-7に位置する。

規模と形状

検出長0.56m、最大幅0.55m、最大深度0.09mの円形である。

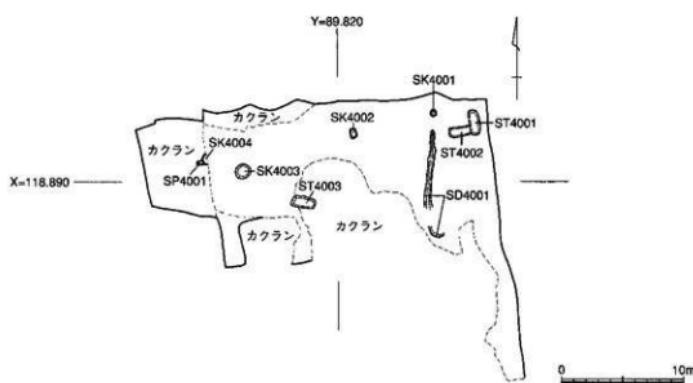
土層

遺構の堆積土は2層に分層した。1層、2層は黄褐色を呈するシルト層である。

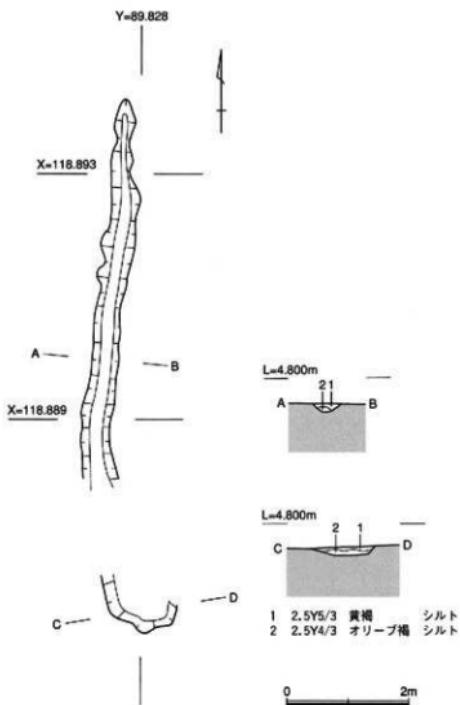
土坑 (SK4002) (第176図)

位置

大グリッドLoc.F-1、中グリッドδ-IV、小グリッドS-5に位置する。



第174図 南区(2000年度3区)第4遺構面 調査区遺構平面図



第175図 南区（2000年度3区）SD4001平・断面図

規模と形状

検出長0.79m、最大幅0.46m、最大深度0.34mの長方形である。

土層

遺構の堆積土は3層に分層した。1層は黄褐色を呈するシルト層である。2層はオリーブ褐色を呈するシルト層である。3層は黄褐色を呈する粘質土層である。

土坑（SK4003）（第176図）

位置

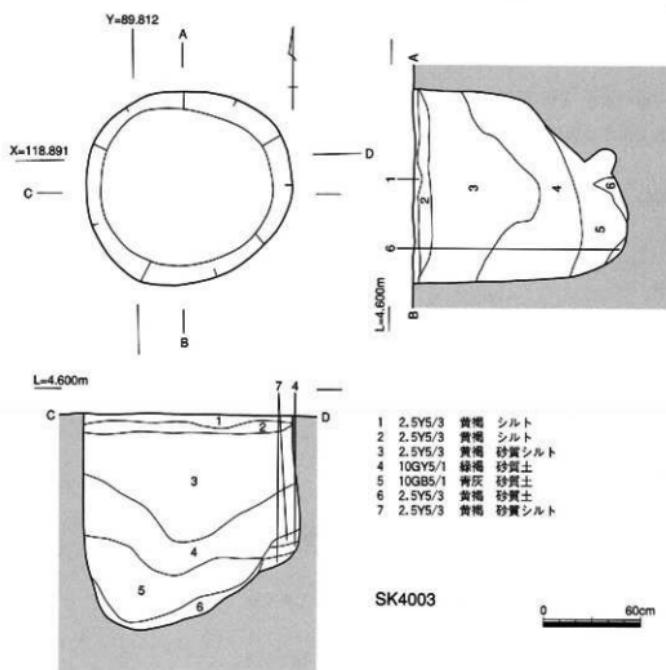
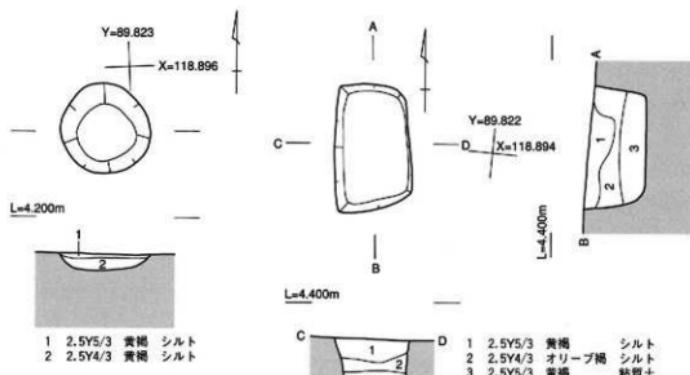
大グリッドLoc.F-1、中グリッドδ-IV、小グリッドS-3に位置する。

規模と形状

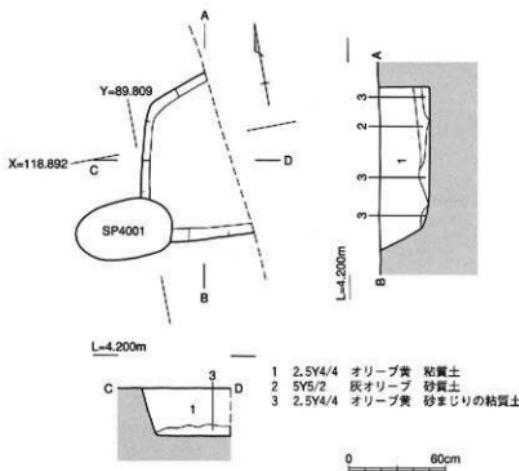
検出長1.26m、最大幅1.18m、最大深度1.33mの円形である。

土層

遺構の堆積土は7層に分層した。1層、2層は黄褐色を呈するシルト層である。3層は黄褐色を呈す



第176図 南区（2000年度3区）SK4001・SK4002・SK4003平・断面図



第177図 南区（2000年度3区）SK4004平・断面図

る砂質シルト層である。4層は緑褐色を呈する砂質土層である。5層は青灰色を呈する砂質土層である。6層は黄褐色を呈する砂質土層である。7層は黄褐色を呈する砂質シルト層である。

土坑（SK4004）（第177図）

位置

大グリッドLoc.F-1、中グリッドδ-IV、小グリッドS-2に位置する。

規模と形状

検出長1.04m、最大幅0.56m、最大深度0.31mの台形である。

土層

遺構の堆積土は3層に分層した。1層はオリーブ黄色を呈する粘質土層である。2層は灰オリーブ色を呈する粘質土層である。3層はオリーブ黄色を呈する砂混じり粘質土層である。

柱穴（SP4001）（第178図）

位置

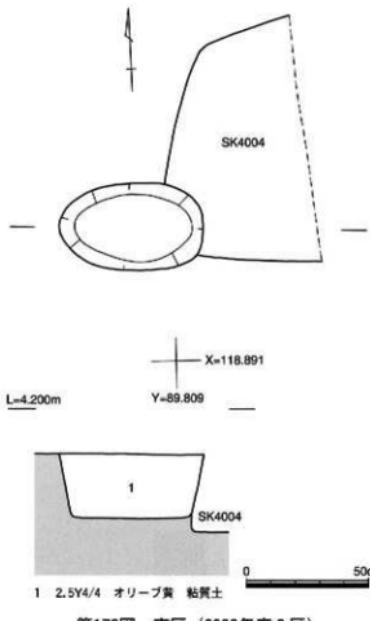
大グリッドLoc.F-1、中グリッドδ-IV、小グリッドS-2に位置する。

規模と形状

検出長0.59m、最大幅0.36m、最大深度0.27mの梢円形である。

土層

遺構の堆積土はオリーブ黄色を呈する粘質土による単一層である。



第178図 南区（2000年度3区）
SP4001平・断面図

土壤墓（ST4001）（第179図）

位置

大グリッドLoc.F-1、中グリッドδ-IV、小グリッドR、S-7に位置する。

規模と形状

検出長2.00m、最大幅0.75m、最大深度0.18mの長方形である。

土層

遺構の堆積土は3層に分層した。すべてオリーブ黄色を呈する粘質シルト層である。

土壤墓（ST4002）（第179図）

位置

大グリッドLoc.F-1、中グリッドδ-IV、小グリッドS-6、7に位置する。

規模と形状

検出長1.75m、最大幅0.72m、最大深度0.15mの長方形である。

土層

遺構の堆積土は2層に分層した。1層は黄褐色を呈する粘質シルト層である。2層はオリーブ黄色を呈する粘質シルト層である。

土壤墓（ST4003）（第179図）

位置

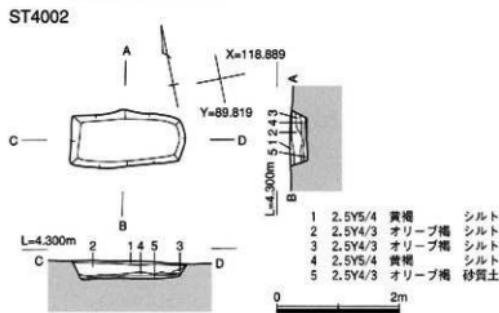
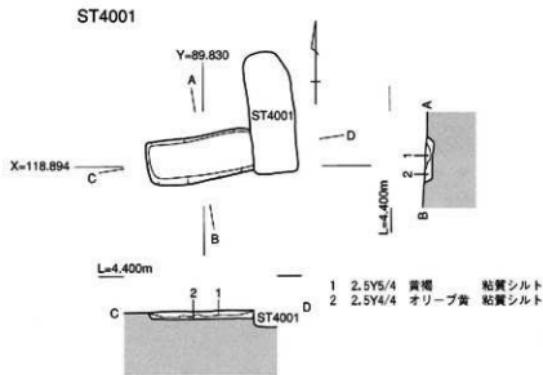
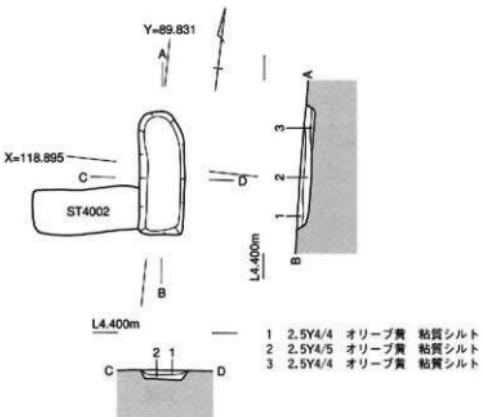
大グリッドLoc.F-1、中グリッドδ-IV、小グリッドR-4に位置する。

規模と形状

検出長1.87m、最大幅0.95m、最大深度0.28mの長方形である。

土層

遺構の堆積土は5層に分層した。1層は黄褐色を呈するシルト層である。2層、3層はオリーブ褐色を呈するシルト層である。4層は黄褐色を呈するシルト層である。5層はオリーブ褐色を呈する砂質土層である。



第179図 南区（2000年度3区）ST4001・ST4002・ST4003平・断面図

(15) 2000年度3区(第5遺構面)

土坑(SK5001)(第181図)

位置

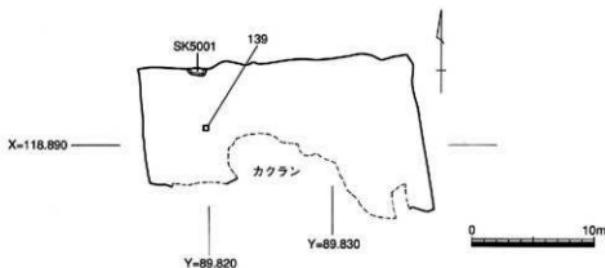
大グリッドLoc.F-1、中グリッドδ-IV、小グリッドT-4に位置する。

規模と形状

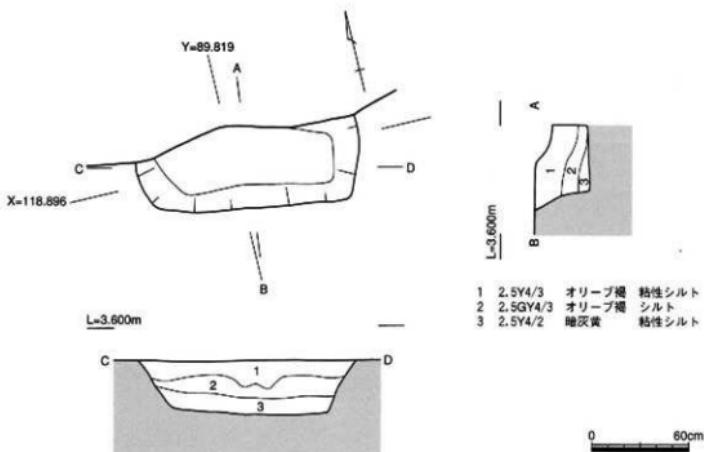
検出長1.23m、最大幅0.51m、最大深度0.34mの長方形である。

土層

遺構の堆積土は3層に分層した。1層はオリーブ褐色を呈する粘性シルト層である。2層はオリーブ褐色を呈するシルト層である。3層は暗灰黄色を呈する粘性シルト層である。



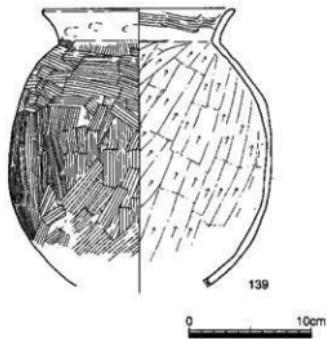
第180図 南区(2000年度3区) 第5遺構面 調査区遺構平面図・遺物出土状況ドット図



第181図 南区(2000年度3区) SK5001平・断面図

第5包含層出土遺物（第182図）

139は土師器の壺である。



第182図 南区（2000年度3区）第5包含層出土遺物

(16) 2003年度8区（第1遺構面）

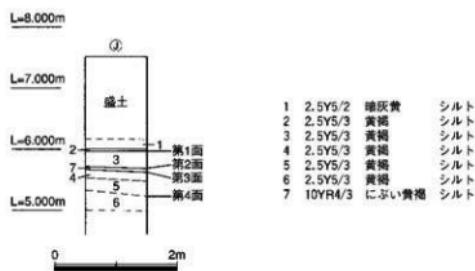
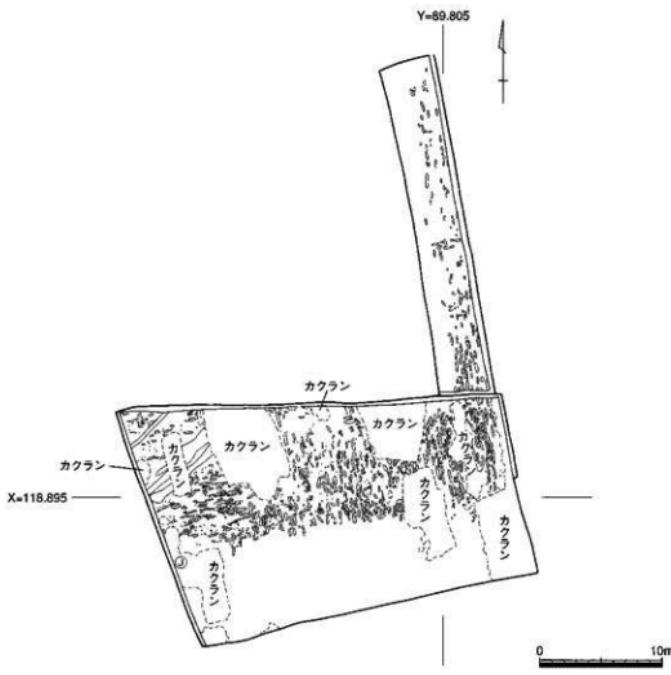
水田跡（第183図）

位置

大グリッドLoc.F-1、中グリッドδ、ε-III、IV、小グリッドQ~G-16~3に位置する。

規模と形状

調査区北半に水田面を検出した。区画を示す遺構は検出できなかったが、耕作痕は南北方向のものが多く、西側の一部に東西方向のものも見られた。



第183図 南区（2003年度8区）第1遺構面 調査区遺構平面図・土層柱状図

(17) 2003年度 8区（第2造構面）

溝（SD2001）（第185図）

位置

大グリッド Loc.F-1、中グリッド δ-III、小グリッド S、T-18に位置する。

規模と形状

検出長4.00m、最大幅0.40m、最大深度0.10m の溝である。

土層

造構の堆積土は灰オリーブ色を呈するシルトによる単一層である。

溝（SD2002）（第185図）

位置

大グリッド Loc.F-1、中グリッド δ-III、小グリッド T-17、18に位置する。

規模と形状

検出長2.60m、最大幅0.55m、最大深度0.14m の溝である。

土層

造構の堆積土は灰オリーブ色を呈するシルトによる単一層である。

溝（SD2003）（第185図）

位置

大グリッド Loc.F-1、中グリッド δ-III、小グリッド T-17、18に位置する。

規模と形状

検出長2.45m、最大幅0.40m、最大深度0.07m の溝である。

土層

造構の堆積土は灰オリーブ色を呈するシルトによる単一層である。

溝（SD2004）（第185図）

位置

大グリッド Loc.F-1、中グリッド δ、ε-III、小グリッド T、A-19、20に位置する。

規模と形状

検出長8.00m、最大幅1.50m、最大深度0.16m のL字形である。

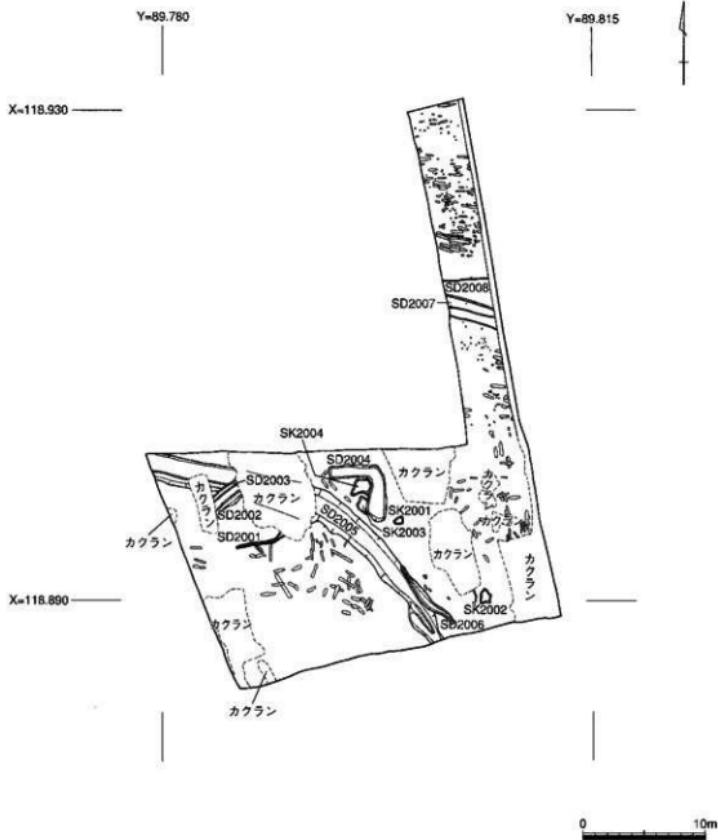
土層

造構の堆積土は3層に分層した。全て灰オリーブ色を呈するシルト層である。

溝（SD2005）（第186図）

位置

大グリッド Loc.F-1、中グリッド δ-III、IV、小グリッド R-T-19~1に位置する。



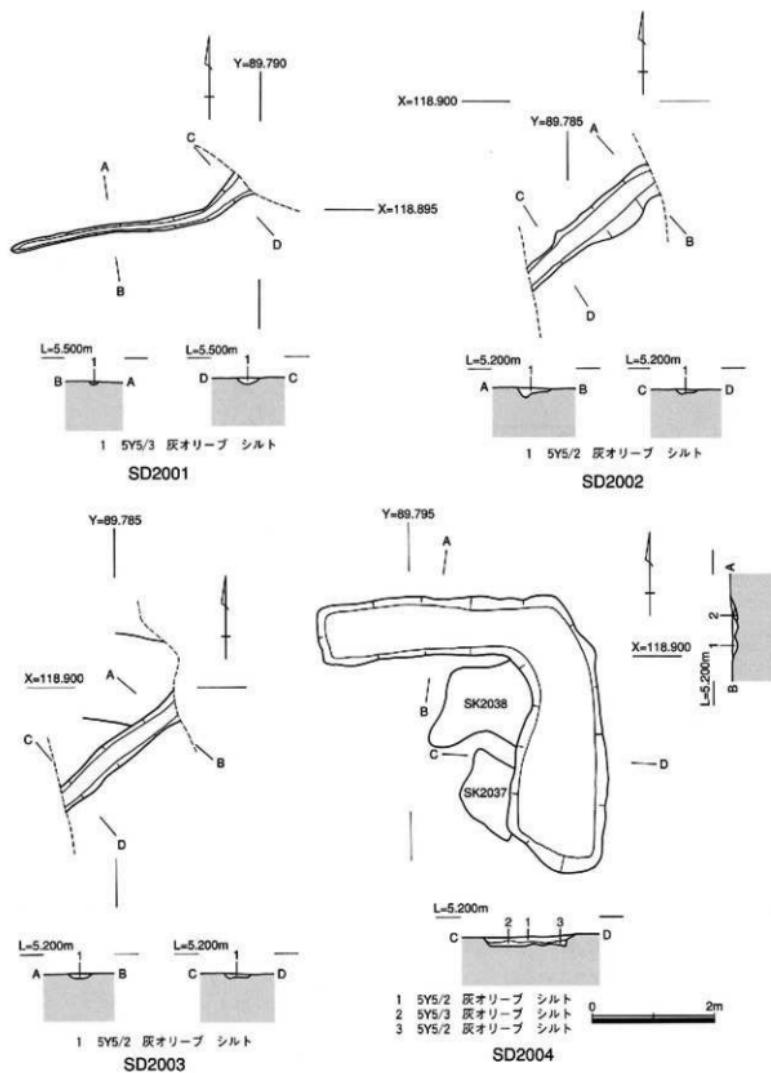
第184図 南区（2003年度8区）第2造構面 調査区構面図

規模と形状

検出長29.70m、最大幅2.40m、最大深度0.40mの溝である。南側はN-42°-Wを軸としているが、北側はN-83°-Wに曲がっている。

土層

造構の堆積土は7層に分層した。1層は灰オリーブ色を呈するシルト層である。2層は灰オリーブ色を呈する粘性シルト層である。3層～5層は灰オリーブ色を呈するシルト層である。6、7層は灰オリーブ色を呈する粘性シルト層である。



第185図 南区（2003年度8区）SD2001・SD2002・SD2003・SD2004平・断面図

溝（SD2006）（第186図）

位置

大グリッド Loc.F-1、中グリッド δ-III、IV、小グリッド R~T-20、1 に位置する。

規模と形状

検出長6.40m、最大幅0.68m、最大深度0.11m の溝である。

土層

遺構の堆積土は2層に分層した。全て灰オリーブ色を呈するシルト層である。

溝（SD2007）（第186図）

位置

大グリッド Loc.F-1、中グリッド ε-IV、小グリッド C-1、2 に位置する。

規模と形状

検出長4.50m、最大幅1.20m、最大深度0.08m の溝である。

土層

遺構の堆積土は灰黄色を呈するシルトによる単一層である。

溝（SD2008）（第186図）

位置

大グリッド Loc.F-1、中グリッド ε-IV、小グリッド C、D-1、2 に位置する。

規模と形状

検出長4.00m、最大幅1.90m、最大深度0.06m の溝である。

土層

遺構の堆積土は、にぶい黄色を呈するシルトによる単一層である。

水田跡（第184図）

位置

大グリッド Loc.F-1、中グリッド δ、ε-III、IV、小グリッド Q~G-16~3 に位置する。

規模と形状

調査区全面に水田面を検出した。SD2008を境に北側では東西方向の耕作痕がまとまっているのに対し、南側では一定していない。

土坑（SK2001）（第187図）

位置

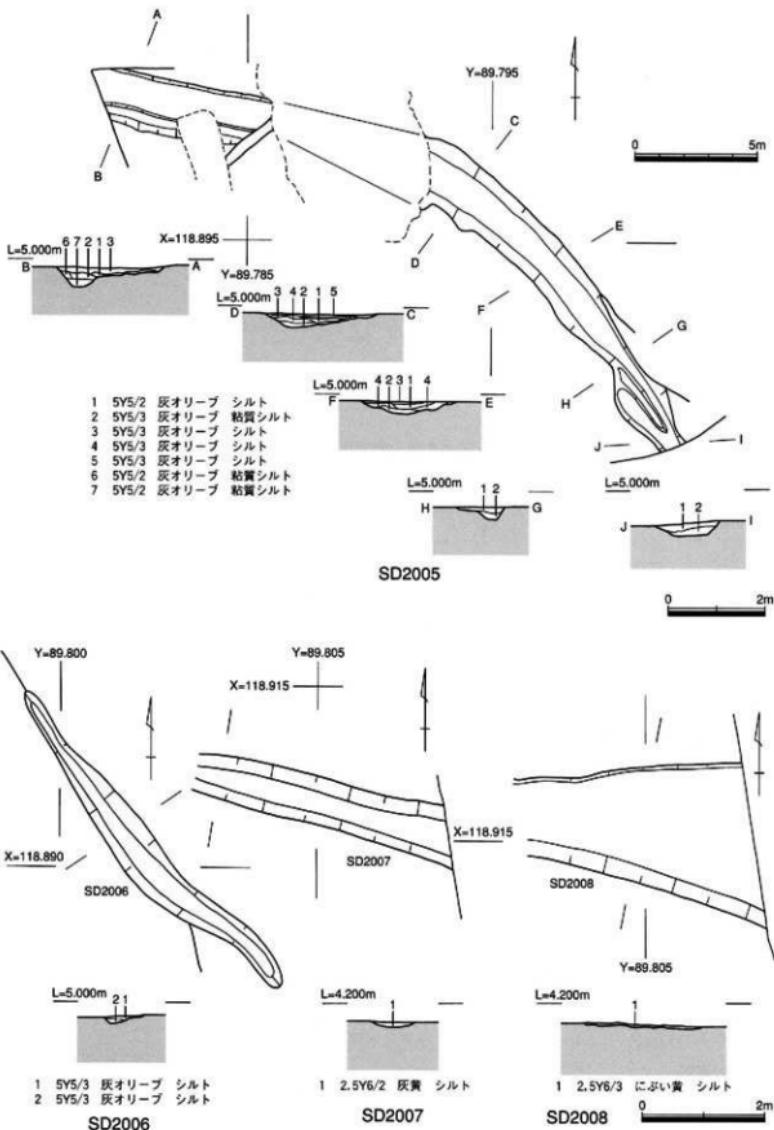
大グリッド Loc.F-1、中グリッド δ-III、小グリッド T-20 に位置する。

規模と形状

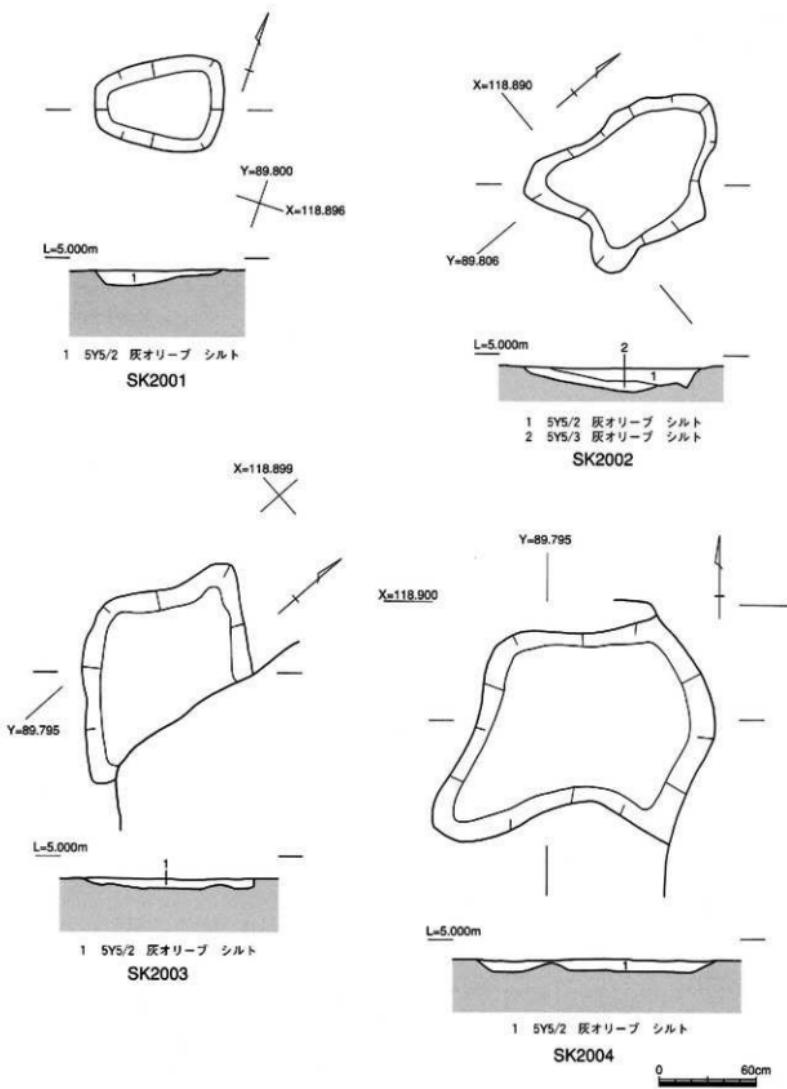
検出長0.78m、最大幅0.58m、最大深度0.08m の楕円形である。

土層

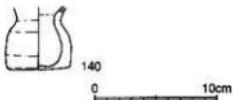
遺構の堆積土は灰オリーブ色を呈するシルトによる単一層である。



第186図 南区（2003年度8区）SD2005・SD2006・SD2007・SD2008平・断面図



第187図 南区（2003年度8区）SK2001・SK2002・SK2003・SK2004平・断面図



第188図 南区（2003年度8区）第2包含層出土遺物

土坑（SK2002）（第187図）

位置

大グリッドLoc.F-1、中グリッドδ-I、小グリッドS-2に位置する。

規模と形状

検出長1.07m、最大幅1.00m、最大深度0.15mの不整形である。

土層

遺構の堆積土は2層に分層した。全て灰オリーブ色を呈するシルト層である。

土坑（SK2003）（第187図）

位置

大グリッドLoc.F-1、中グリッドδ-I、小グリッドT-20に位置する。

規模と形状

検出長1.07m、最大幅0.90m、最大深度0.05mの四角形である。

土層

遺構の堆積土は灰オリーブ色を呈するシルトによる單一層である。

土坑（SK2004）（第187図）

位置

大グリッドLoc.F-1、中グリッドδ-I、小グリッドT-20に位置する。

規模と形状

検出長1.45m、最大幅1.05m、最大深度0.07mの不整形である。

土層

遺構の堆積土は灰オリーブ色を呈するシルトによる單一層である。

第2包含層出土遺物（第188図）

140はミニチュア土器である。

(18) 2003年度 8区（第3造構面）

溝（SD3001）（第190図）

位置

大グリッド Loc.F-1、中グリッド δ-III、小グリッド S、T-18に位置する。

規模と形状

検出長3.60m、最大幅0.36m、最大深度0.20mの溝である。

土層

造構の堆積土は2層に分層した。1層は灰オリーブ色を呈するシルト層である。2層は黄灰色を呈するシルト層である。

溝（SD3002）（第190図）

位置

大グリッド Loc.F-1、中グリッド δ-III、小グリッド S、T-18に位置する。

規模と形状

検出長3.80m、最大幅0.36m、最大深度0.08mの平面形がC字形の溝である。

土層

造構の堆積土は灰オリーブ色を呈するシルトによる單一層である。

溝（SD3003）（第190図）

位置

大グリッド Loc.F-1、中グリッド δ-III、小グリッド S-18に位置する。

規模と形状

検出長4.20m、最大幅1.10m、最大深度0.27mの溝である。

土層

造構の堆積土は4層に分層した。1層は灰オリーブ色を呈するシルト層である。2層は灰オリーブ色を呈する砂質シルト層である。3、4層は暗灰黄色を呈するシルト層である。

水田跡（第184図）

位置

大グリッド Loc.F-1、中グリッド δ、ε-III、IV、小グリッド Q~G-16~3に位置する。

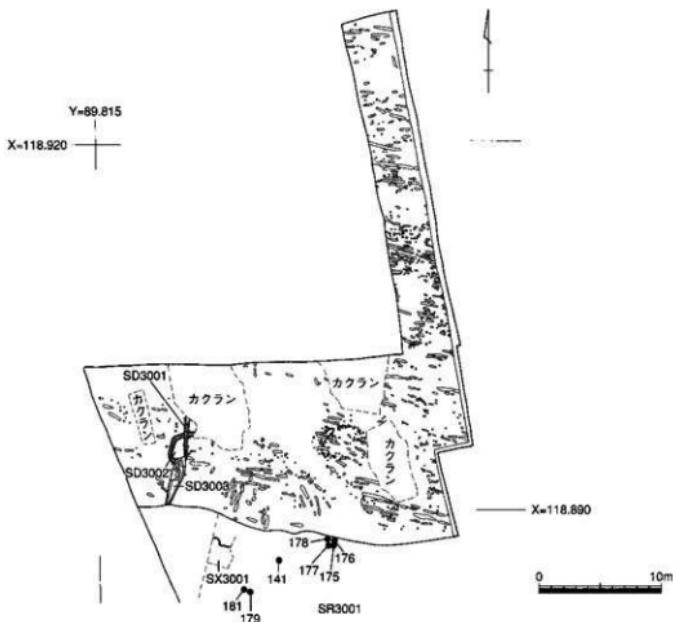
規模と形状

調査区北半に水田面を検出した。区画を示す造構は検出できなかったが、SR3001の北岸の肩と同方向の耕作痕を確認した。

自然流路（SR3001）（第189図）

位置

大グリッド Loc.F-1、中グリッド δ-III、IV、小グリッド Q~S-17~3に位置する。



第189図 南区（2003年度8区）第3造構面 調査区造構平面図・SR3001遺物出土状況ドット図

規模と形状

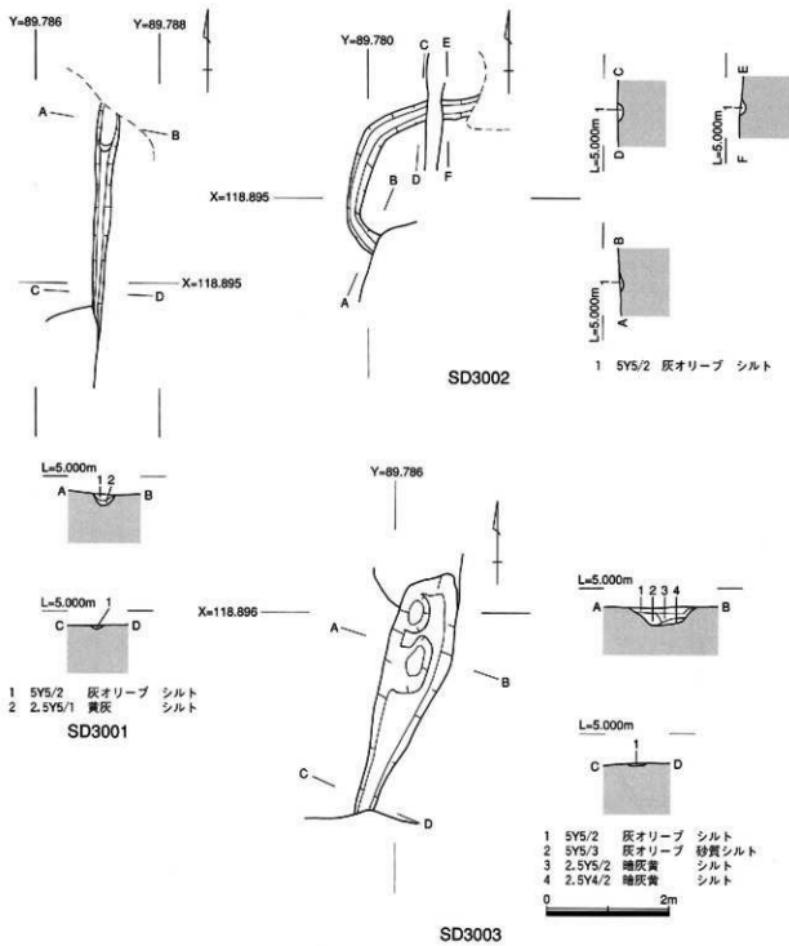
δ-III・S-17からδ-IV・R-3でSR3001の北岸を検出した。これより南側の調査区はすべてSR3001の堆積層となる。

自然流路（SR3001）Ⅲ層出土遺物（第191図）

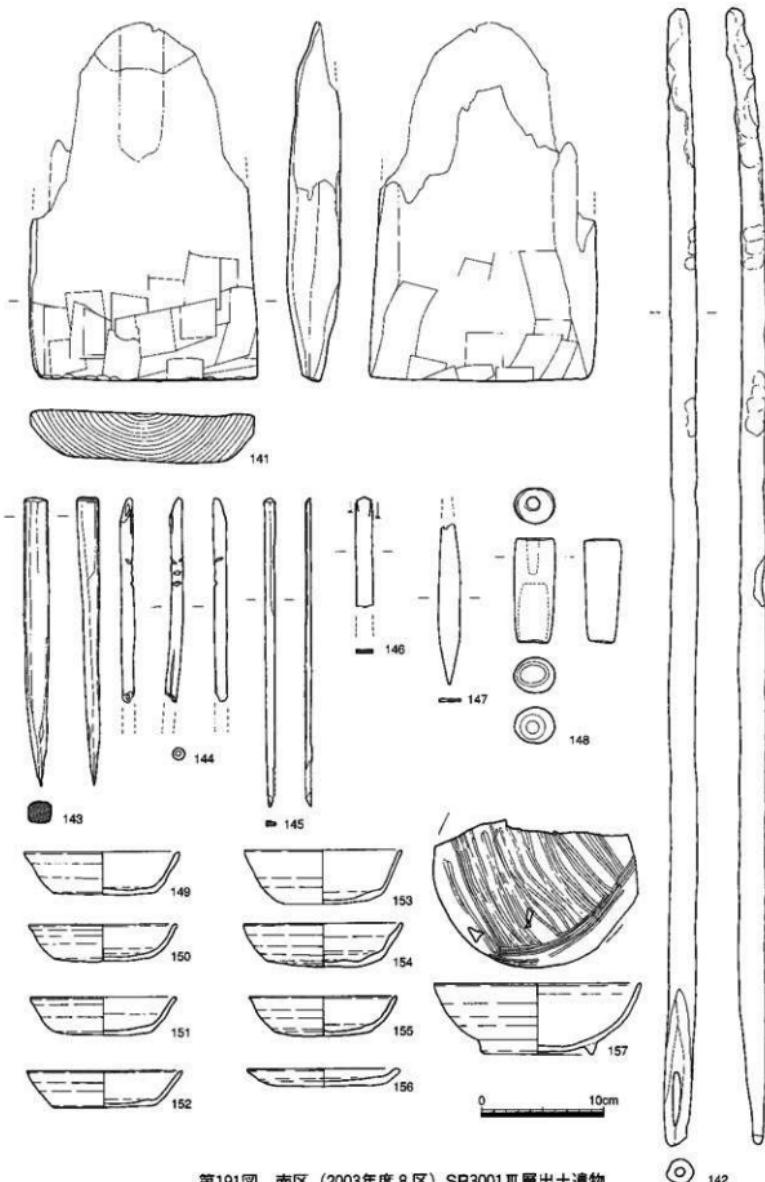
木製品は8点を図化した。141は農具の平衡である。上部には柄が取り付けられていた痕跡がある。下部は削りにより成形している。142は柄である。上部に圧痕がある。143は馬鍬である。144は円筒状人形である。細い木の枝に目、鼻、口を小さく削って表現したものである。145～147は畜串である。148は用途不明品である。円柱状の木製品に両端から穿孔するが貫通していない。149～155は土師器の杯である。156は土師器の皿である。157は黒色土器A類の椀である。

自然流路（SR3001）V層出土遺物（第192、193図）

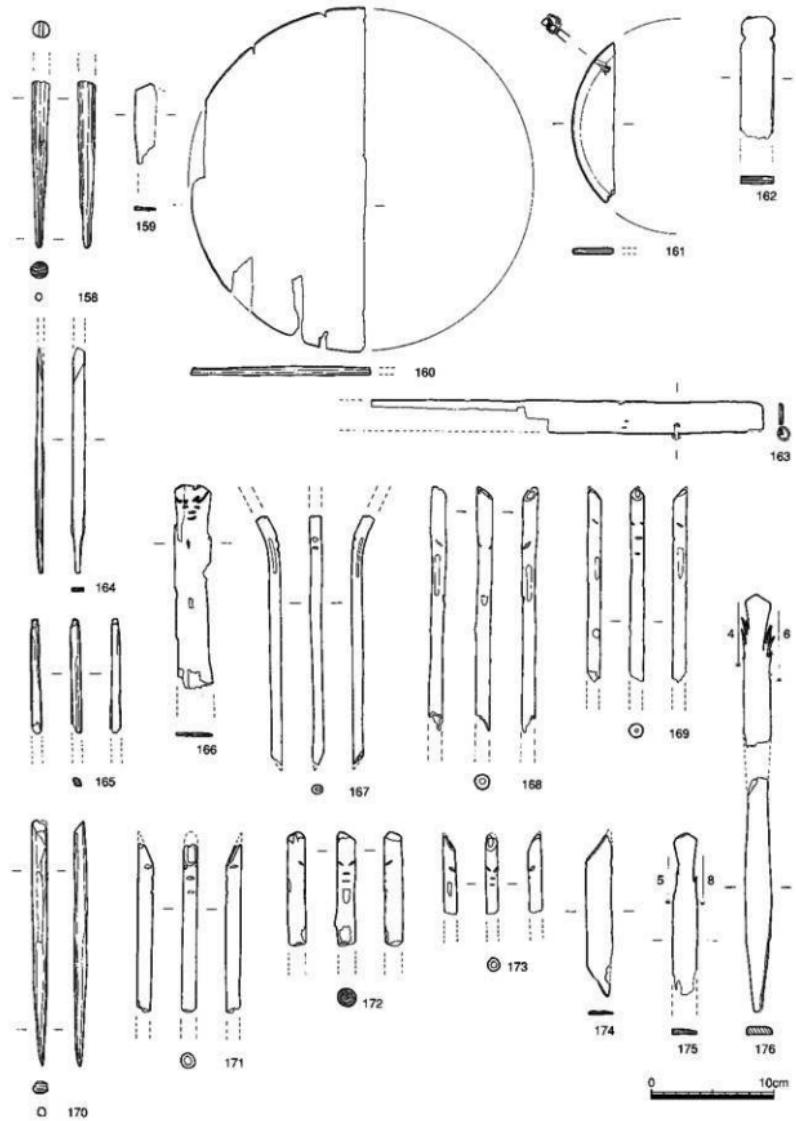
木製品は30点を図化した。158は農具の馬鍬である。159は檜扇の断片である。160、161は円形曲物底板である。162は木札である。163は曲物の側板である。164は剣形、165は紡織具形である。166は正面全身人形である。墨書きで眉、目、鼻等を表現している。胴体に刺孔あり。167～169、171～173は円筒状



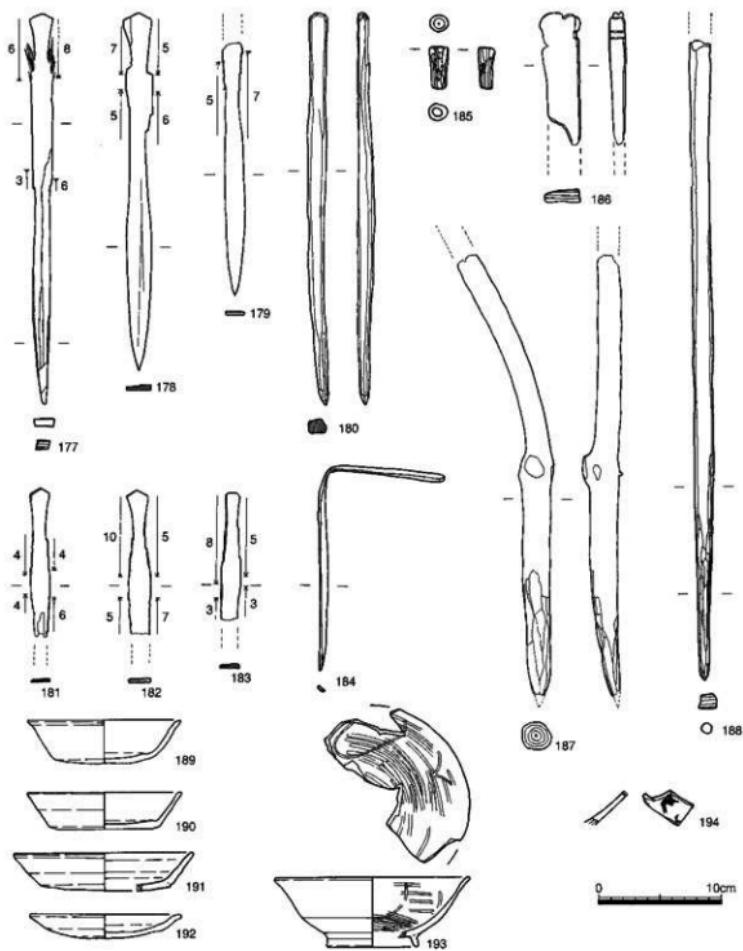
第190図 南区（2003年度8区）SD3001・SD3002・SD3003平・断面図



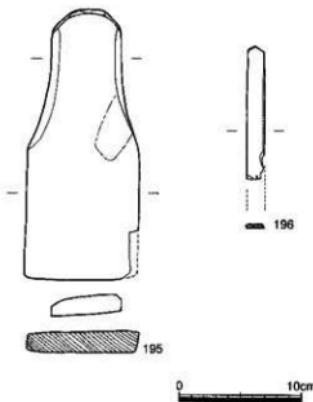
第191図 南区（2003年度8区）SR3001Ⅲ層出土遺物



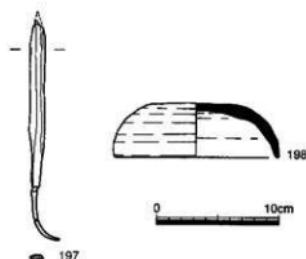
第192図 南区（2003年度8区）SR3001V層出土木製品（農具・服飾具・容器・文房具・祭祀具）



第193図 南区（2003年度8区）SR3001V層出土遺物



第194図 南区（2003年度8区）
SR3001 VI層出土木製品（工具・祭記具）

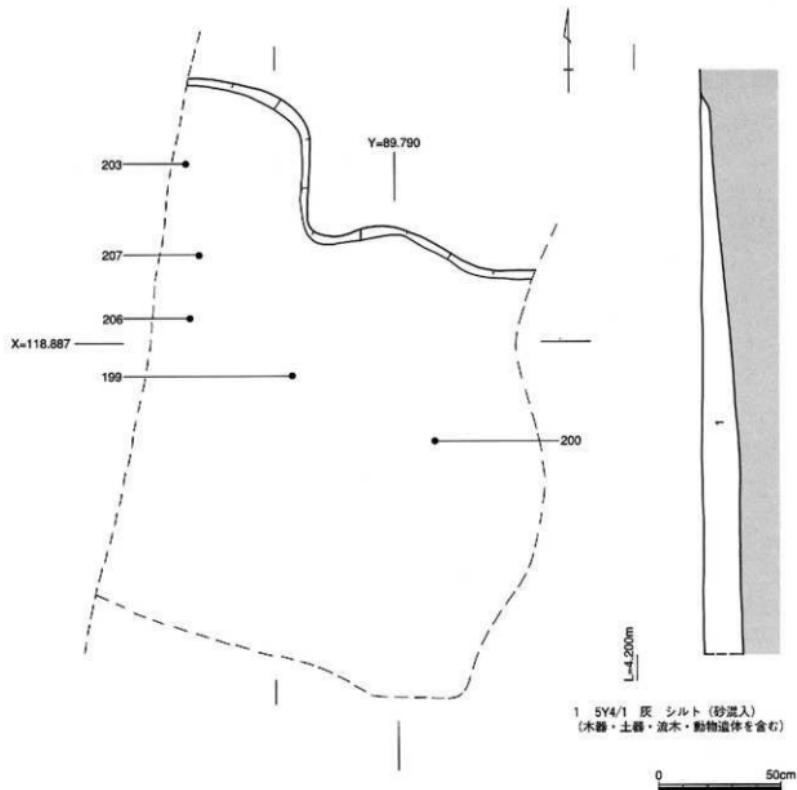


第195図 南区（2003年度8区）
SR3001出土遺物

人形である。170は棒状祭祀具である。両端を尖らせてている。174～184は斎巾である。185は栓状の木製品である。土器は6点を図化した。189～191は土師器の杯である。192は土師器の皿である。193は黒色土器A類の椀である。194は土師器の杯である。外面に墨書きがあるが、文字の判読はできない。

自然流路（SR3001）VII層出土遺物（第194図）

195は雑具の叩板である。両側面を削り、持ち手部分を成形している。196は斎巾である。



第196図 南区（2003年度8区）SX3001平・断面図・遺物出土状況ドット図

自然流路（SR3001）出土遺物（第195図）

197は簀串である。198は須恵器の杯蓋である。

不明造構（SX3001）（第196、197図）

位置

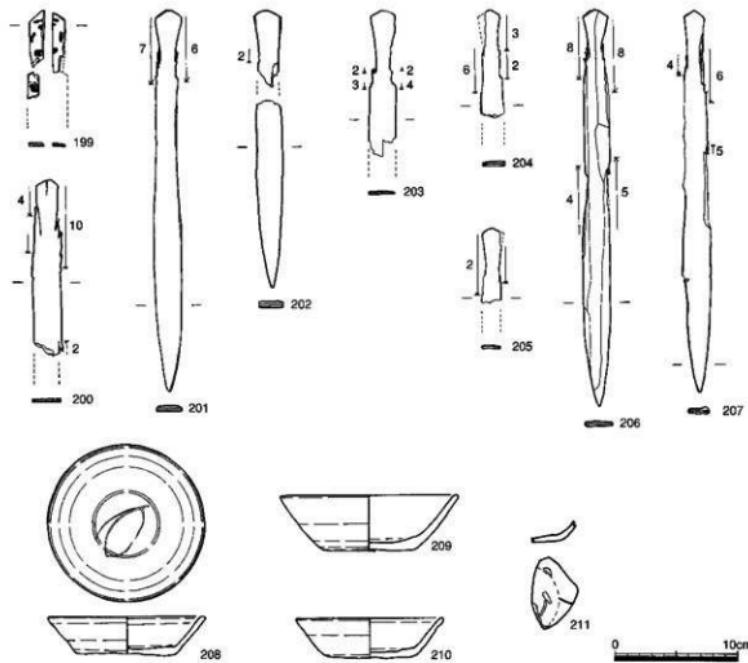
大グリッドLoc.F-1、中グリッドδ-III、小グリッドR-18、19に位置する。

規模と形状

検出長2.30m、最大幅1.65m、最大深度0.16mの造構である。

土層

造構の堆積土は灰色を呈する。木器、土器、流木、動物遺体を含むシルトによる単一層である。



第197図 南区（2003年度8区）SX3001出土遺物

出土遺物

木製品は祭祀具9点を図化した。199は祭祀具の正面全身人形である。200~207は斎串である。土器は4点を図化した。208~211は土師器の杯である。208は内外面ともに煤が付着しており、底部内面にヘラミガキが施される。211は墨書き土器の破片である。文字の判読はできない。

時期

平安時代（9~10世紀）と考えられる。

(19) 2003年度 8区（第4造構面）

溝（SD4001）（第199図）

位置

大グリッドLoc.F-1、中グリッドδ、ε-III、IV、小グリッドS~A-17~2に位置する。

規模と形状

検出長27.50m、最大幅1.60m、最大深度0.42mの溝である。N-73°-Wを軸とした直線状を呈する。

土層

A-Bは6層に分層した。1層は灰オリーブ色を呈するシルト層である。2層は黄褐色を呈するシルト層である。3層～6層は灰オリーブ色を呈するシルト層である。

C-Dは5層に分層した。1層、2層は黄褐色を呈するシルト層である。3層～5層はオリーブ褐色を呈するシルト層である。

E-F、G-Hは3層に分層した。1層、2層は黄褐色を呈するシルト層である。3層はオリーブ褐色を呈するシルト層である。

I-Jは4層に分層した。1層、2層は黄褐色を呈するシルト層である。3層、4層はオリーブ褐色を呈するシルト層である。

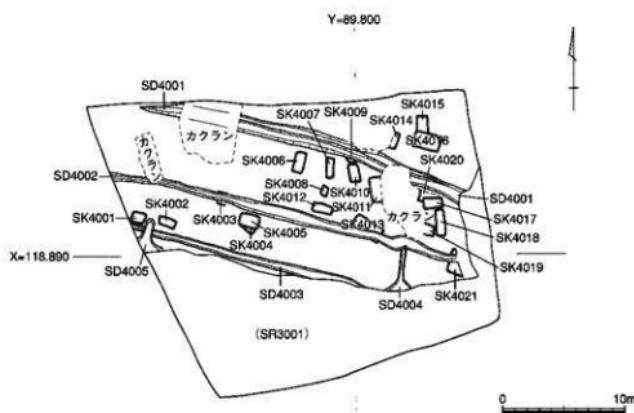
溝（SD4002）（第200図）

位置

大グリッドLoc.F-1、中グリッドδ-III、IV、小グリッドR-T-17~2に位置する。

規模と形状

検出長29.50m、最大幅1.10m、最大深度0.22mの溝である。N-76°-Wを軸とした直線状を呈する。



第198図 南区（2003年度 8区）第4造構面 調査区造構平面図

土層

A-B、C-Dは、灰オリーブ色を呈するシルトによる単一層である。

E-F、G-H、I-Jは、3層に分層した。1層は、にぶい黄色を呈するシルト層である。2層は黄褐色を呈するシルト層である。3層は灰オリーブ色を呈するシルト層である。

K-Lは2層に分層した。1層はにぶい黄色を呈するシルト層である。2層は黄褐色を呈するシルト層である。

溝（SD4003）（第201図）

位置

大グリッド Loc.F-1、中グリッド δ-Ⅲ、Ⅳ、小グリッド R、S-17~1に位置する。

規模と形状

検出長20.00m、最大幅1.10m、最大深度0.50mの溝である。N-75°-Wを軸とした直線状を呈する。

土層

造構の堆積土はオリーブ褐色を呈するシルトによる単一層である。

溝（SD4004）（第201図）

位置

大グリッド Loc.F-1、中グリッド δ-Ⅳ、小グリッド R、S-1に位置する。

規模と形状

検出長3.60m、最大幅1.90m、最大深度0.22mの溝である。南端は広がった漏斗状を呈する。

土層

造構の堆積土は2層に分層した。1層は灰オリーブ色を呈するシルト層である。2層はオリーブ褐色を呈するシルト層である。

溝（SD4005）（第201図）

位置

大グリッド Loc.F-1、中グリッド δ-Ⅲ、小グリッド S-17に位置する。

規模と形状

検出長2.90m、最大幅2.00m、最大深度0.06mの溝である。南端が広がった漏斗状を呈する。

土層

造構の堆積土は黄褐色を呈するシルトによる單一層である。

土坑（SK4001）（第202図）

位置

大グリッド Loc.F-1、中グリッド δ-Ⅲ、小グリッド S-17に位置する。

規模と形状

検出長1.15m、最大幅0.88m、最大深度0.16mの長方形である。

土層

造構の堆積土は2層に分層した。全てオリーブ褐色を呈するシルト層である。

土坑（SK4002）（第202図）

位置

大グリッド Loc.F-1、中グリッド δ-III、小グリッド S-17に位置する。

規模と形状

検出長1.38m、最大幅0.72m、最大深度0.12m の長方形である。

土層

造構の堆積土は2層に分層した。全てオリーブ褐色を呈するシルト層である。

土坑（SK4003）（第203図）

位置

大グリッド Loc.F-1、中グリッド δ-III、小グリッド S-18に位置する。

規模と形状

検出長0.72m、最大幅0.45m、最大深度0.08m の四角形である。

土層

造構の堆積土はオリーブ褐色を呈するシルトによる單一層である。

土坑（SK4004）（第203図）

位置

大グリッド Loc.F-1、中グリッド δ-III、小グリッド S-19に位置する。

規模と形状

検出長1.40m、最大幅0.40m、最大深度0.35m の三角形である。

土層

造構の堆積土は灰オリーブ色を呈するシルトによる單一層である。

土坑（SK4005）（第204図）

位置

大グリッド Loc.F-1、中グリッド δ-III、小グリッド S-19に位置する。

規模と形状

検出長1.70m、最大幅1.19m、最大深度0.07m の長方形である。

土層

造構の堆積土は黄褐色を呈するシルトによる單一層である。

土坑（SK4006）（第204図）

位置

大グリッド Loc.F-1、中グリッド δ-III、小グリッド T-20に位置する。

規模と形状

検出長1.75m、最大幅0.85m、最大深度0.09m の長方形である。

土層

遺構の堆積土はオリーブ褐色を呈するシルトによる単一層である。

土坑（SK4007）（第205図）

位置

大グリッド Loc.F-1、中グリッド 8-I、小グリッド T-20に位置する。

規模と形状

検出長1.73m、最大幅0.60m、最大深度0.35m の長方形である。

土層

遺構の堆積土はオリーブ褐色を呈するシルトによる単一層である。

土坑（SK4008）（第205図）

位置

大グリッド Loc.F-1、中グリッド 8-I、小グリッド T-20に位置する。

規模と形状

検出長1.68m、最大幅0.78m、最大深度0.06m の長方形である。

土層

遺構の堆積土はオリーブ褐色を呈するシルトによる単一層である。

土坑（SK4009）（第205図）

位置

大グリッド Loc.F-1、中グリッド 8-I、小グリッド T-20に位置する。

規模と形状

検出長0.72m、最大幅0.40m、最大深度0.27m の半円形である。

土層

遺構の堆積土は3層に分層した。1層は灰オリーブ色を呈するシルト層である。2層は黄褐色を呈するシルト層である。3層はオリーブ褐色を呈する砂質シルト層である。

土坑（SK4010）（第206図）

位置

大グリッド Loc.F-1、中グリッド 8-I、小グリッド T-20に位置する。

規模と形状

検出長1.50m、最大幅0.83m、最大深度0.18m の長方形である。

土層

遺構の堆積土は2層に分層した。1層はオリーブ褐色を呈するシルト層である。2層は黄褐色を呈する砂質シルト層である。

土坑（SK4011）（第206図）

位置

大グリッド Loc.F-1、中グリッド δ-IV、小グリッド T-1 に位置する。

規模と形状

検出長2.00m、最大幅0.75m、最大深度0.08m の長方形である。

土層

遺構の堆積土はオリーブ褐色を呈するシルトによる単一層である。

土坑（SK4012）（第207図）

位置

大グリッド Loc.F-1、中グリッド δ-III、小グリッド S-20 に位置する。

規模と形状

検出長1.70m、最大幅0.74m、最大深度0.24m の長方形である。

土層

遺構の堆積土は3層に分層した。1層、2層は黄褐色を呈するシルト層である。3層はオリーブ褐色を呈するシルト層である。

土坑（SK4013）（第207図）

位置

大グリッド Loc.F-1、中グリッド δ-IV、小グリッド T-1 に位置する。

規模と形状

検出長3.10m、最大幅1.20m、最大深度0.45m の不等辺三角形である。

土層

遺構の堆積土は4層に分層した。1層、2層は黄褐色を呈するシルト層である。3、4層はオリーブ褐色を呈するシルト層である。

土坑（SK4014）（第208図）

位置

大グリッド Loc.F-1、中グリッド δ-IV、小グリッド T-1 に位置する。

規模と形状

検出長1.41m、最大幅0.48m、最大深度0.17m の長方形である。

土層

遺構の堆積土は2層に分層した。1層は暗オリーブ色を呈するシルト層である。2層は黄褐色を呈するシルト層である。

土坑（SK4015）（第208図）

位置

大グリッド Loc.F-1、中グリッド δ-IV、小グリッド A-2 に位置する。

規模と形状

検出長1.30m、最大幅0.86m、最大深度0.32m の長方形である。

土層

遺構の堆積土は3層に分層した。1層は黄褐色を呈するシルト層である。2層はオリーブ褐色を呈するシルト層である。3層はオリーブ褐色を呈する砂質シルト層である。

土坑（SK4016）（第209図）

位置

大グリッド Loc.F-1、中グリッド δ-IV、小グリッド T-2 に位置する。

規模と形状

検出長2.18m、最大幅1.38m、最大深度0.39m の長方形である。

土層

遺構の堆積土は3層に分層した。1層は灰オリーブ色を呈するシルト層である。2層、3層は暗オリーブ色を呈するシルト層である。

土坑（SK4017）（第209図）

位置

大グリッド Loc.F-1、中グリッド δ-IV、小グリッド S-2 に位置する。

規模と形状

検出長1.61m、最大幅0.83m、最大深度0.13m の長方形である。

土層

遺構の堆積土は灰オリーブ色を呈するシルトによる単一層である。

土坑（SK4018）（第210図）

位置

大グリッド Loc.F-1、中グリッド δ-IV、小グリッド S-2 に位置する。

規模と形状

検出長2.23m、最大幅0.78m、最大深度0.13m の長方形である。

土層

遺構の堆積土は灰オリーブ色を呈するシルトによる単一層である。

土坑（SK4019）（第210図）

位置

大グリッド Loc.F-1、中グリッド δ-IV、小グリッド S-2 に位置する。

規模と形状

検出長0.93m、最大幅0.91m、最大深度0.13m の四角形である。

土層

遺構の堆積土は黄褐色を呈するシルトによる単一層である。

土坑（SK4020）（第211図）

位置

大グリッド Loc.F-1、中グリッド δ-N、小グリッド S-2 に位置する。

規模と形状

検出長1.70m、最大幅0.90m、最大深度0.14m であるが、他の遺構に切られて元の形状は不明である。

土層

遺構の堆積土は黄褐色を呈するシルトによる単一層である。

土坑（SK4021）（第211図）

位置

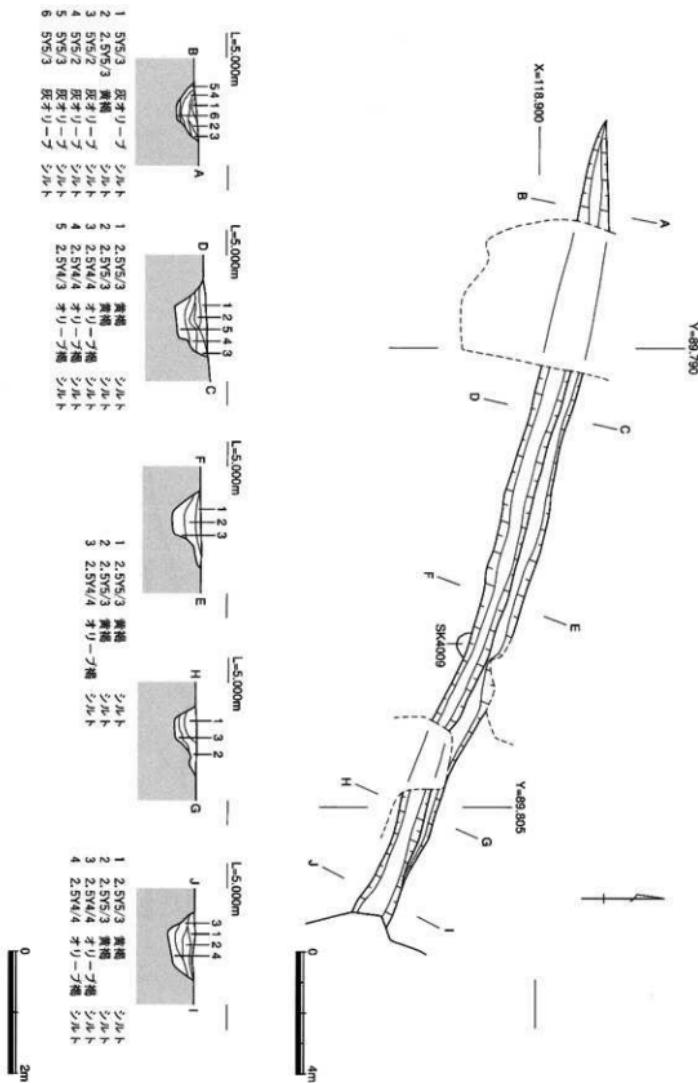
大グリッド Loc.F-1、中グリッド δ-N、小グリッド R-2 に位置する。

規模と形状

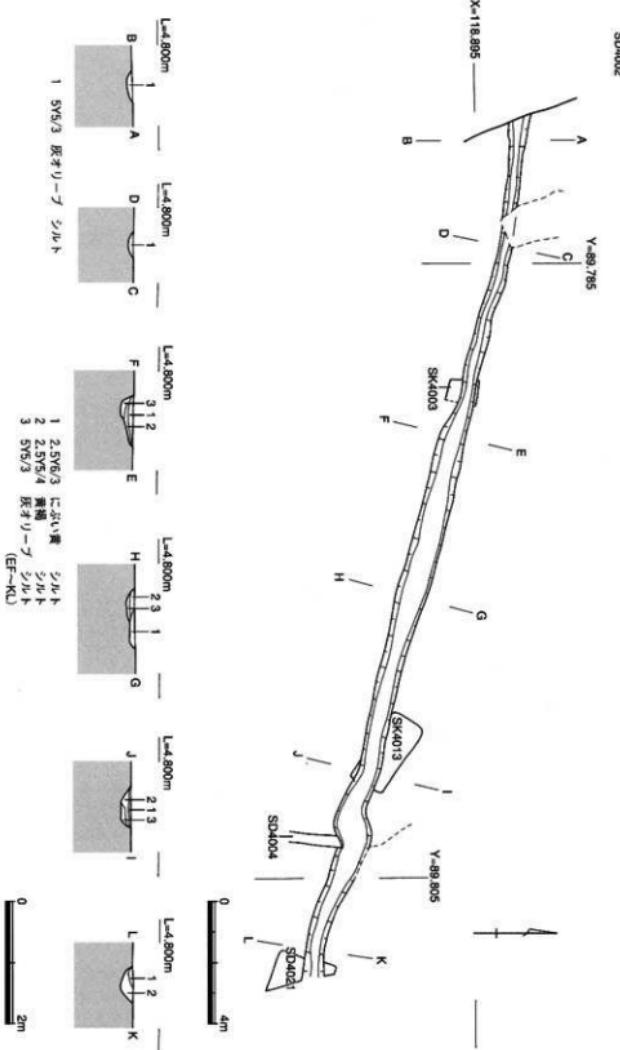
検出長2.01m、最大幅1.14m、最大深度0.32m であるが、他の遺構に切られて形状は不明である。

土層

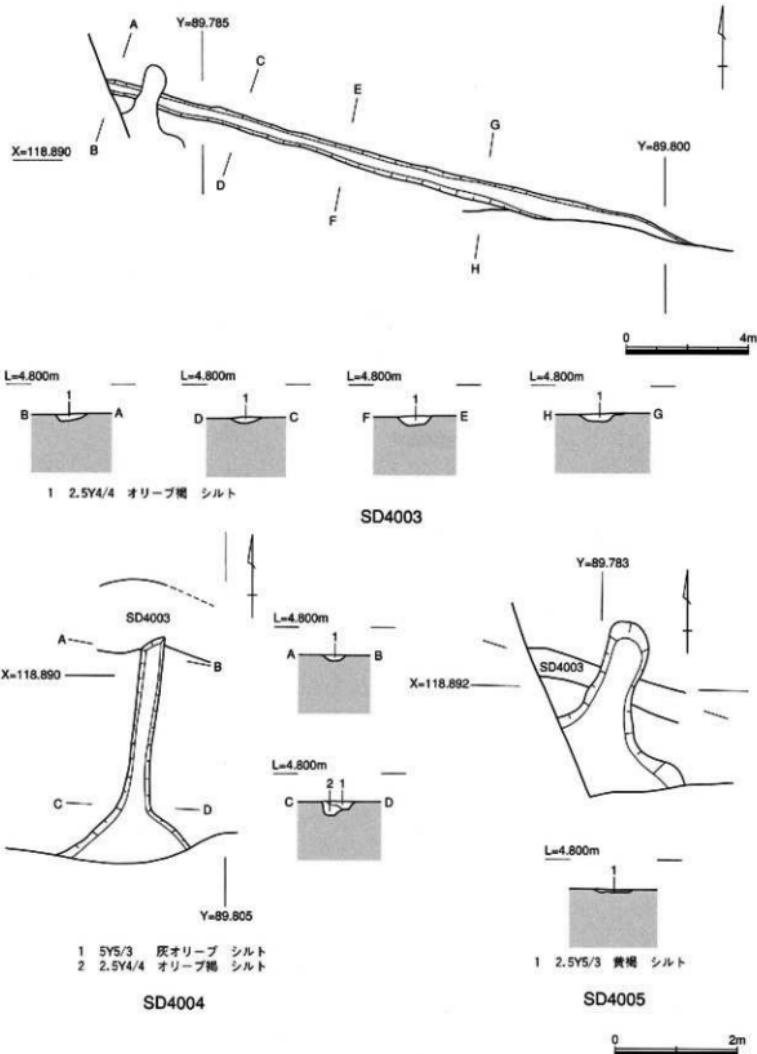
遺構の堆積土は3層に分層した。1層は灰オリーブ色を呈するシルト層である。2層は黄褐色を呈するシルト層である。3層はオリーブ褐色を呈するシルト層である。



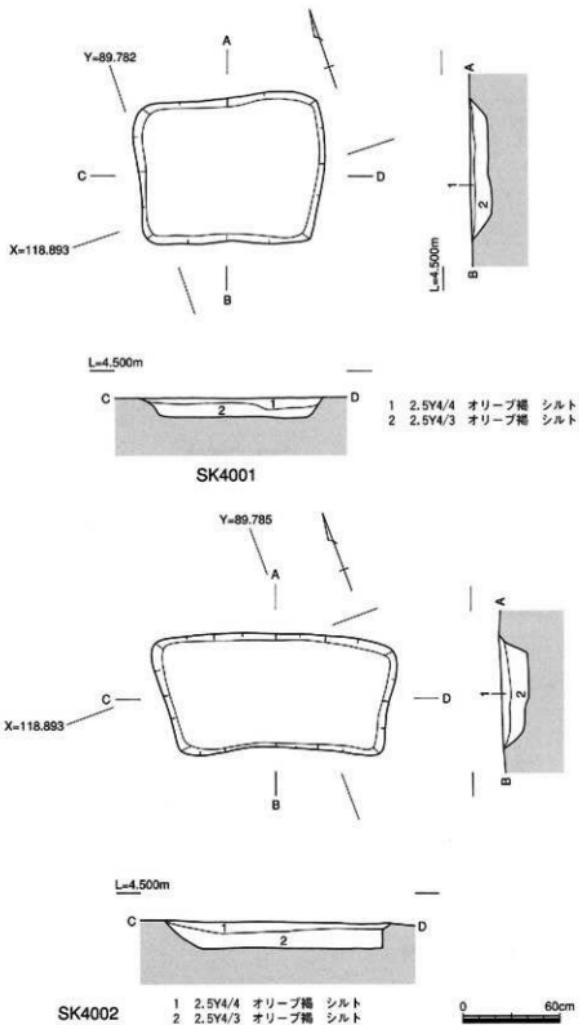
第199図 南区 (2003年度8区) SD4001平・断面図



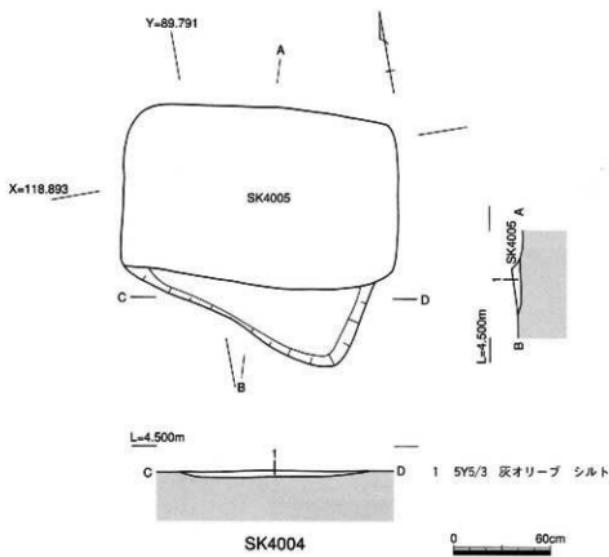
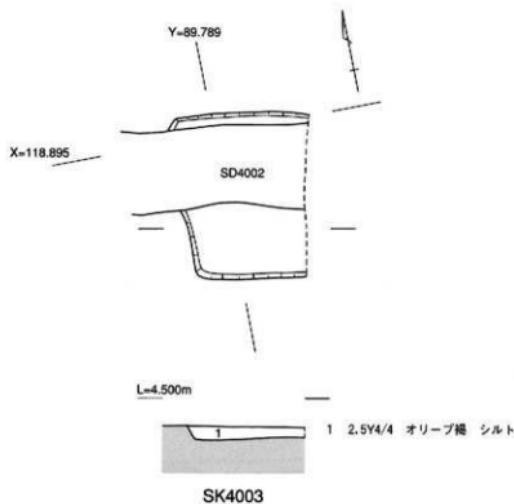
第200図 南区（2003年度8区）SD4002平・断面図



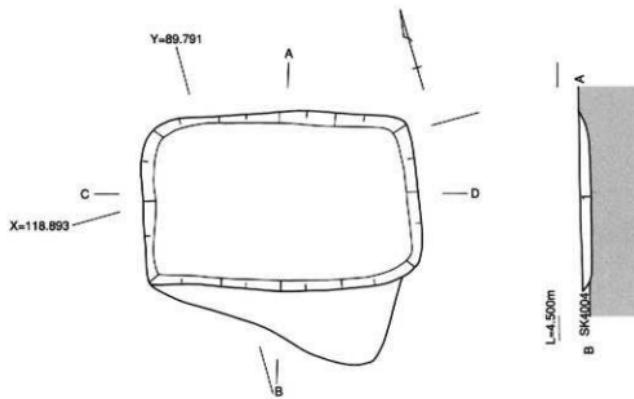
第201図 南区（2003年度8区）SD4003・SD4004・SD4005平・断面図



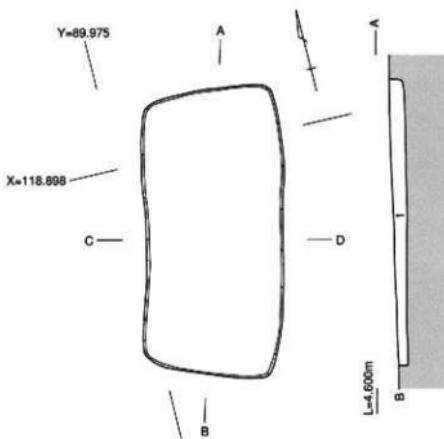
第202図 南区（2003年度 8区）SK4001・SK4002平・断面図



第203図 南区（2003年度8区）SK4003・SK4004平・断面図

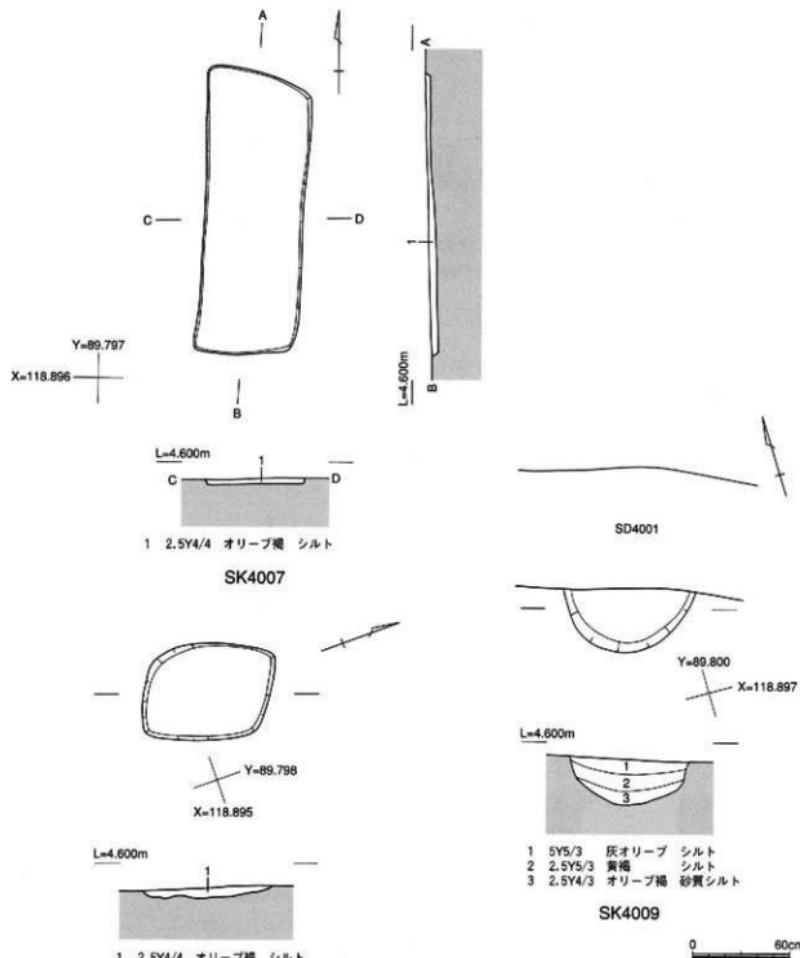


1 2.5Y5/3 黄緑 シルト

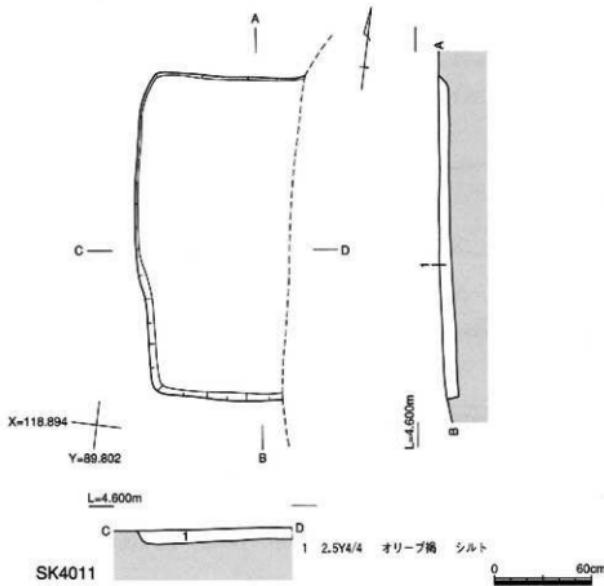
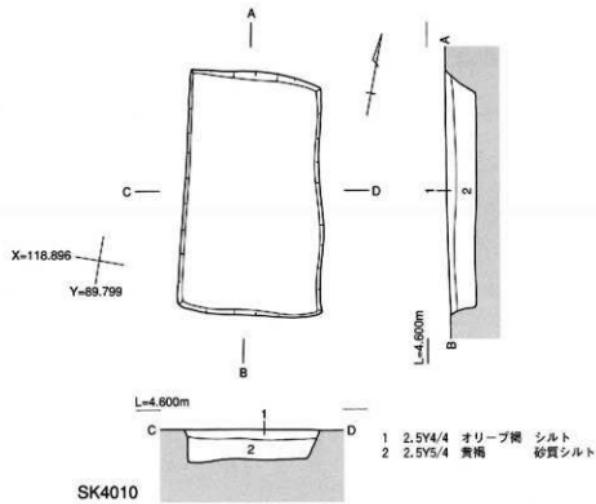


1 2.5Y4/4 オリーブ緑 シルト 0 60cm

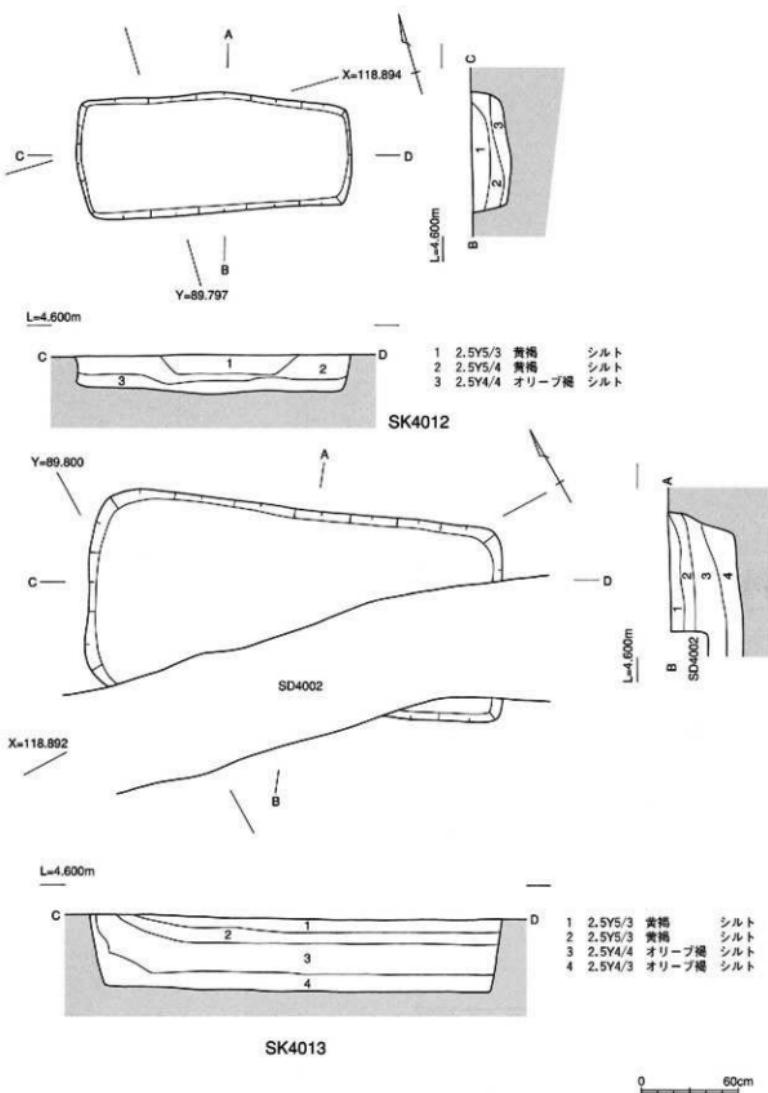
第204図 南区（2003年度8区）SK4005・SK4006平・断面図



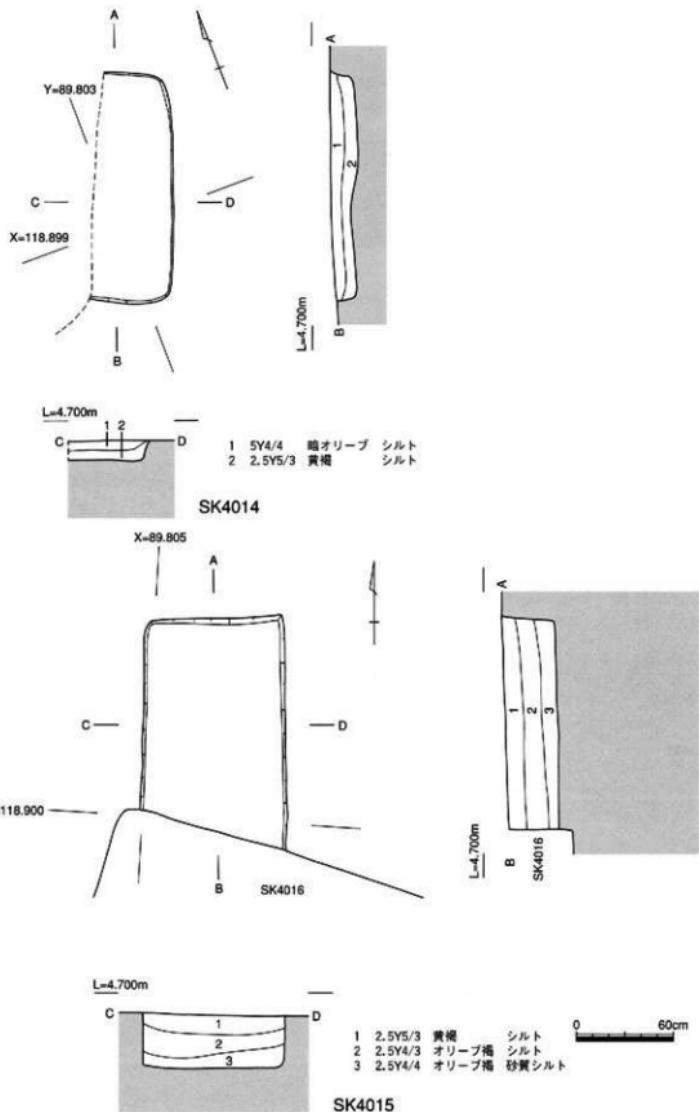
第205図 南区（2003年度8区）SK4007・SK4008・SK4009平・断面図



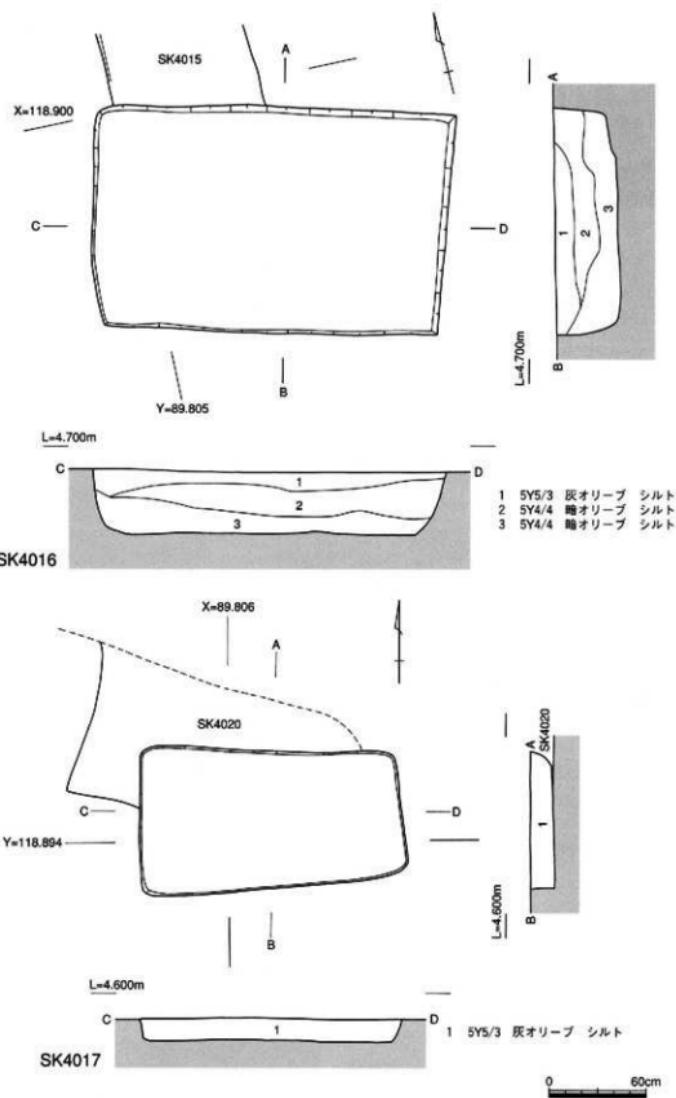
第206図 南区（2003年度8区）SK4010・SK4011平・断面図



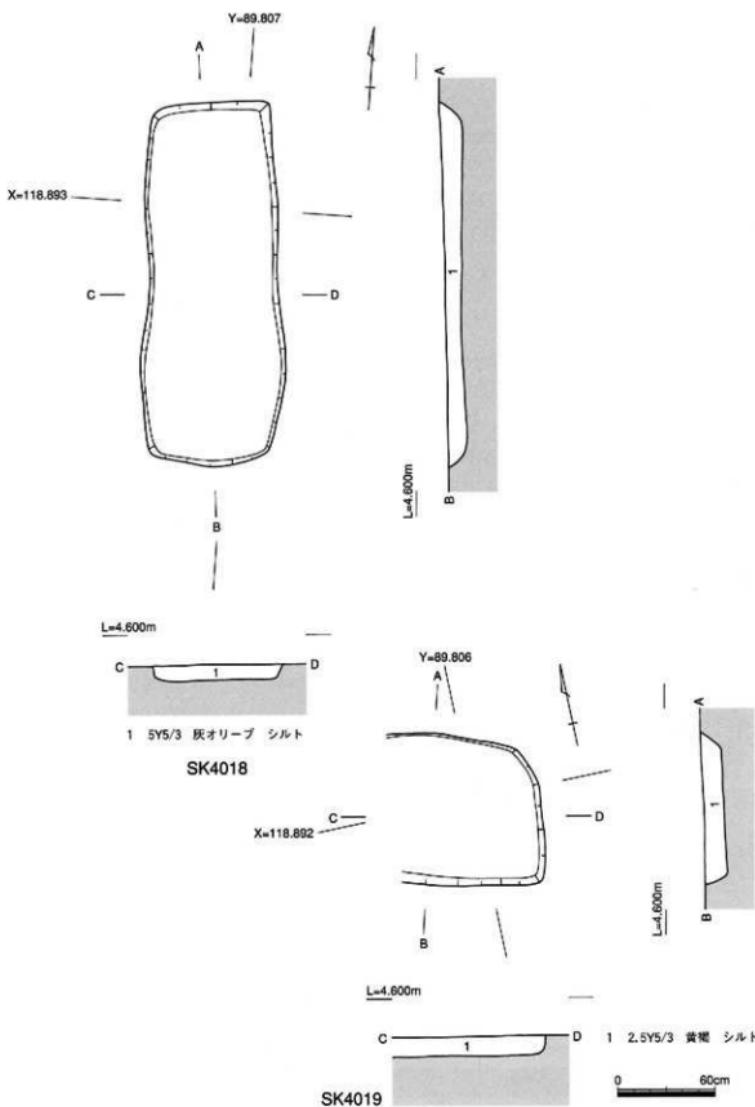
第207図 南区（2003年度8区）SK4012・SK4013平・断面図



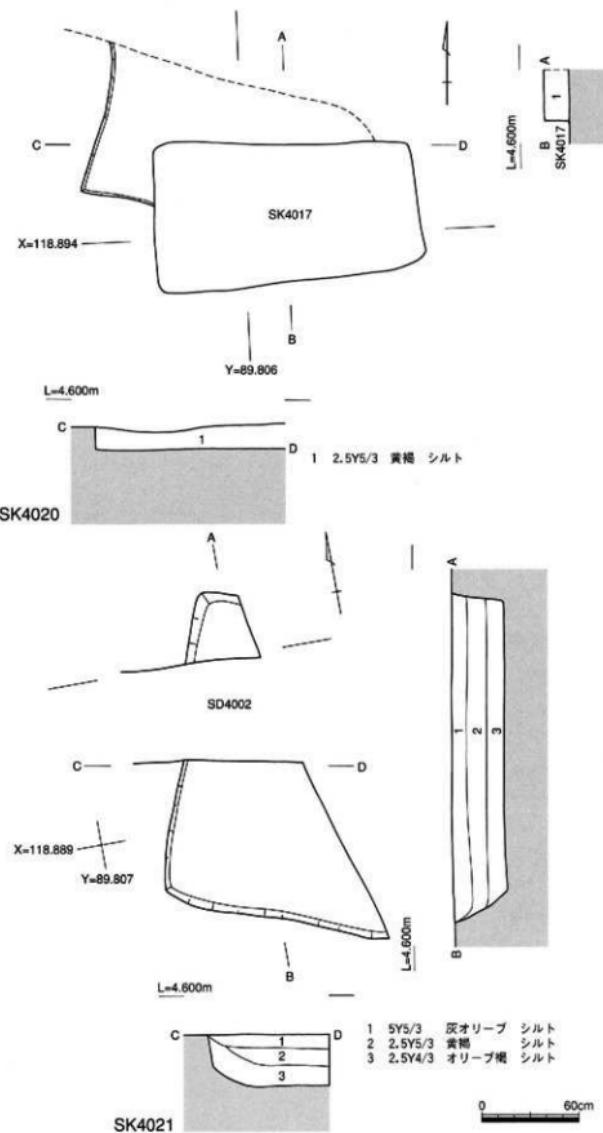
第208図 南区（2003年度8区）SK4014・SK4015平・断面図



第209図 南区（2003年度8区）SK4016・SK4017平・断面図



第210図 南区（2003年度8区）SK4018・SK4019平・断面図



第211図 南区（2003年度8区）SK4020・SK4021平・断面図

(20) 2003年度 8区（第5遺構面）

溝（SD5001）（第213図）

位置

大グリッド Loc.F-1、中グリッド δ-Ⅲ、Ⅳ、小グリッド S、T-17~1に位置する。

規模と形状

検出長23.00m、最大幅0.29m、最大深度0.36mの溝である。N-80°-Wを軸とした直線状を呈するが、西端は幅が広がる。

土層

A-Bは2層に分層した。1層は黄褐色を呈するシルト層である。2層はオリーブ褐色を呈するシルト層である。

C-Dは黄褐色を呈するシルトによる単一層である。

E-Fは3層に分層した。1層はオリーブ褐色を呈するシルト層である。2層は黄褐色を呈するシルト層である。3層はオリーブ褐色を呈するシルト層である。

G-Hは黄褐色を呈するシルトによる単一層である。

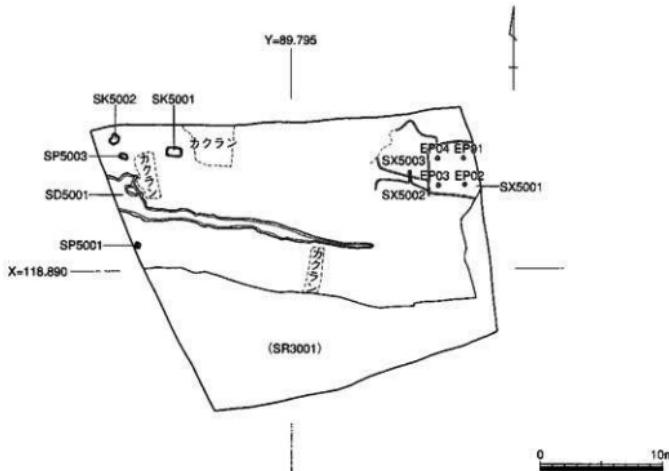
土坑（SK5001）（第214図）

位置

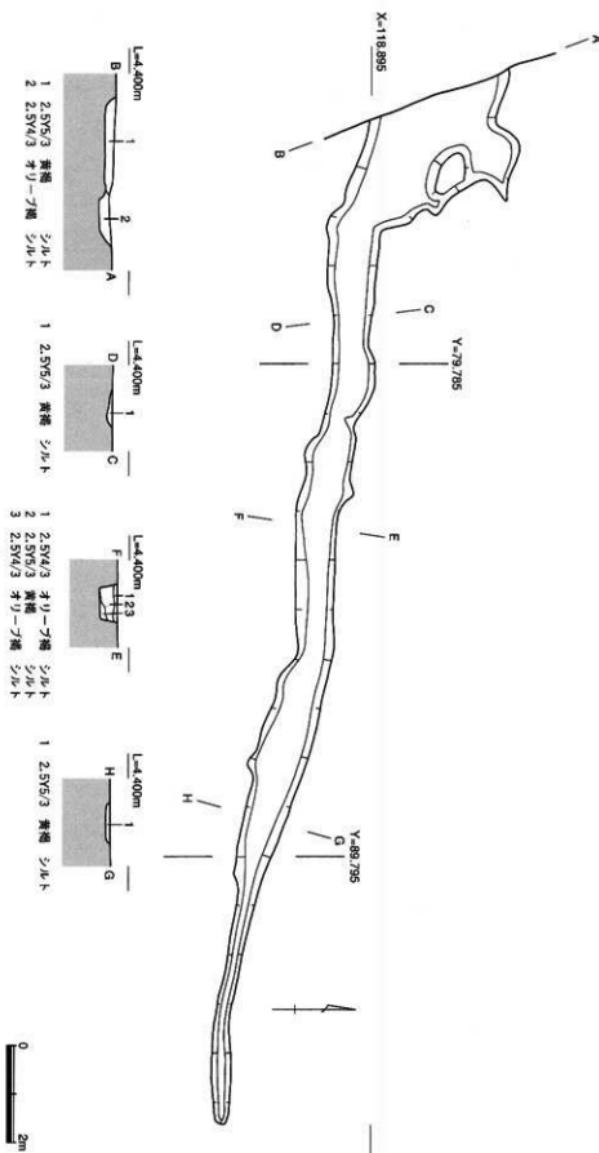
大グリッド Loc.F-1、中グリッド δ-Ⅲ、小グリッド T-17に位置する。

規模と形状

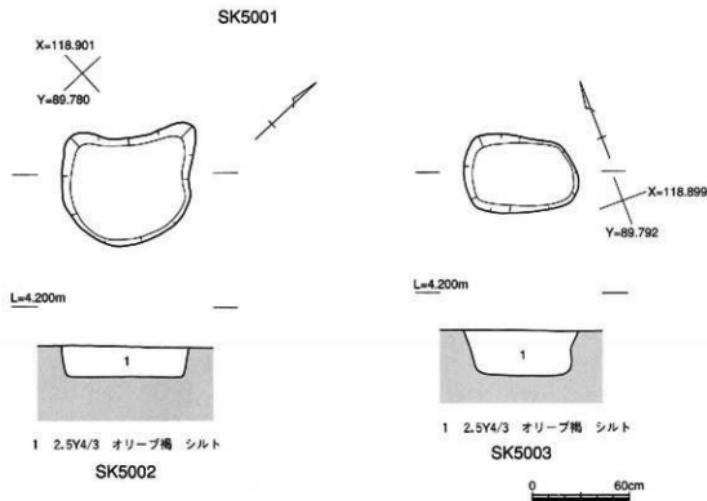
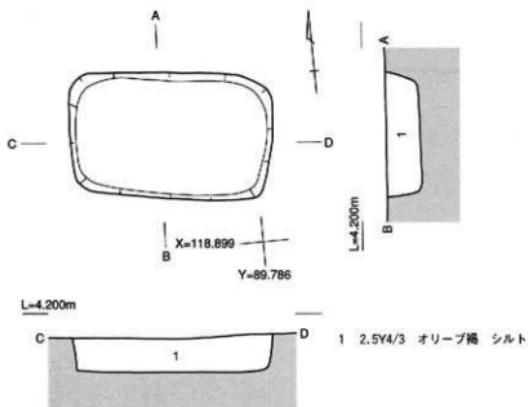
検出長1.23m、最大幅0.76m、最大深度0.20mの長方形である。



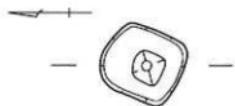
第212図 南区（2003年度 8区）第5遺構面 調査区遺構平面図



第213図 南区(2003年度8区) SD5001平・断面図

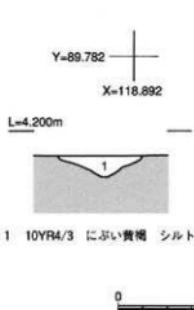


第214図 南区（2003年度8区）SK5001・SK5002・SK5003平・断面図



土層

遺構の堆積土はオリーブ褐色を呈するシルトによる単一層である。



土坑 (SK5002) (第214図)

位置

大グリッド Loc.F-1、中グリッド δ-III、小グリッド A-17に位置する。

規模と形状

検出長0.78m、最大幅0.45m、最大深度0.17mの不整形である。

土層

遺構の堆積土はオリーブ褐色を呈するシルトによる単一層である。

第215図 南区（2003年度8区）
SP5001平・断面図

土坑 (SK5003) (第214図)

位置

大グリッド Loc.F-1、中グリッド δ-III、小グリッド T-17に位置する。

規模と形状

検出長0.70m、最大幅0.46m、最大深度0.28mの楕円形である。

土層

遺構の堆積土はオリーブ褐色を呈するシルトによる単一層である。

柱穴 (SP5001) (第215図)

位置

大グリッド Loc.F-1、中グリッド δ-III、小グリッド S-17に位置する。

規模と形状

検出長0.34m、最大幅0.31m、最大深度0.09mの四角形である。

土層

遺構の堆積土は、にぶい黄褐色を呈するシルトによる単一層である。

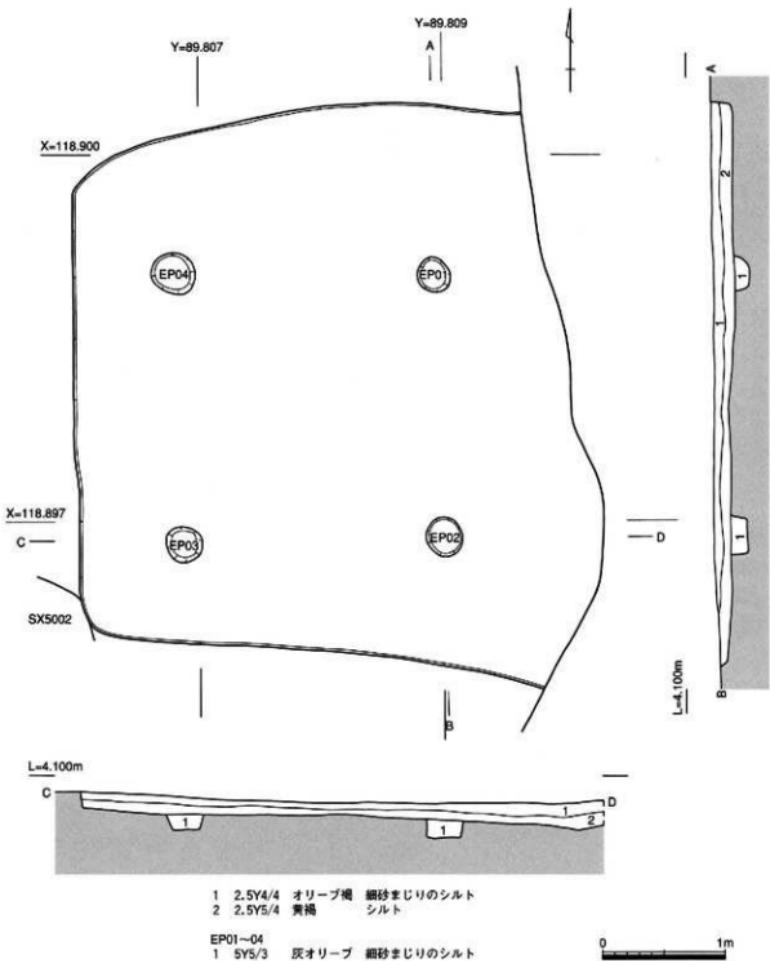
不明遺構 (SX5001) (第216図)

位置

大グリッド Loc.F-1、中グリッド δ-IV、小グリッド T-2に位置する。

規模と形状

検出長4.50m、最大幅4.11m、最大深度0.22mの正方形である。



第216図 南区（2003年度8区）SX5001（EP01・EP02・EP03・EP04）平・断面図

土層

遺構の堆積土は2層に分層した。1層はオリーブ褐色を呈する細砂混じりシルト層である。2層は黄褐色を呈するシルト層である。

不明遺構内柱穴（SX5001EP01）（第216図）

位置

大グリッド Loc.F-1、中グリッド δ-IV、小グリッド T-2 に位置する。

規模と形状

検出長0.30m、最大幅0.28m、最大深度0.19m の円形である。

土層

遺構の堆積土は灰オリーブ色を呈する細砂混じりシルトによる單一層である。

不明遺構内柱穴（SX5001EP02）（第216図）

位置

大グリッド Loc.F-1、中グリッド δ-IV、小グリッド T-2 に位置する。

規模と形状

検出長0.30m、最大幅0.28m、最大深度0.18m の円形である。

土層

遺構の堆積土は灰オリーブ色を呈する細砂混じりシルトによる單一層である。

不明遺構内柱穴（SX5001EP03）（第216図）

位置

大グリッド Loc.F-1、中グリッド δ-IV、小グリッド T-2 に位置する。

規模と形状

検出長0.30m、最大幅0.30m、最大深度0.17m の円形である。

土層

遺構の堆積土は灰オリーブ色を呈する細砂混じりシルトによる單一層である。

不明遺構内柱穴（SX5001EP04）（第216図）

位置

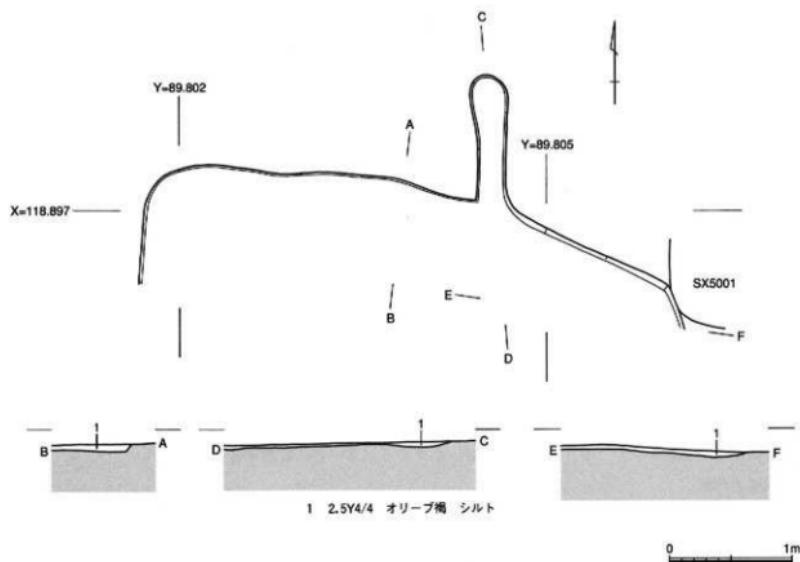
大グリッド Loc.F-1、中グリッド δ-IV、小グリッド T-2 に位置する。

規模と形状

検出長0.36m、最大幅0.34m、最大深度0.28m の円形である。

土層

遺構の堆積土は灰オリーブ色を呈する細砂混じりシルトによる單一層である。



第217図 南区（2003年度8区）SX5002平・断面図

不明遺構（SX5002）（第217図）

位置

大グリッドLoc.F-1、中グリッドδ-IV、小グリッドF-1に位置する。

規模と形状

検出長4.50m、最大幅2.00m、最大深度0.06mの不定形である。

土層

遺構の堆積土はオリーブ褐色を呈するシルトによる単一層である。

不明遺構（SX5003）（第218図）

位置

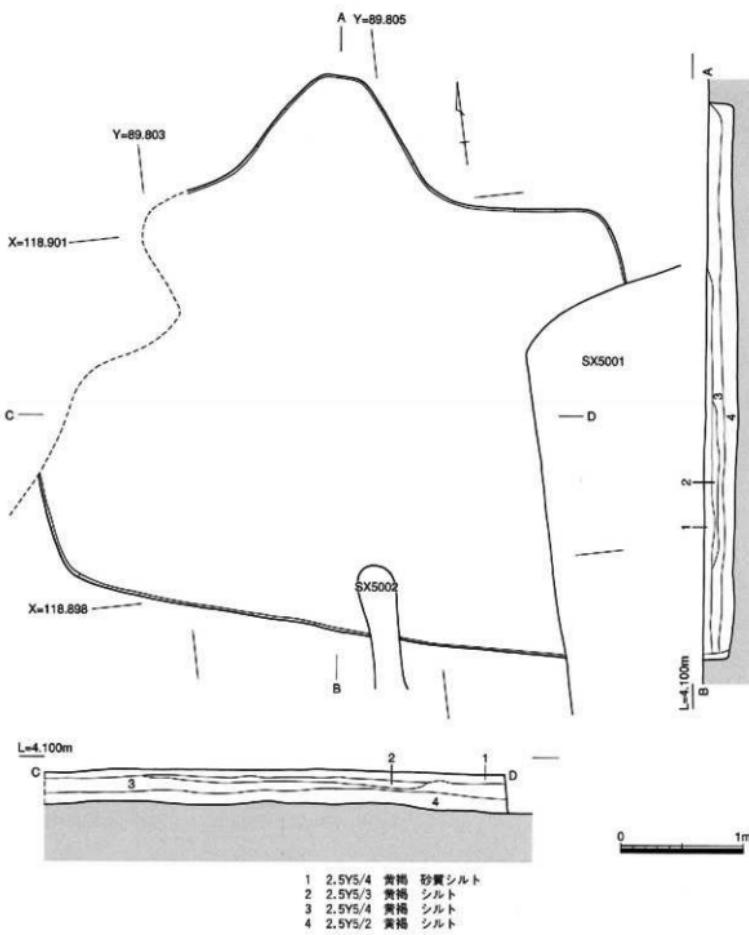
大グリッドLoc.F-1、中グリッドδ-IV、小グリッドT-1、2に位置する。

規模と形状

検出長4.56m、最大幅3.80m、最大深度0.30mの平面形が、不整形である。

土層

遺構の堆積土は4層に分層した。1層は黄褐色を呈する砂質シルト層である。2層～4層は黄褐色を呈するシルト層である。

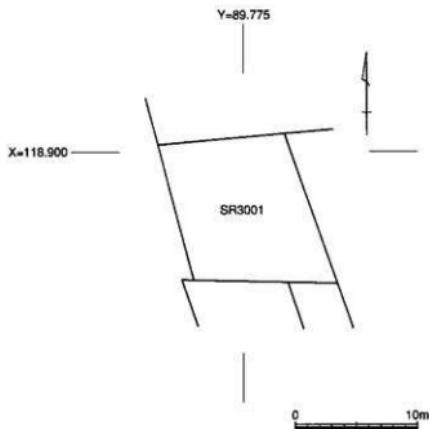


第218図 南区（2003年度8区）SX5003平・断面図

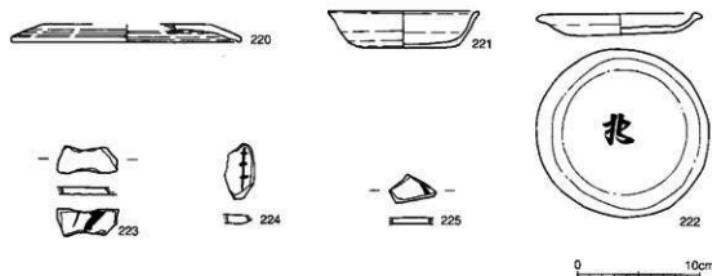
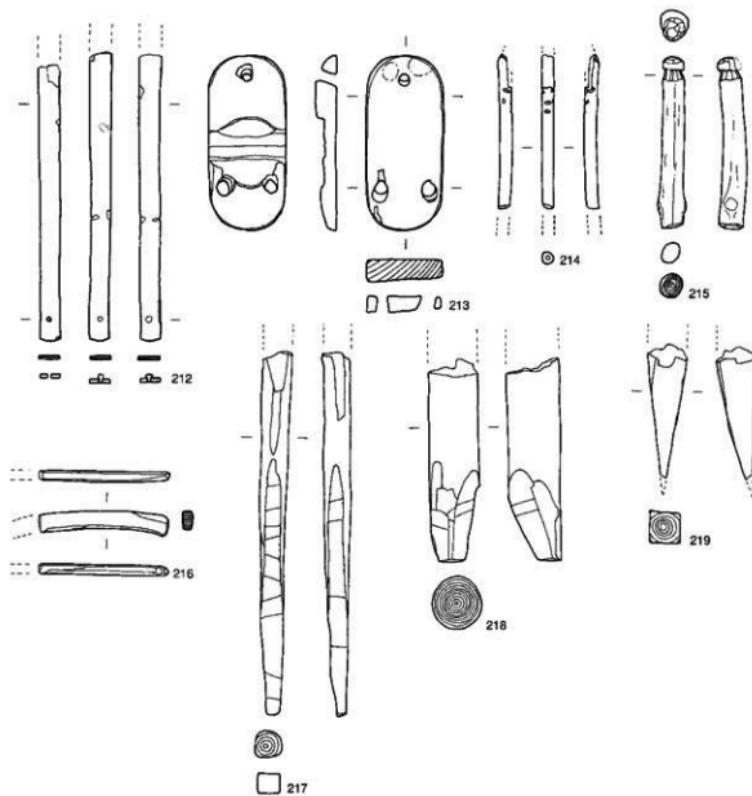
(21) 2003年度 8－2区

自然流路 (SR3001) V層出土遺物 (第220図)

木製品は8点を図化した。212は檜扇である。213は服飾具の連齒下駄である。小形で右足用である。214は円筒状人形である。土器は6点を図化した。220は土師器の杯蓋である。221は土師器の杯である。222～225は墨書き土器である。222は土師器の皿の底部外面に「抱」と墨書きしたものである。223は墨書き土器の杯である。文字の判読はできない。224は土師器の小破片に、白色の顔料で線状の模様が描かれる。225は土師器の小破片で、文字の判読はできない。



第219図 南区（2003年度 8－2区）調査区遺構平面図



第220図 南区（2003年度8-2区）SR3001V層出土遺物

(22) 2002年度7区(第3造構面)

溝 (SD3001) (第222図)

位置

大グリッドLoc.F-1、中グリッド8-IV、小グリッドQ-8、9に位置する。

規模と形状

検出長3.00m、最大幅1.70m、最大深度0.45mの溝である。

土層

造構の堆積土は4層に分層した。1層～3層は灰オリーブ色を呈するシルト層である。4層は黄褐色を呈するシルト層である。

溝 (SD3002) (第222図)

位置

大グリッドLoc.F-1、中グリッド8-IV、小グリッドQ-8、9に位置する。

規模と形状

検出長2.55m、最大幅2.40m、最大深度0.38mの溝である。

土層

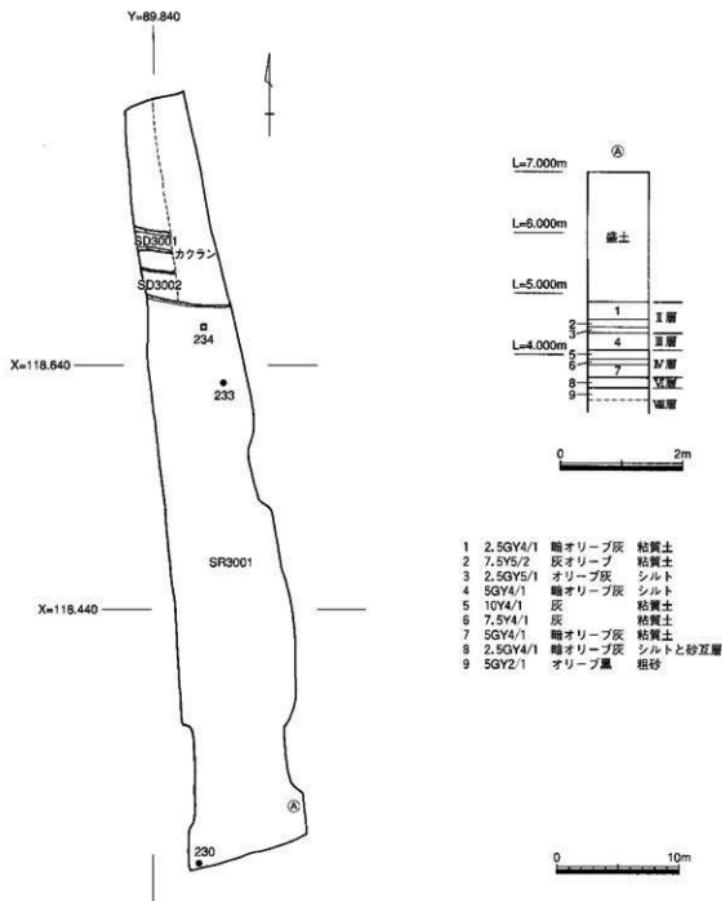
造構の堆積土は5層に分層した。1層～5層は灰オリーブ色を呈するシルト層である。

自然流路 (SR3001) III層出土遺物 (第223図)

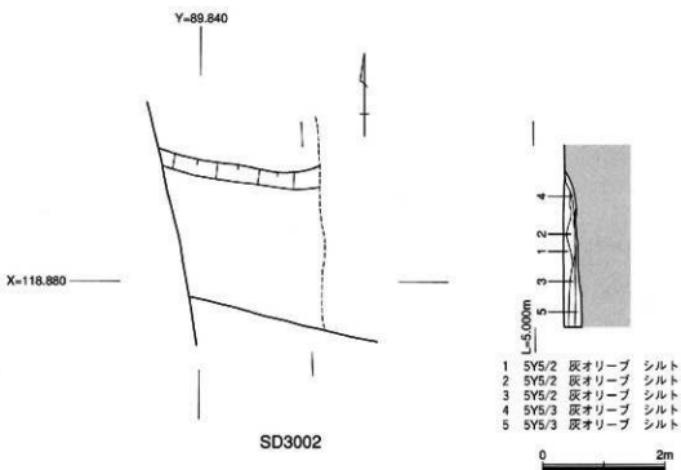
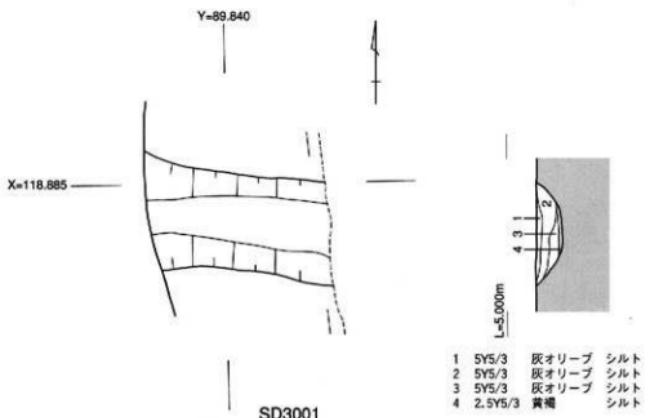
226は土師器の杯である。

自然流路 (SR3001) VI層出土遺物 (第224図)

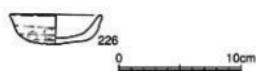
木製品は7点を図化した。227～232は円筒状人形である。234は須恵器の高台付き長頸壺である。保存状態が良好で全体に自然釉が見られる。



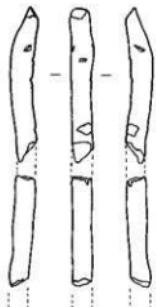
第221図 南区（2002年度7区）調査区構造平面図・遺物出土状況ドット図・土層柱状図



第222図 南区（2002年度7区）SD3001・SD3002平・断面図



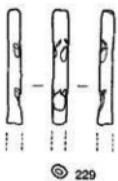
第223図 南区（2002年度7区）SR3001Ⅲ層出土遺物



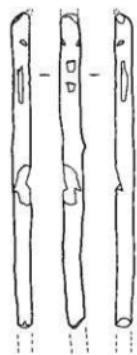
227



228



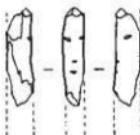
229



230

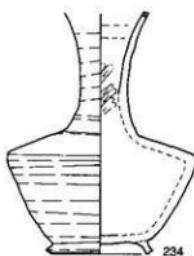


231



232

0 10cm



234



233

0 20cm

第224図 南区（2002年度 7区）SR3001 VI層出土遺物

(23) 2000年度1区

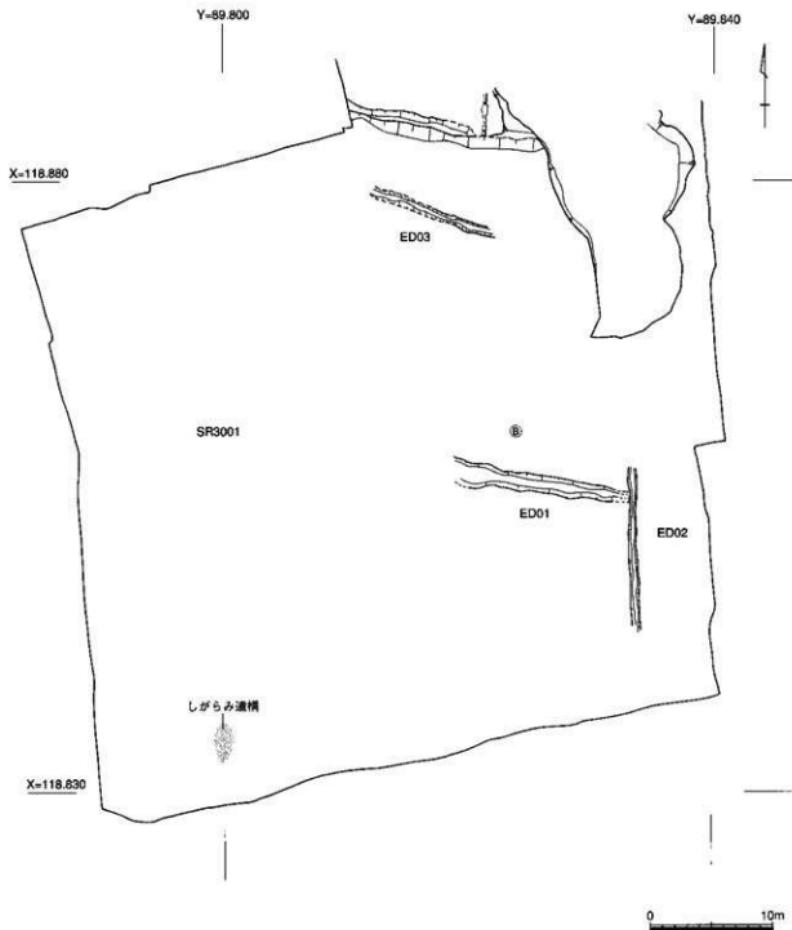
自然流路 (SR3001)

位置

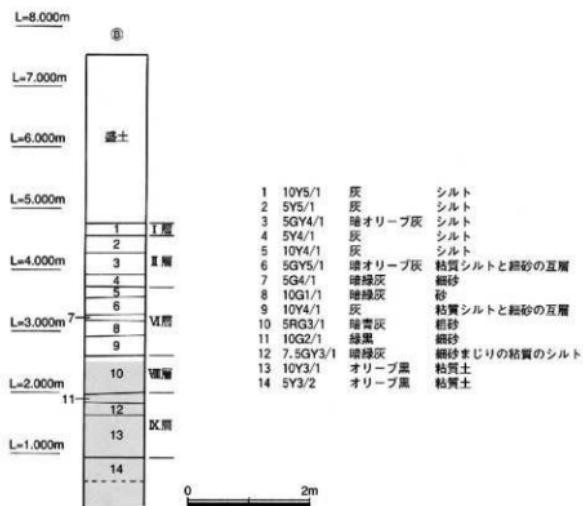
大グリッドLoc.F-1、中グリッドδ-IV、小グリッドQ、R-3～9以南に位置する。

規模と形状

δ-3・R-3からQ-9においてSR3001の北岸を検出した。これは2003年度8区で検出したものの



第225図 南区（2000年度1区）調査区遺構平面図



第226図 南区（2000年度1区）土層柱状図

延長である。これより両側の調査区はSR3001の堆積層となる。

自然流路（SR3001）内しがらみ遺構（第225、238図）

位置

大グリッドLoc.F-1、中グリッドδ-IV、小グリッドH、I-1に位置する。

土層

しがらみ遺構は12層に分層した。1層～5層、10層～12層はオリーブ黒色を呈する粘質土である。6層～9層は灰色を呈する粘質土である。

自然流路内溝（SR3001ED01）（第227図）

位置

大グリッドLoc.F-1、中グリッドε-IV、小グリッドK、L-5～7に位置する。

規模と形状

検出長14.50m、最大幅2.20m、最大深度0.12mの溝である。N-82°-Wを軸とした直線状を呈する。

自然流路内溝（SR3001ED02）（第228図）

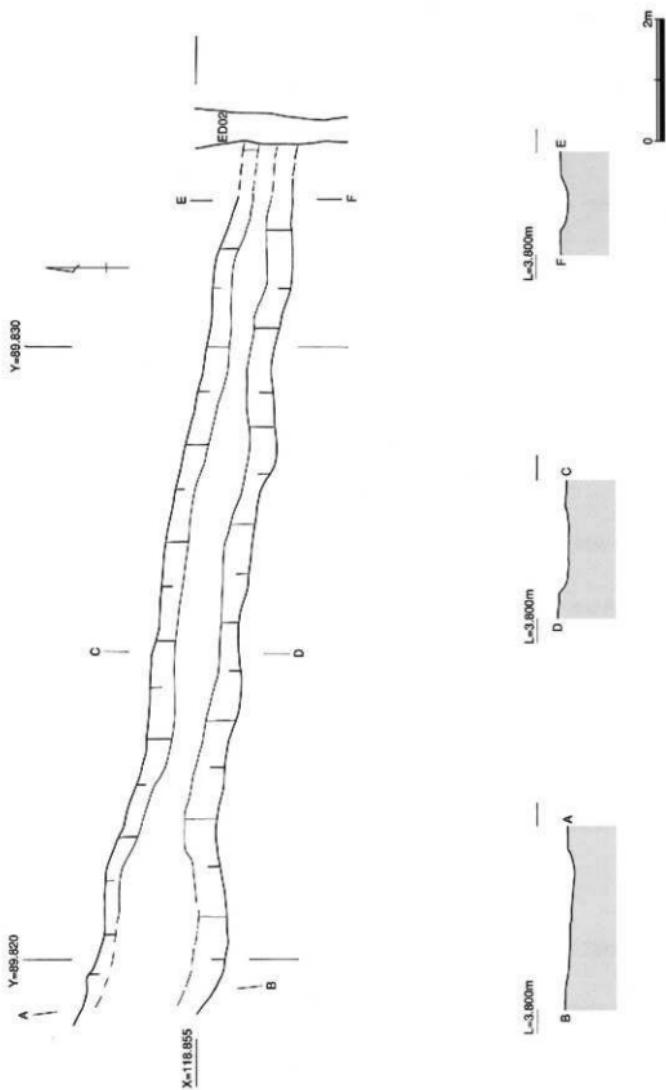
位置

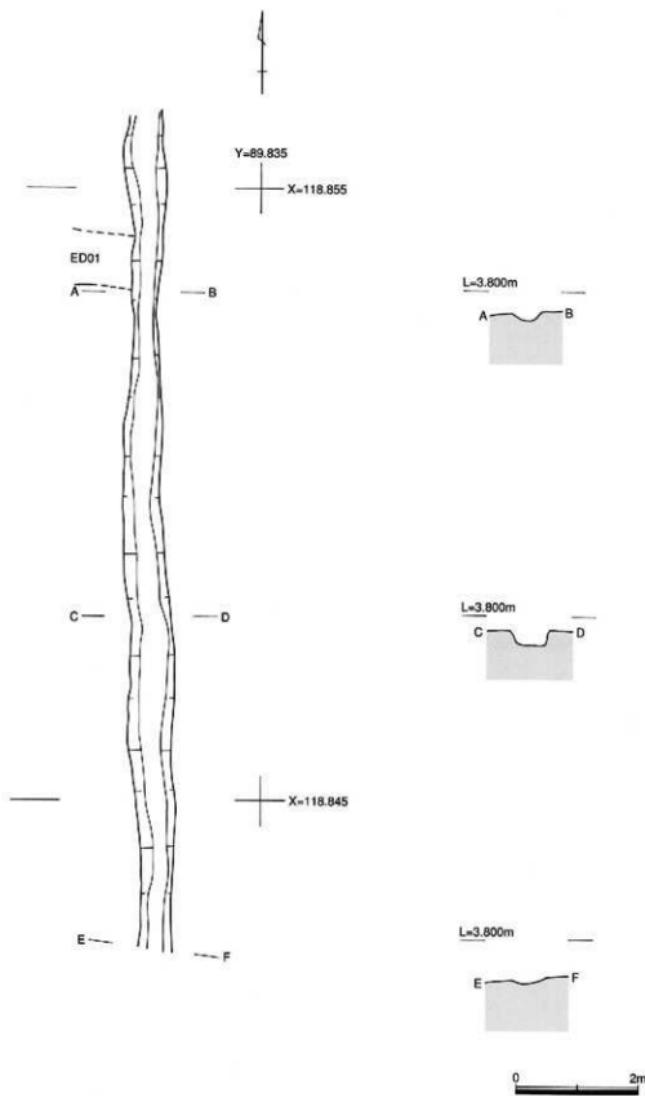
大グリッドLoc.F-1、中グリッドε-IV、小グリッドI～L-7に位置する。

規模と形状

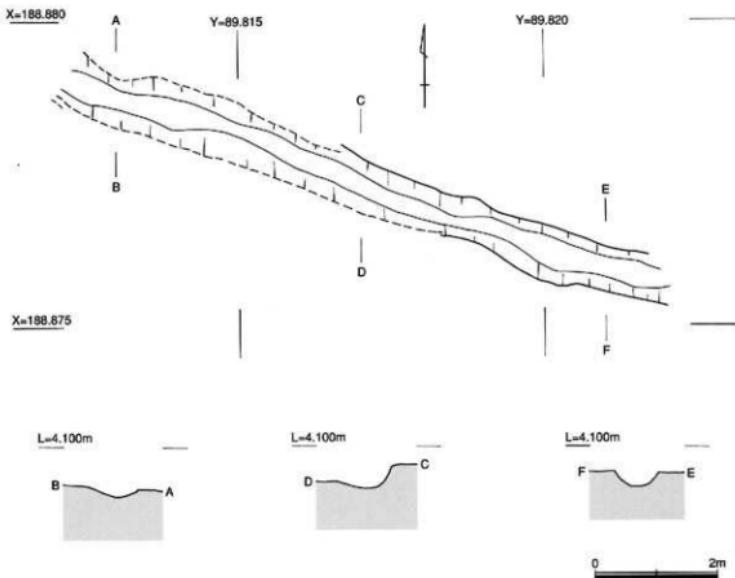
検出長13.70m、最大幅0.65m、最大深度0.24mの溝である。真北を軸とした直線状を呈する。

第227図 南区(2000年度1区)SR3001ED01平・断面図





第228図 南区（2000年度1区）SR3001ED02平・断面図



第229図 南区（2000年度1区）SR3001ED03平・断面図

自然流路内溝（SR3001ED03）（第229図）

位置

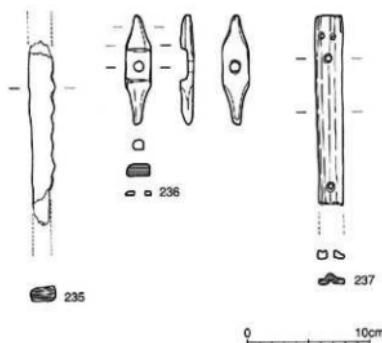
大グリッドLoc.F-1、中グリッドε-N、小グリッドP-3~5に位置する。

規模と形状

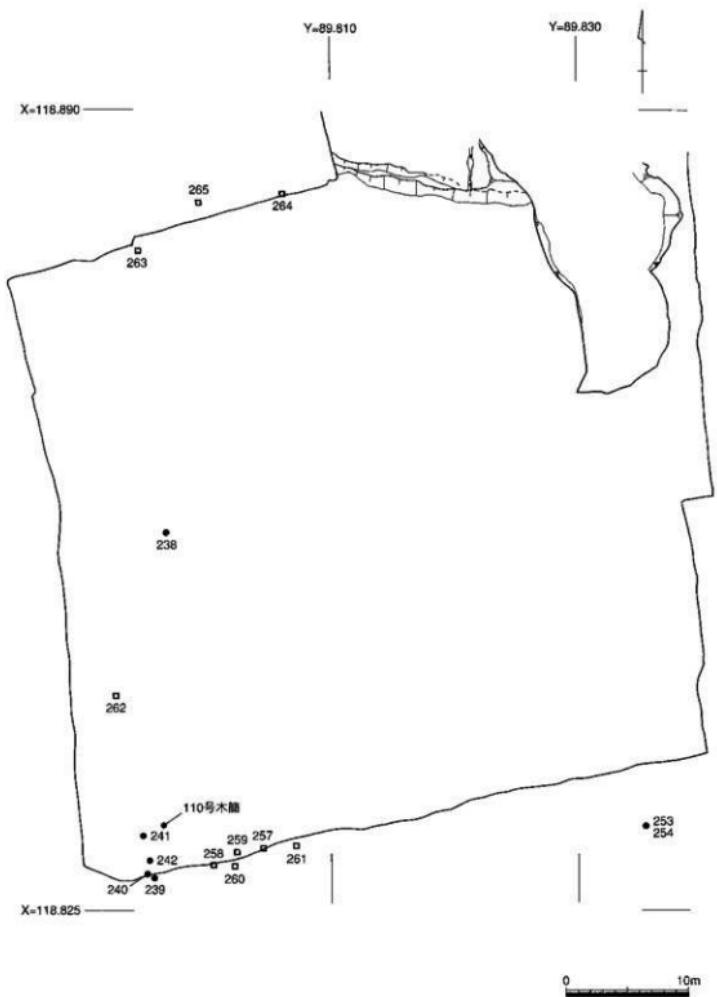
検出長10.30m、最大幅0.90m。N-70°-Wを軸とした直線状を呈する。

自然流路（SR3001）Ⅱ層出土遺物（第230図）

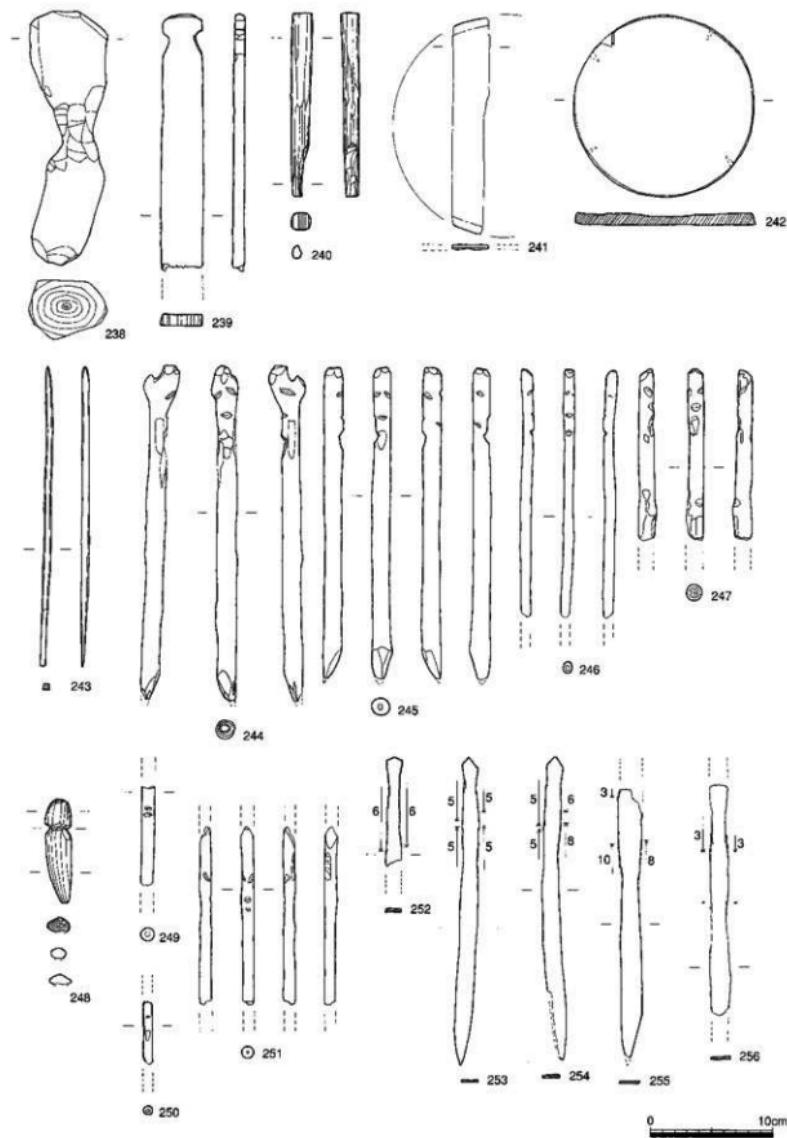
本製品は3点を固化した。235は農具の籠台か。
236は糸巻横木である。237は部材か。上部に3ヶ所、下部に1ヶ所の穿孔がある。



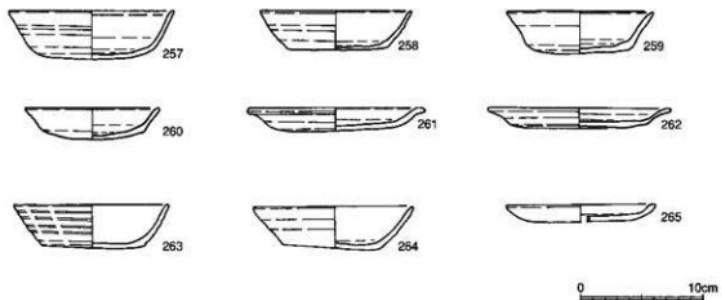
第230図 南区（2000年度1区）
SR3001Ⅱ層出土木製品



第231図 南区（2000年度1区）SR3001Ⅲ層遺物出土状況ドット図



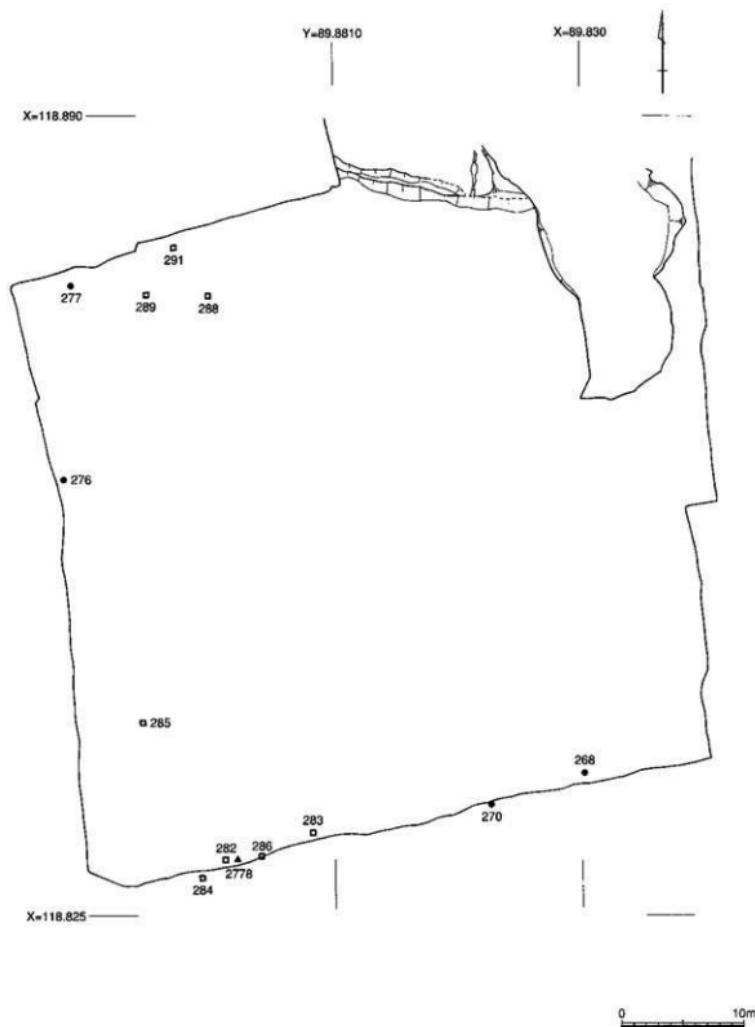
第232図 南区(2000年度1区)SR3001Ⅲ層出土木製品(紡織具・容器・祭祀具・部材)



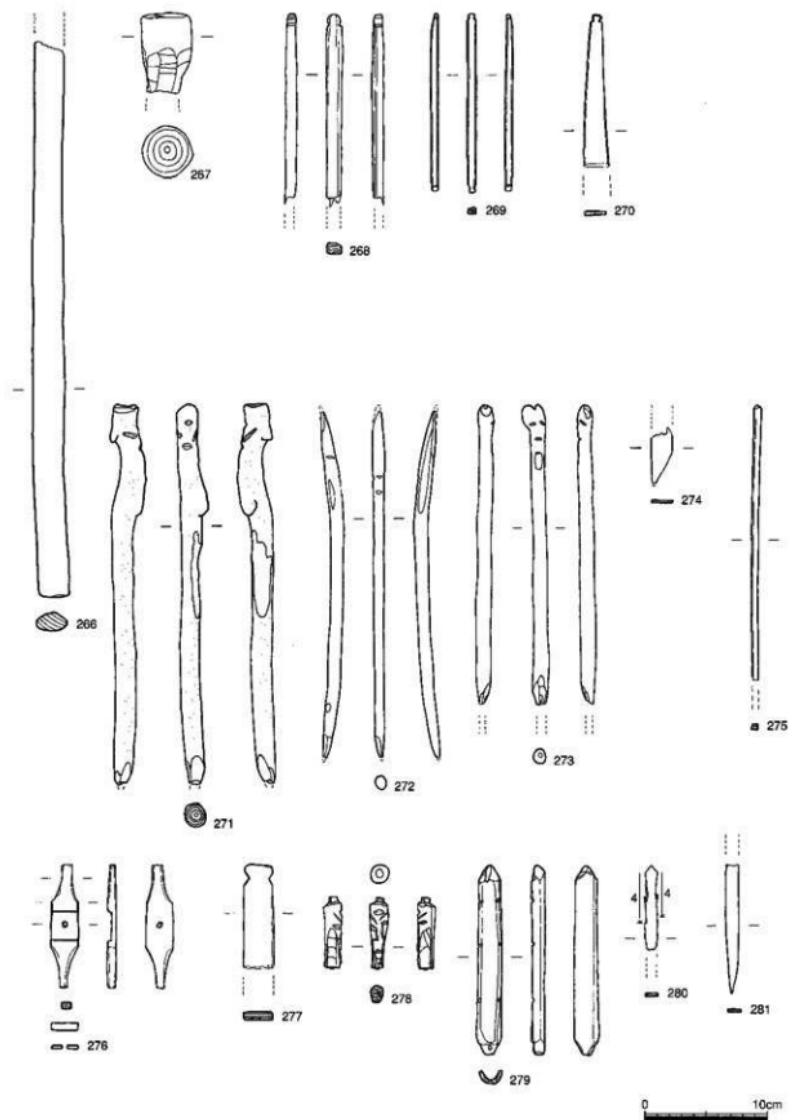
第233図 南区（2000年度1区）SR3001Ⅲ層出土遺物

自然流路（SR3001）Ⅲ層出土遺物（第231～233図）

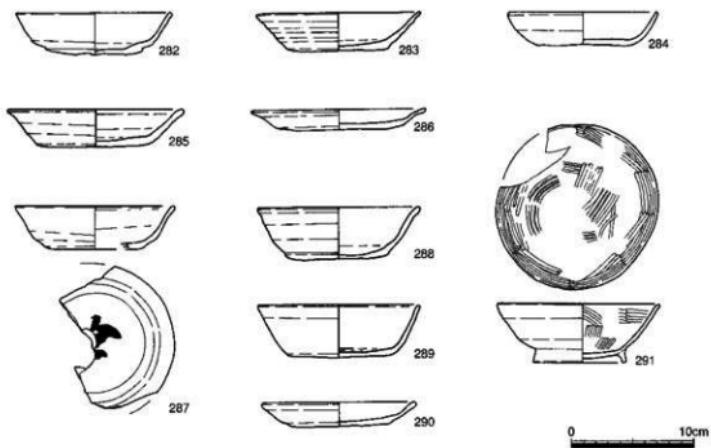
木製品は19点を図化した。238は木鉤である。239は中筒である。241、242は円形曲物の底板である。243は棒状祭祀具である。244～251は人形である。248が立体人形である以外は円筒状人形に分類される。252～256は扇巾である。土器は9点を図化した。257～260、263、264は土師器の杯である。261、262、265は土師器の皿である。



第234図 南区（2000年度1区）SR3001IV層遺物出土状況ドット図



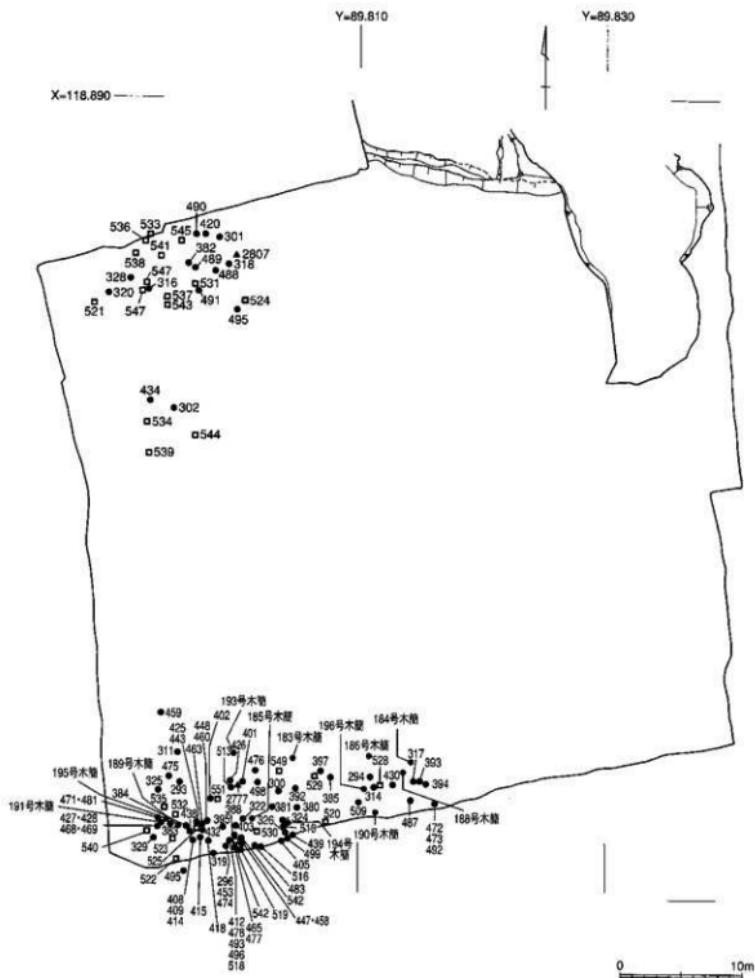
第235図 南区（2000年度1区）SR3001IV層出土木製品（農具・紡織具・文房具・祭祀具・部材）



第236図 南区（2000年度1区）SR3001IV層出土遺物

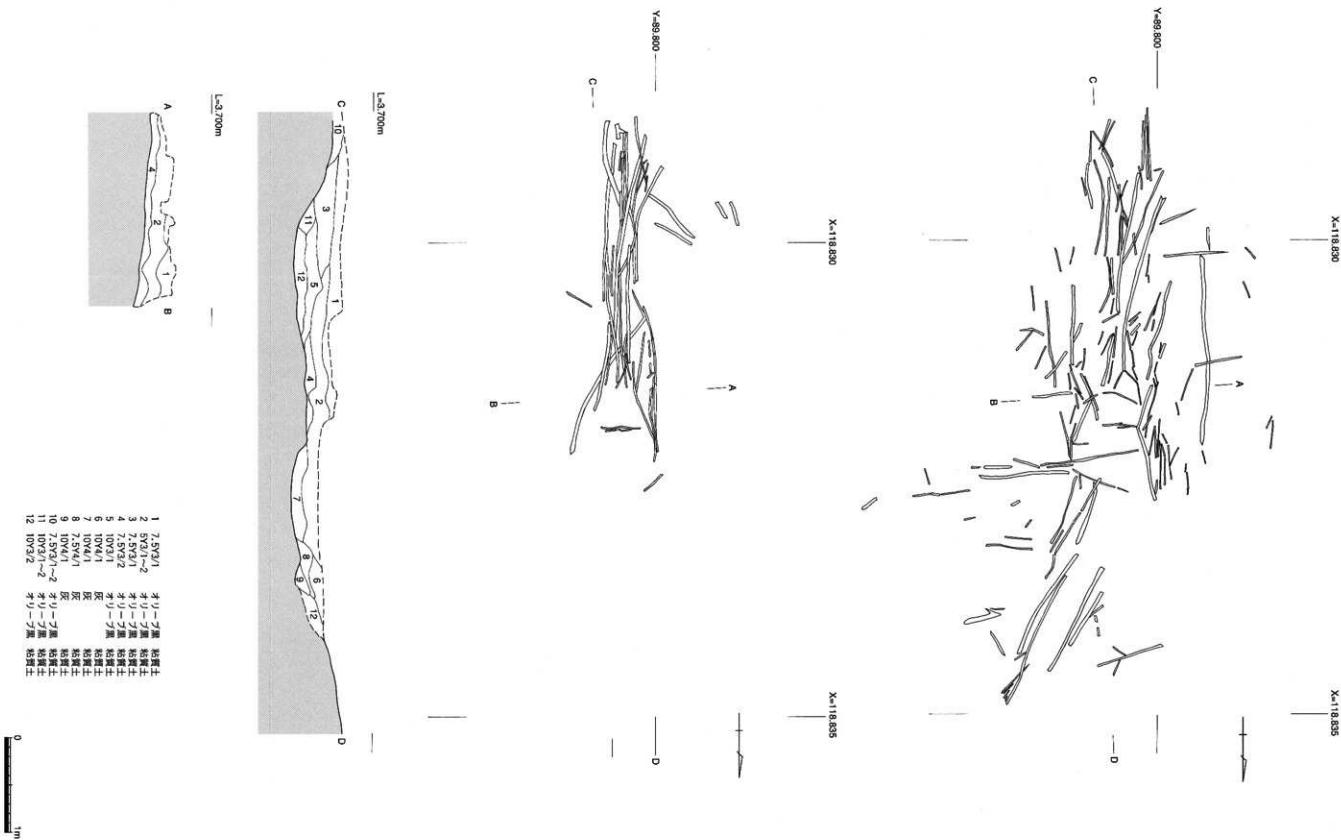
自然流路（SR3001）IV層出土遺物（第234～236図）

木製品は16点を図化した。266は柄である。267は木錘である。268～270は紡織具である。271～273は円筒状人形である。274は斎串の断片である。275は棒状祭祀具である。276は糸巻横木である。277は木札である。上端に切り欠きがあり、付札木筒と類似した形状を示す。278は立体人形である。細かな削りにより顔を表現する。279は舟形である。丸木舟で、上面の左右両側に3ヶ所の刻みがある。280、281は斎串である。土器は10点を図化した。282～285、287～289は土師器の杯である。284、285には赤色塗彩が施される。286、290は土師器の皿である。287は墨書き土器である。土師器の杯の底部外面に墨書きがある。欠損のため文字の判読はできない。291は黒色土器A類の椀である。

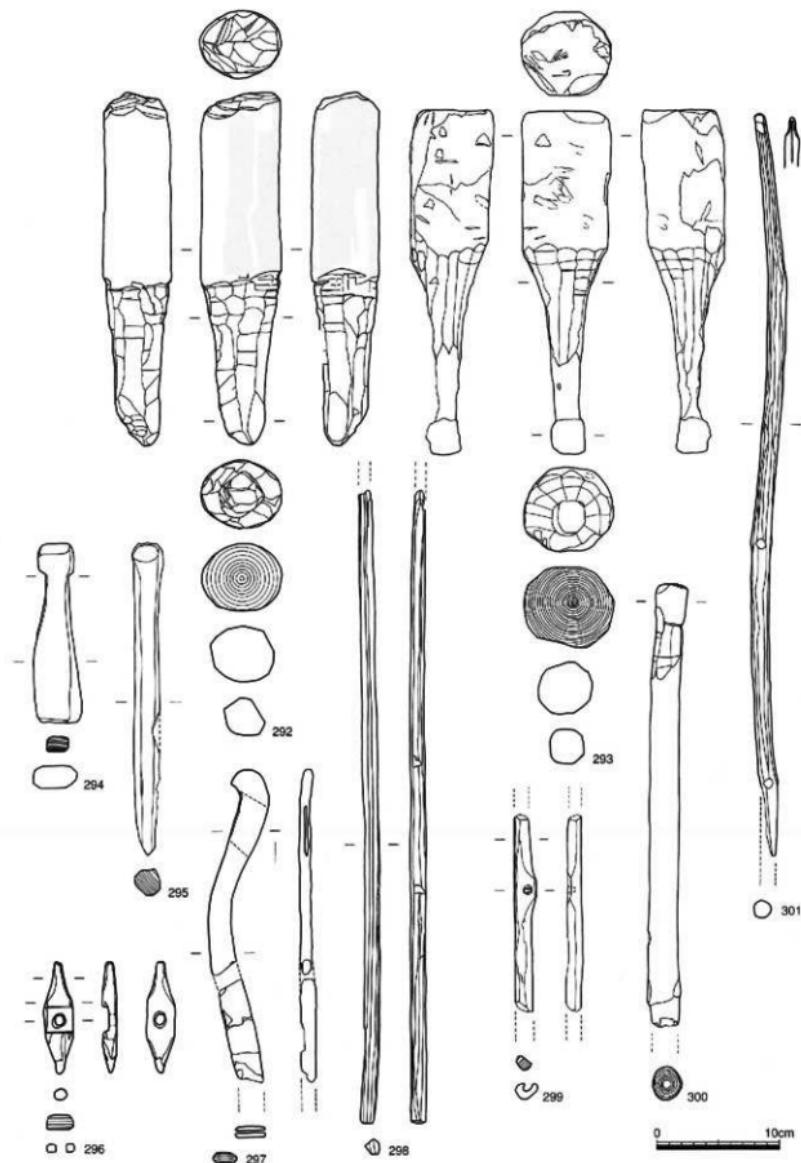


第237図 南区（2000年度1区）SR3001V層遺物出土状況ドット図

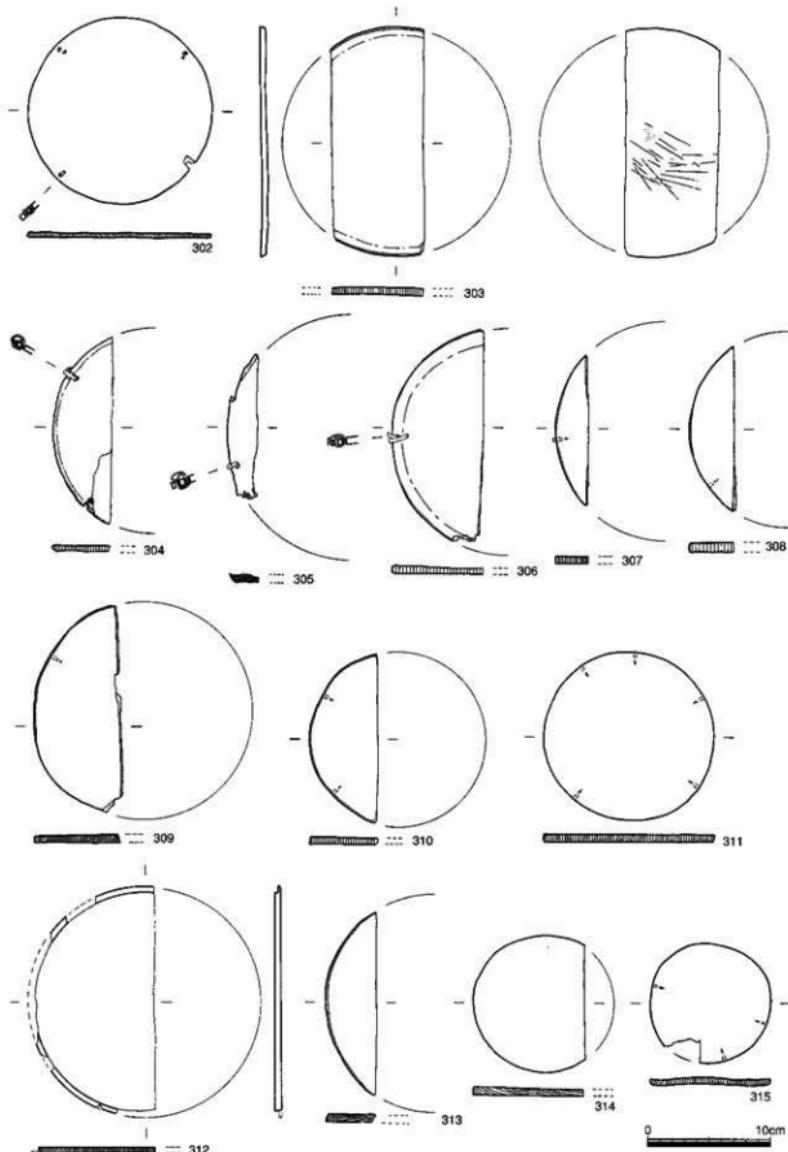




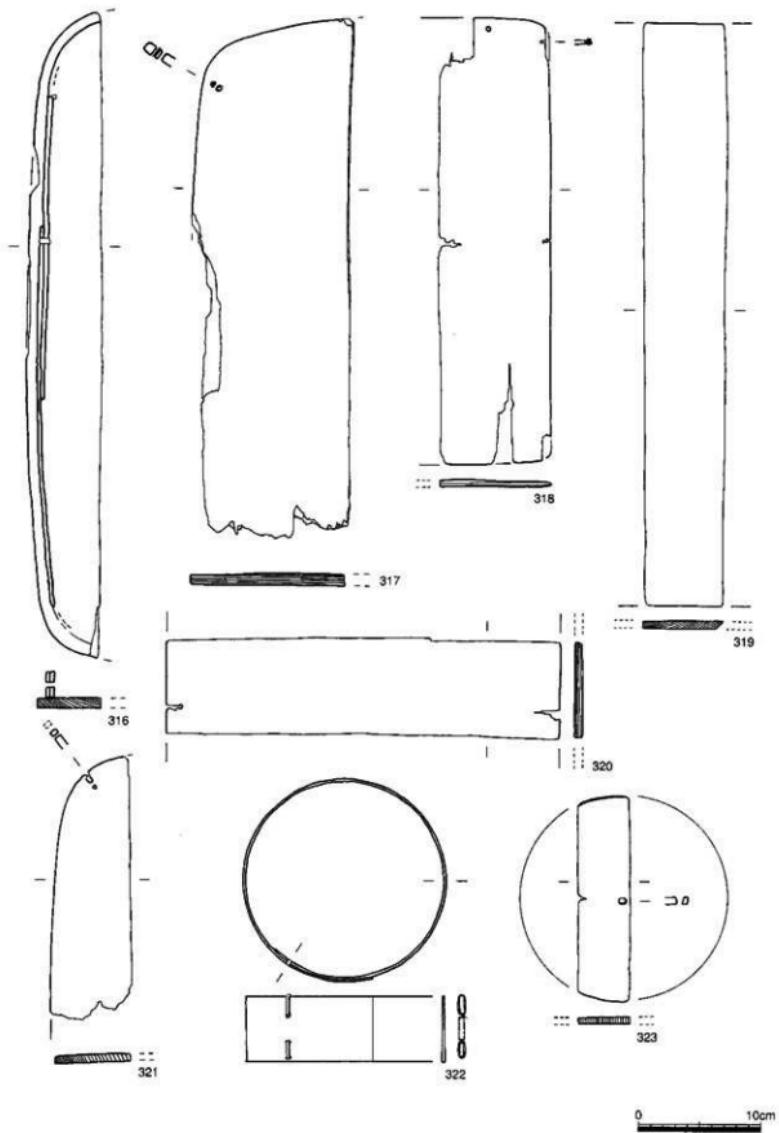
第238図 南区（2000年度1区）SR3001Ⅴ層しがらみ遺構遺物出土状況平面図・断面図



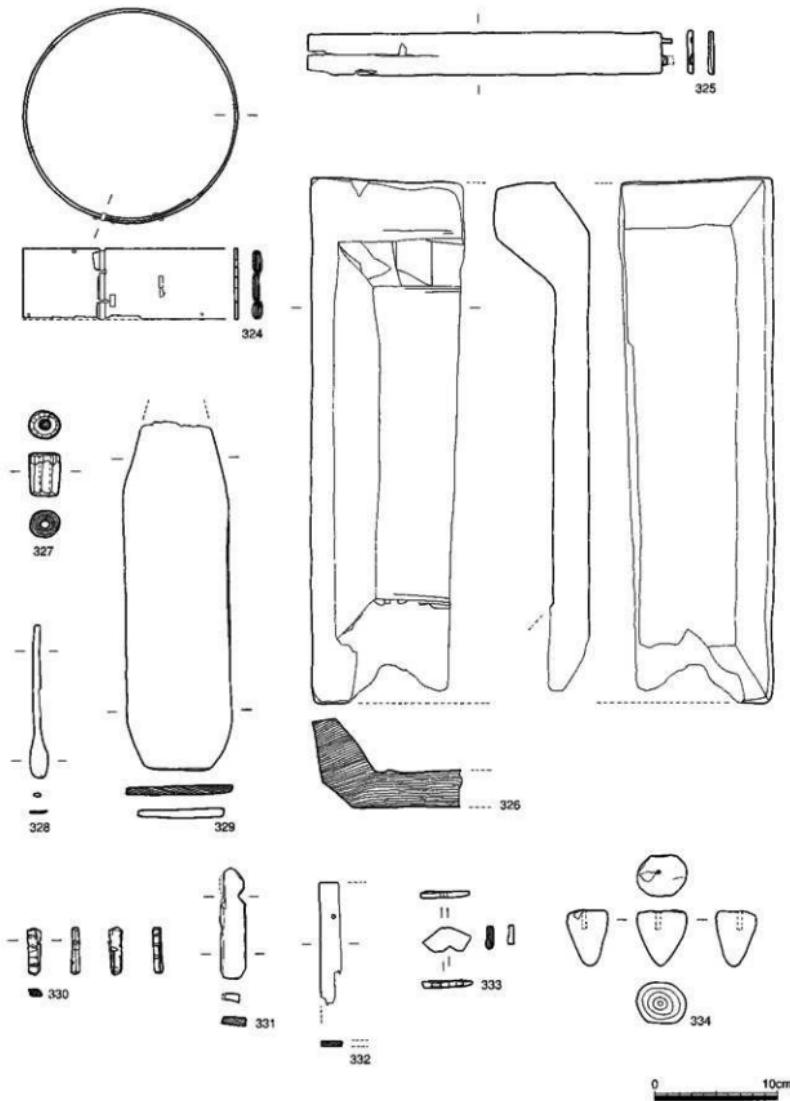
第239図 南区（2000年度1区）SR3001V層出土木製品（工具・農具・紡織具・武器）



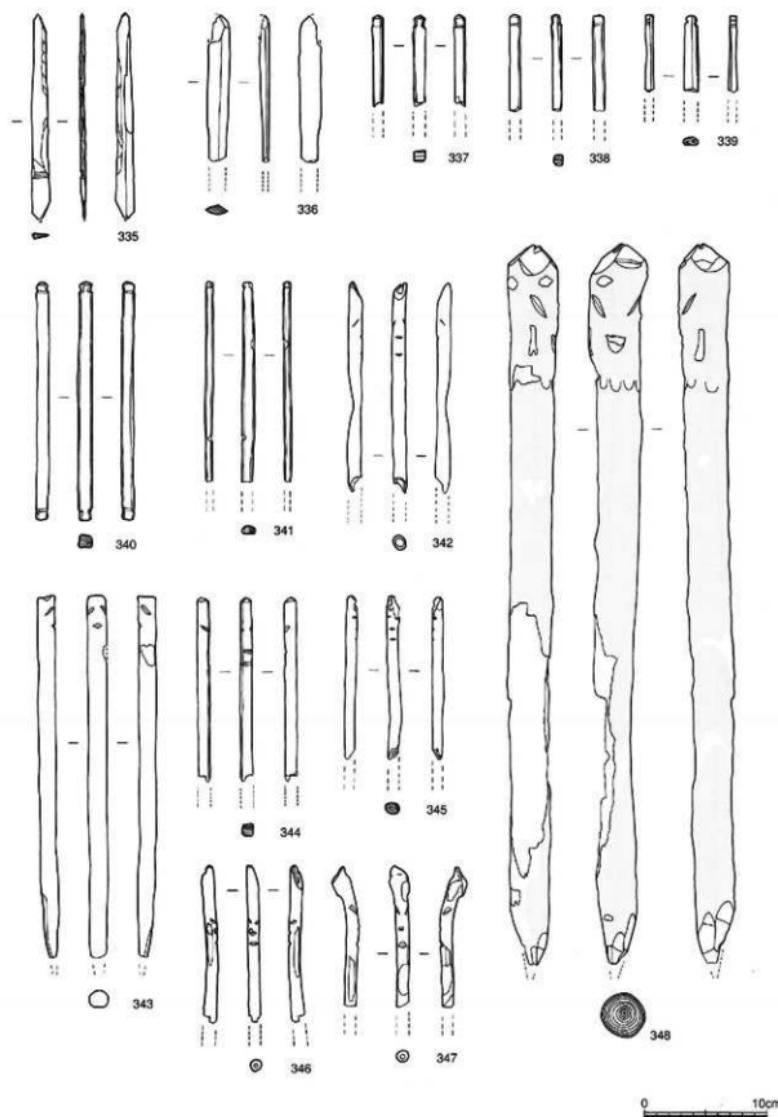
第240図 南区（2000年度1区）SR3001V層出土木製品（容器）(1)



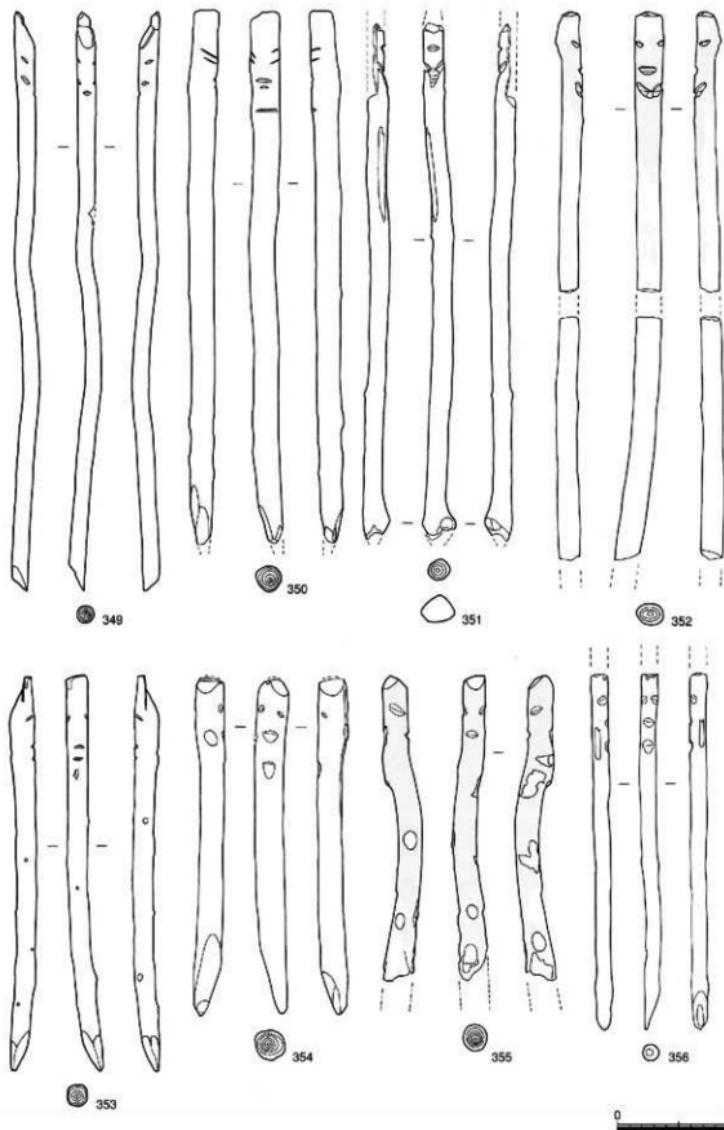
第241図 南区（2000年度1区）SR3001V層出土木製品（容器）（2）



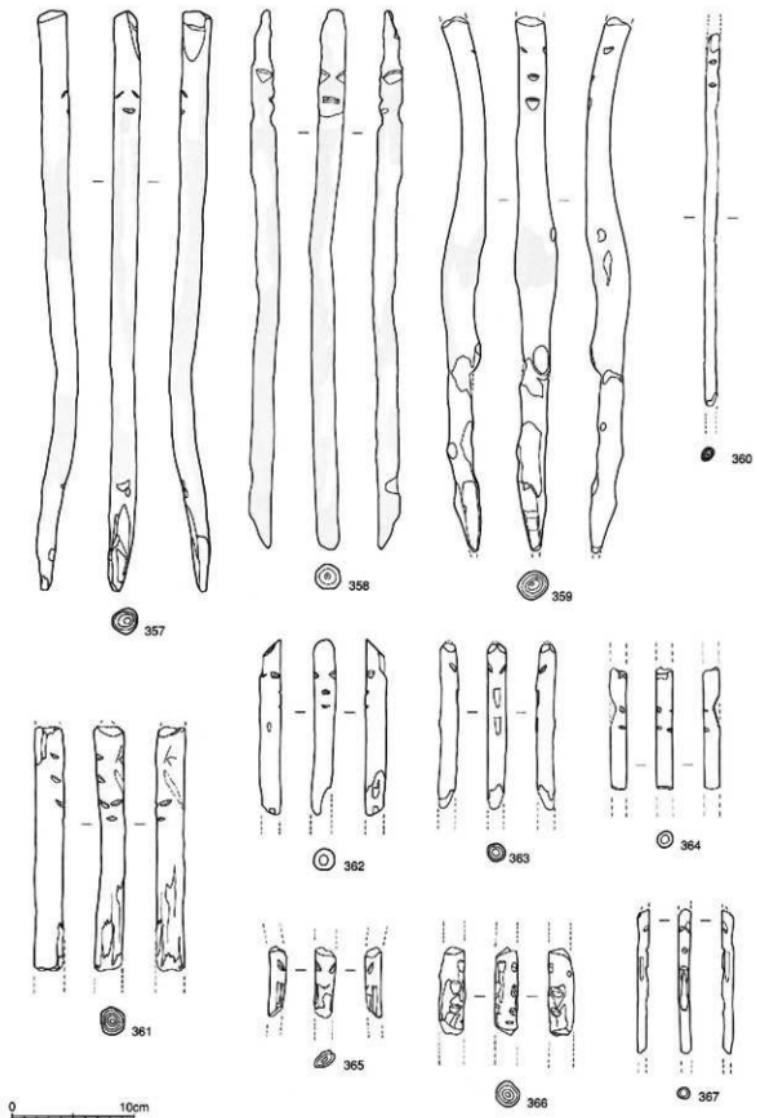
第242図 南区（2000年度1区）SR3001V層出土木製品（容器・食事具・文房具・遊戯具）



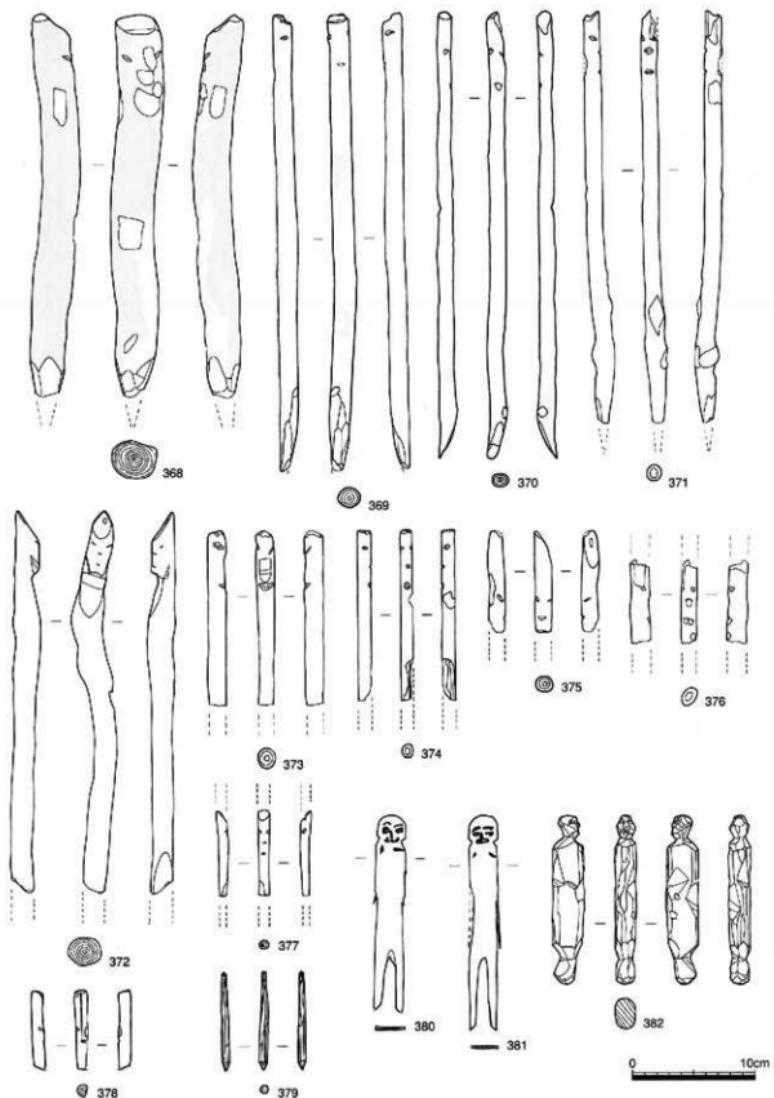
第243図 南区（2000年度1区）SR3001V層出土木製品（祭祀具）(1)



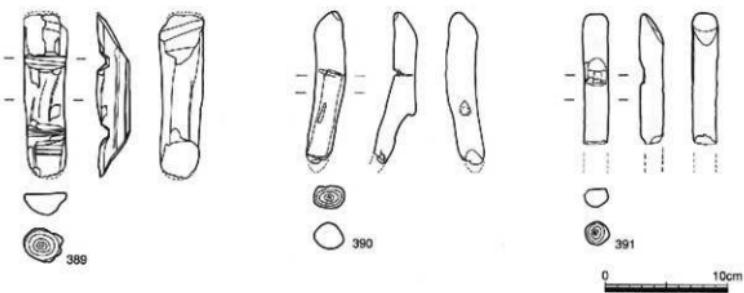
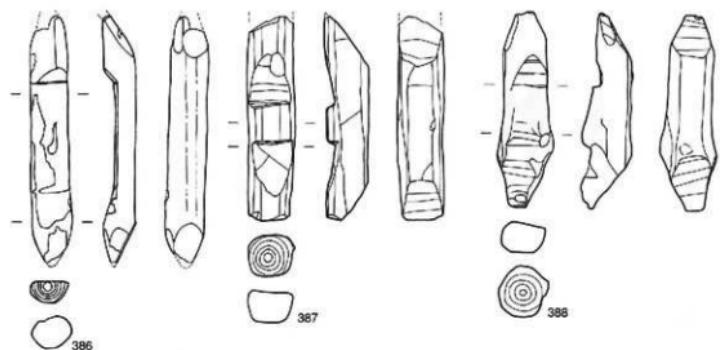
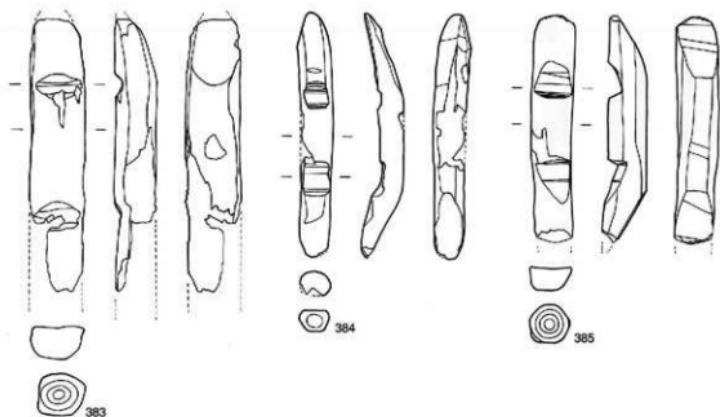
第244図 南区（2000年度1区）SR3001V層出土木製品（祭祀具）（2）



第245図 南区（2000年度1区）SR3001V層出土木製品（祭祀具）（3）

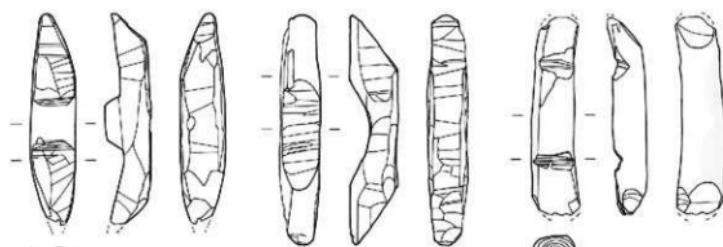


第246図 南区（2000年度1区）SR3001V層出土木製品（祭祀具）（4）



0 10cm

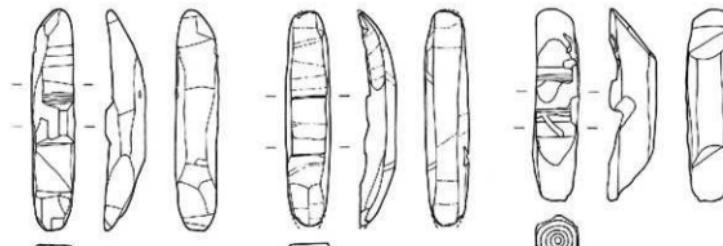
第247図 南区（2000年度1区）SR3001V層出土木製品（祭祀具）(5)



392

393

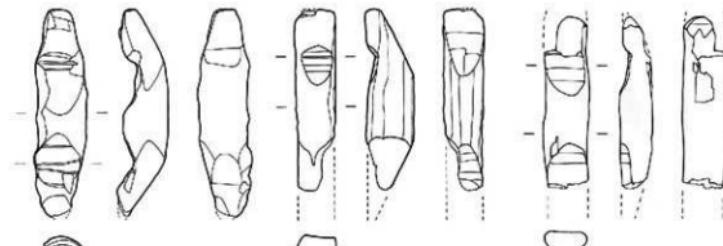
394



395

396

397



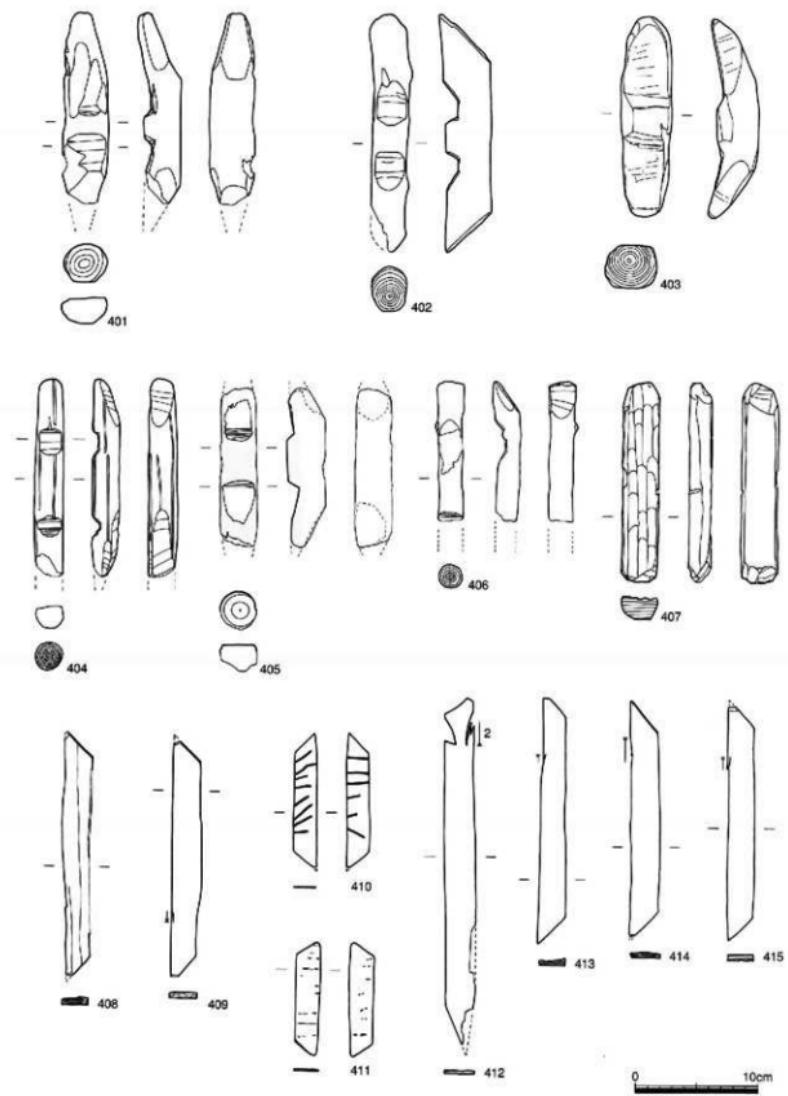
398

399

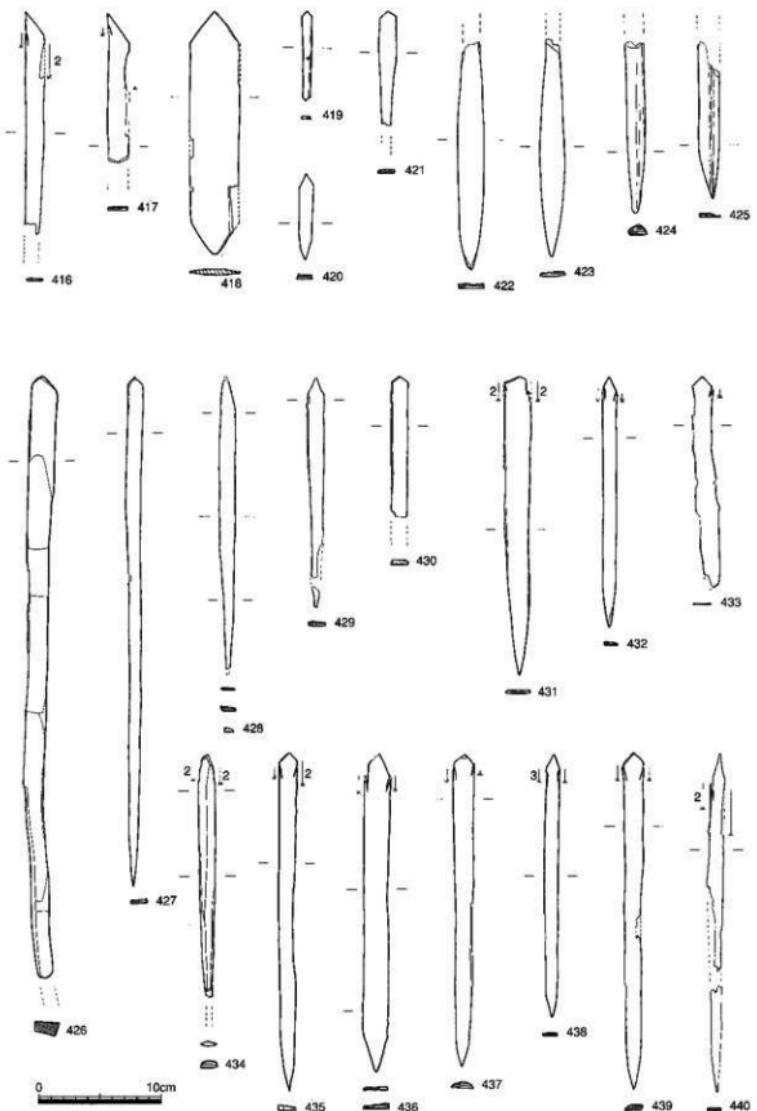
400

0 10cm

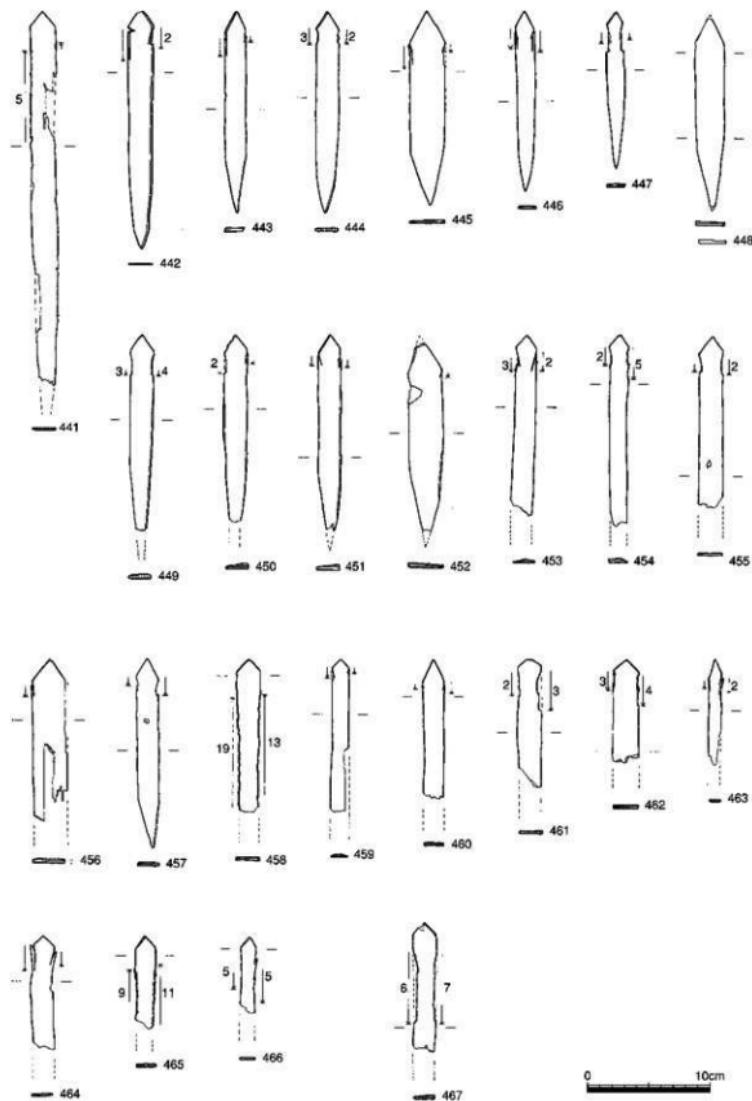
第248図 南区（2000年度1区）SR3001V層出土木製品（祭祀具）(6)



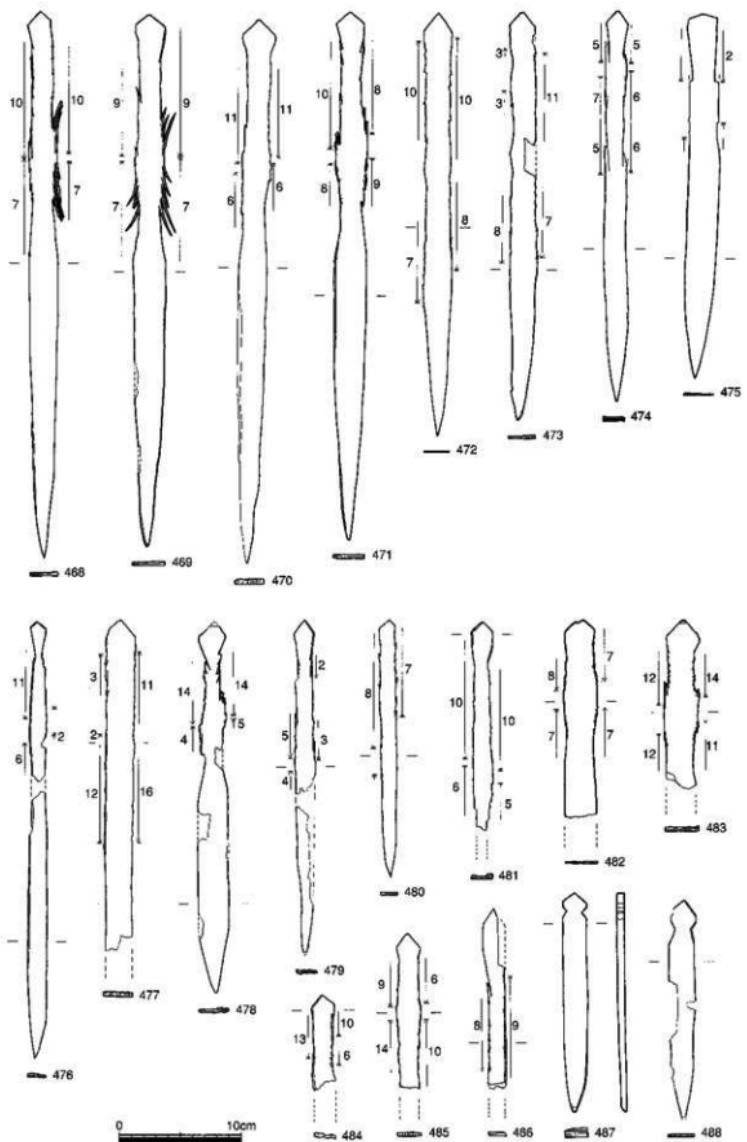
第249図 南区（2000年度1区）SR3001V層出土木製品（祭祀具）(7)



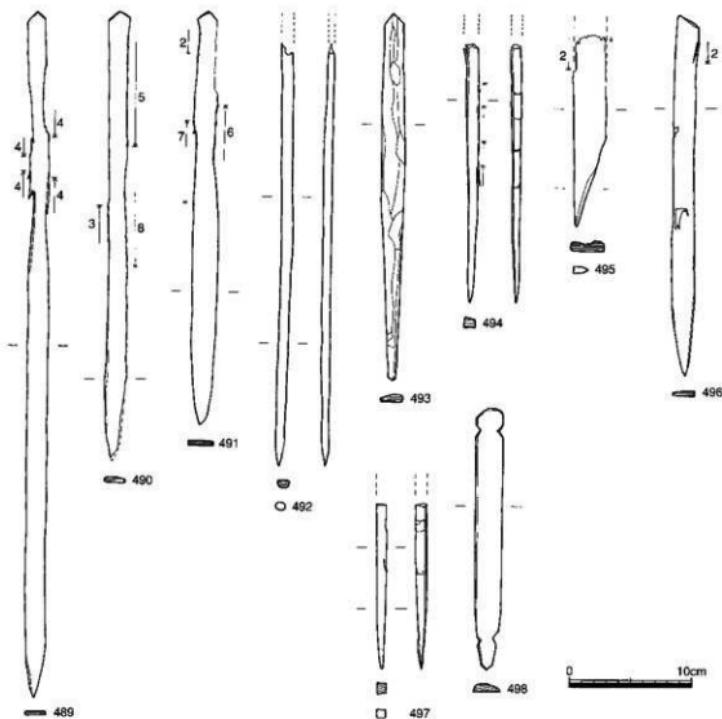
第250図 南区（2000年度1区）SR3001V層出土木製品（祭祀具）(8)



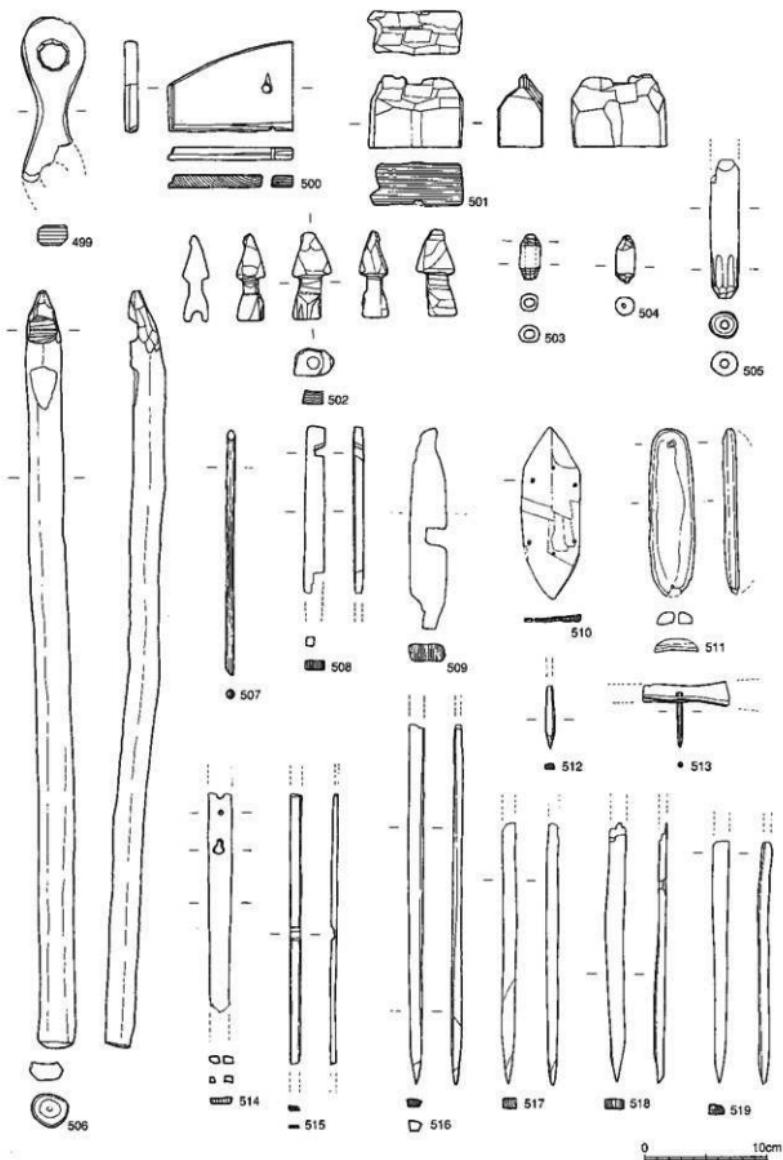
第251図 南区（2000年度1区）SR3001V層出土木製品（祭祀具）（9）



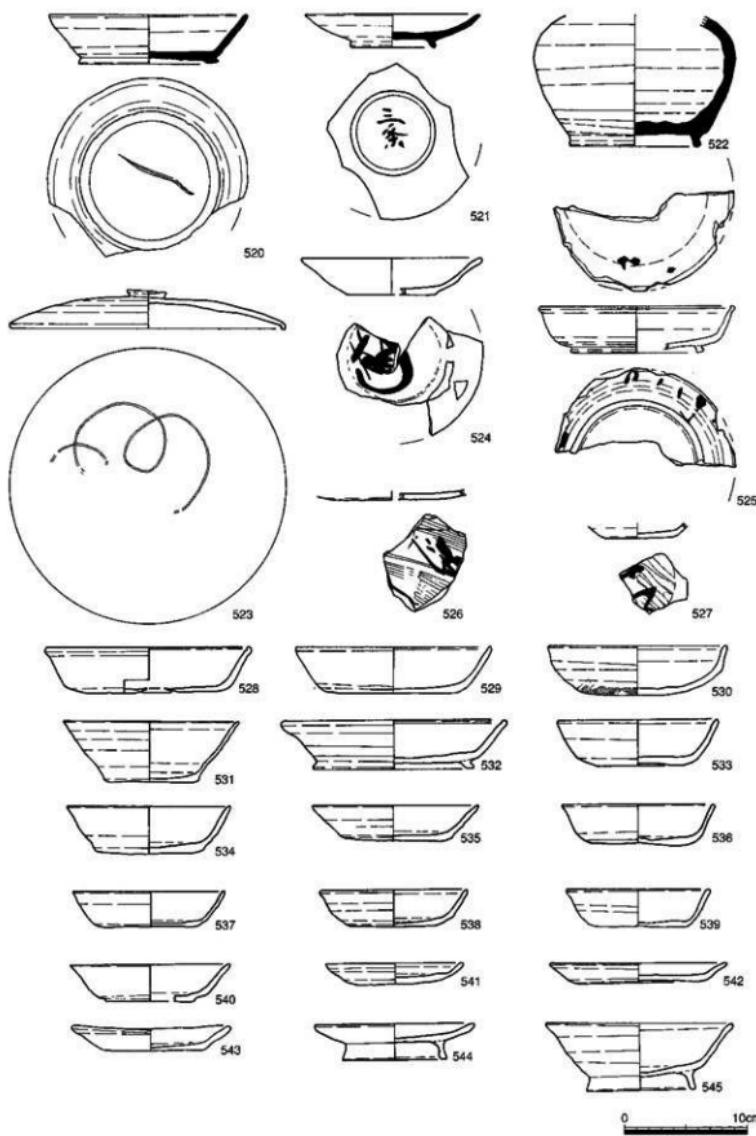
第252図 南区（2000年度1区）SR3001V層出土木製品（祭祀具）(10)



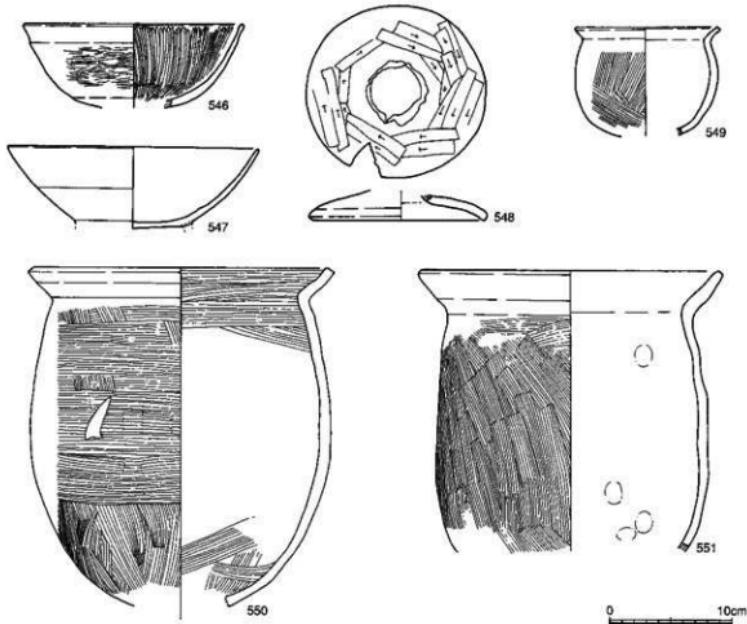
第253図 南区（2000年度1区）SR3001V層出土木製品（祭記具）(11)



第254図 南区（2000年度1区）SR3001V層出土木製品（雑具・部材・杭・用途不明）



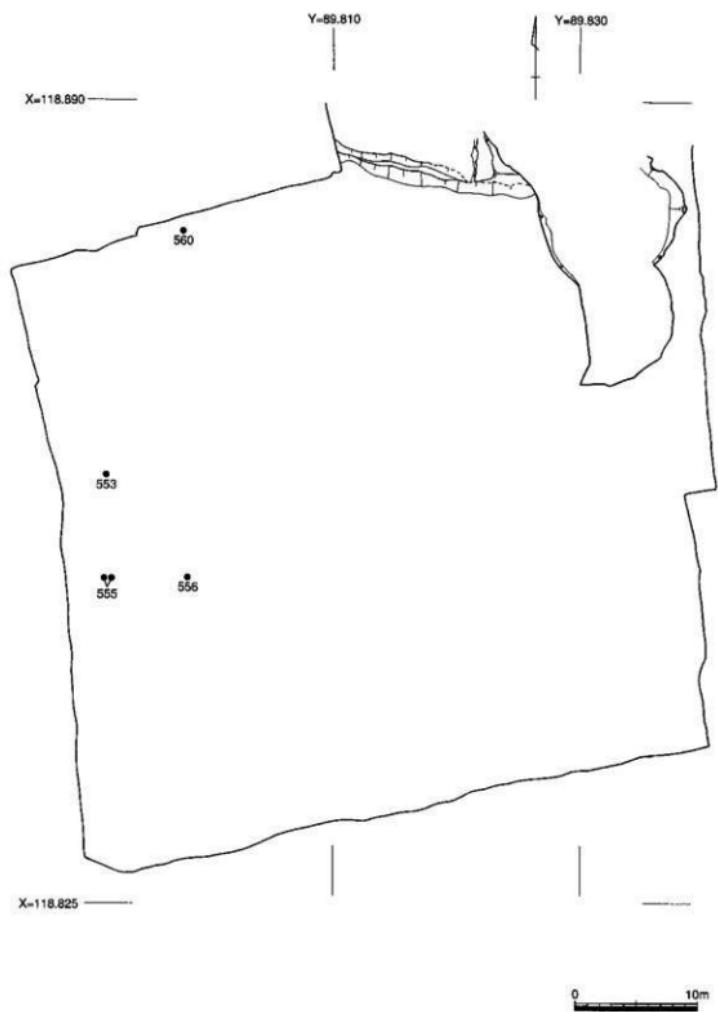
第255図 南区（2000年度1区）SR3001V層出土遺物（1）



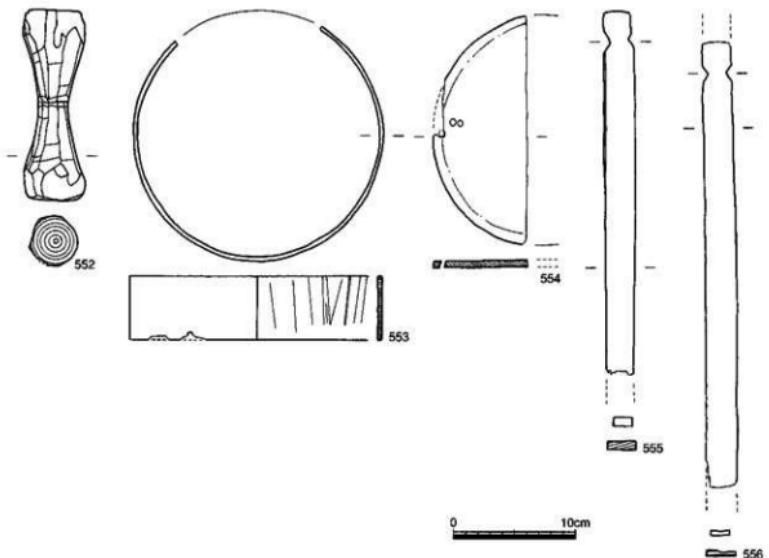
第256図 南区（2000年度1区）SR3001V層出土遺物（2）

自然流路（SR3001）V層出土遺物（第237、239～256図）

木製品は229点を図化した。292、293は農具の横桿である。292は身部に樹皮が残存し、未使用の可能性もある。293は柄の端部を有頭状に削り出している。296は糸巻横木である。297は鎌柄である。断面楕円形で、上部に身を差し込むスリットがある。298は織棒である。299は糸巻棒木である。300は織機である。301は丸木弓である。端部は両側から削って弦を成形している。302～315は円形曲物の底板である。316、317、321は楕円形曲物の底板である。318～320は方形曲物の底板である。322、324は円形曲物の側板である。323は円形曲物の蓋板である。325は方形曲物の側板である。326は容器の槽である。327は栓である。328は匙である。329は杓子で、柄が欠損している。330は文房具の算木である。角棒の両端を方錐形に成形している。331、332は木札である。333は琴柱である。334は遊戯具の独楽である。上部の中央に軸を差し込む孔がある。335、336は刃子形である。337～341は紡織具形である。342～378は円筒状人形である。379は立体人形である。全体に細かな削りで成形し、目、口を小さく削る。380、381は正面全身人形である。いずれも両側からのえぐりにより首を表現している。墨で眉、目、鼻、口を描いている。382は立体人形である。棒状の木を立体的に成形している。頭部は丸く削り日、鼻、口、首を彫り込んでいる。下端を削って凸部を成形している。383～407は舟形である。大部分が屋形舟形であるが、386、393のように屋形部のないものも存在する。408～498は簀串である。410、411のように台

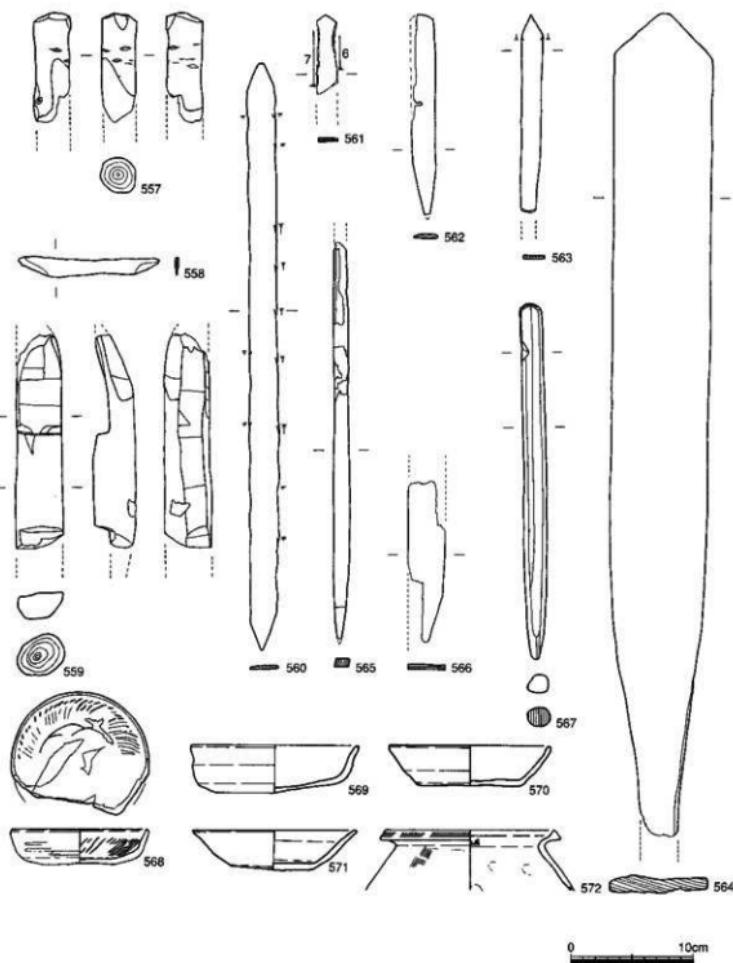


第257図 南区（2000年度1区）SR3001VI層遺物出土状況ドット図



第258図 南区（2000年度1区）SR3001VI層出土木製品（農具・容器・文房具）

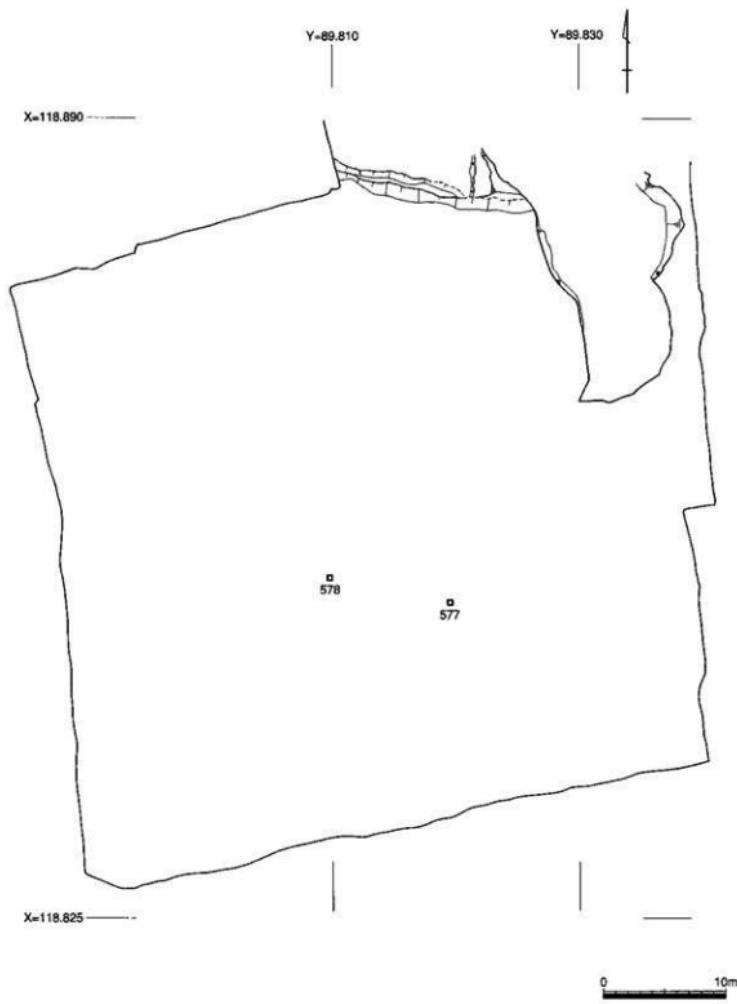
形状を呈し、両面または片面に線状の墨痕が見られるものがある。498は両端に切り欠きが見られ、木筒の031型式に類似したものか。499は雑具の自在である。土器は32点を図化した。520は須恵器の杯である。底部外面に刻書がある。521は墨書き土器である。緑釉陶器の底部外面に「三条」と墨書きされている。522は須恵器の壺である。523は土師器の杯蓋である。内面に螺旋状暗文が施される。524～527は墨書き土器である。524は土師器の杯の底部外面に墨書きの絵がある。525は土師器の杯の体部外面に墨書きがある。526、527は小破片であり、文字の判読はできない。528～540は土師器の杯である。541～544は土師器の皿である。545、546は土師器の椀である。547は黒色土器A類の椀である。548は土師器の高杯である。549～551は土師器の壺である。



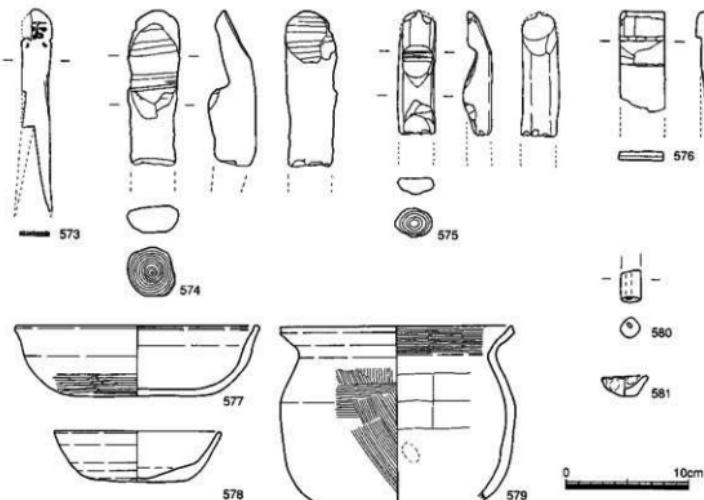
第259図 南区（2000年度1区）SR3001 VI層出土遺物

自然流路（SR3001）VI層出土遺物（第257～259図）

木製品は16点を図化した。552は木鎌である。553は円形曲物の側板、554は底板である。557は円筒状人形。558は鳥形か。559は舟形である。560～564は斎串である。566は斎串の断片である。土器は5点を図化した。568～571は土師器の杯である。568は外面はヘラミガキ、内面は放射状暗文を施している。570、571は赤色塗彩である。



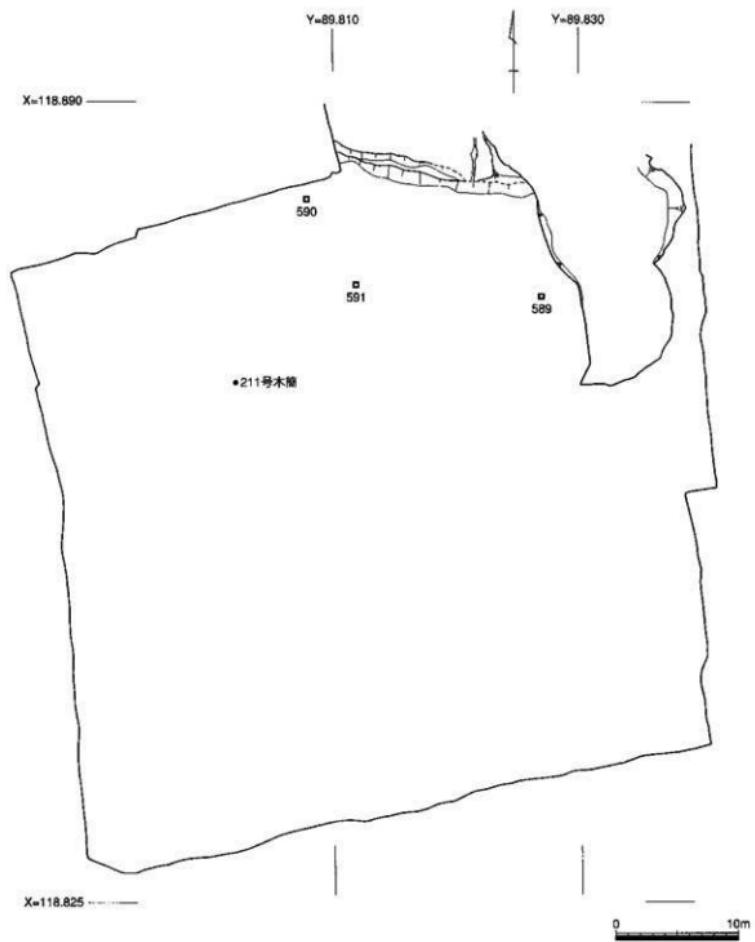
第260図 南区（2000年度1区）SR3001Ⅳ層遺物出土状況ドット図



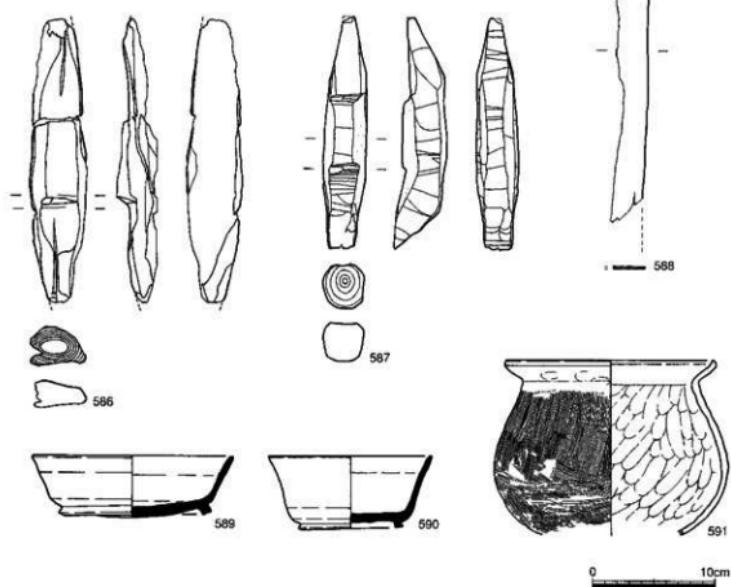
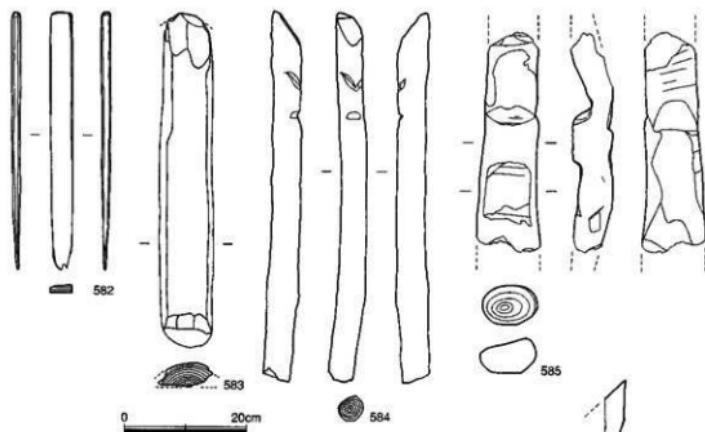
第261図 南区（2000年度1区）SR3001VII層出土遺物

自然流路（SR3001）VII層出土遺物（第260～261図）

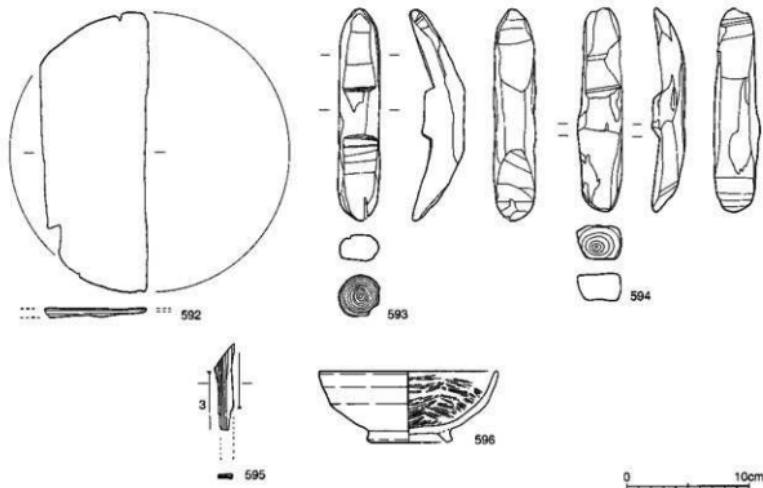
木製品は4点を図化した。573は祭祀具の正面全身人形である。顔は墨書きで左手部は切り込みにより表現している。574、575は舟形である。土器は5点を図化した。577、578は土師器の杯である。579は土師器の壺である。580は土錘か。



第262図 南区（2000年度1区）SR3001IX層遺物出土状況ドット図



第263図 南区（2000年度1区）SR3001IX層出土遺物



第264図 南区（2000年度1区）SR3001出土遺物

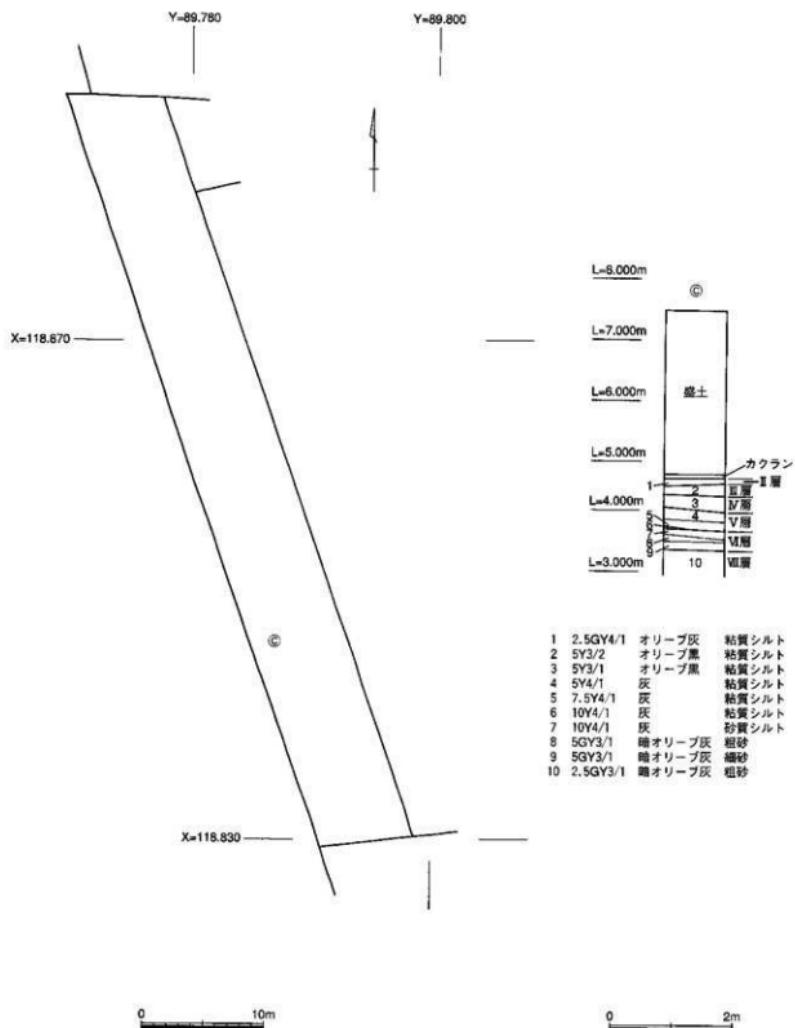
自然流路（SR3001）IX層出土遺物（第262、263図）

木製品は7点を図化した。582は籠である。583は櫂か。584は円筒状人形である。585～587は舟形である。588は斎巾である。土器は3点を図化した。589、590は須恵器の杯である。591は土師器の壺である。

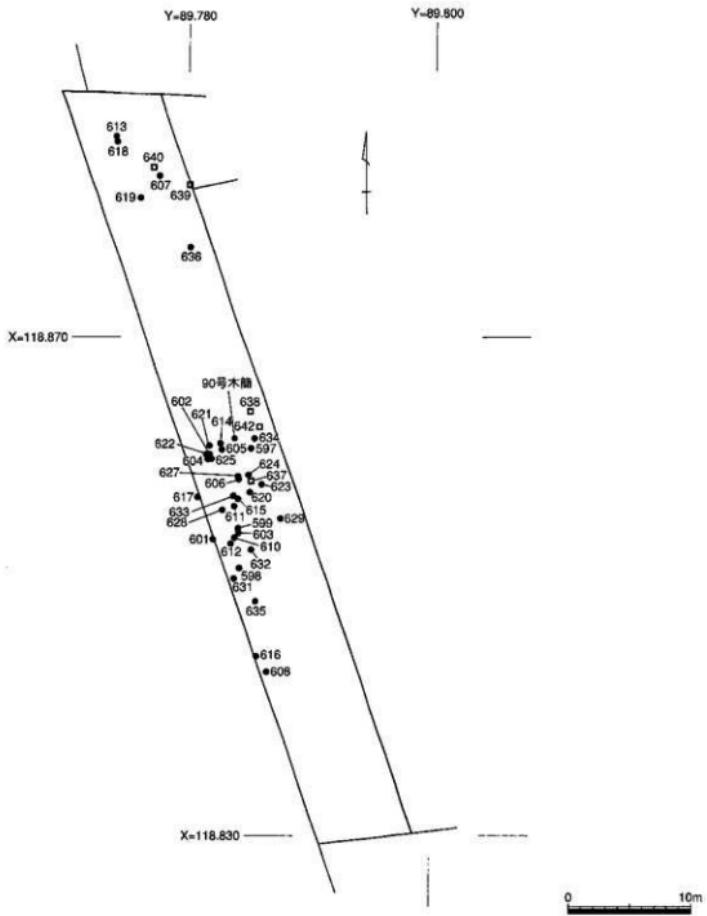
自然流路（SR3001）出土遺物（第264図）

木製品は4点を図化した。592は円形曲物の底板である。593、594は舟形である。595は斎串である。596は黒色土器B類の椀である。

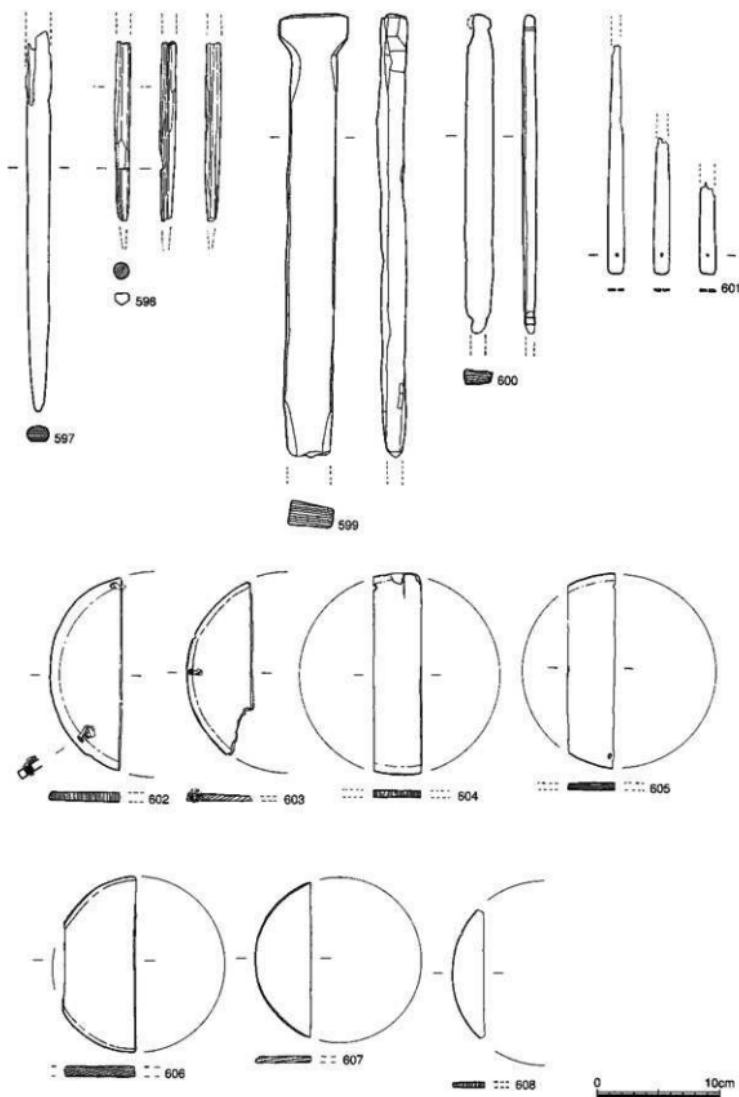
(24) 2004年度2区



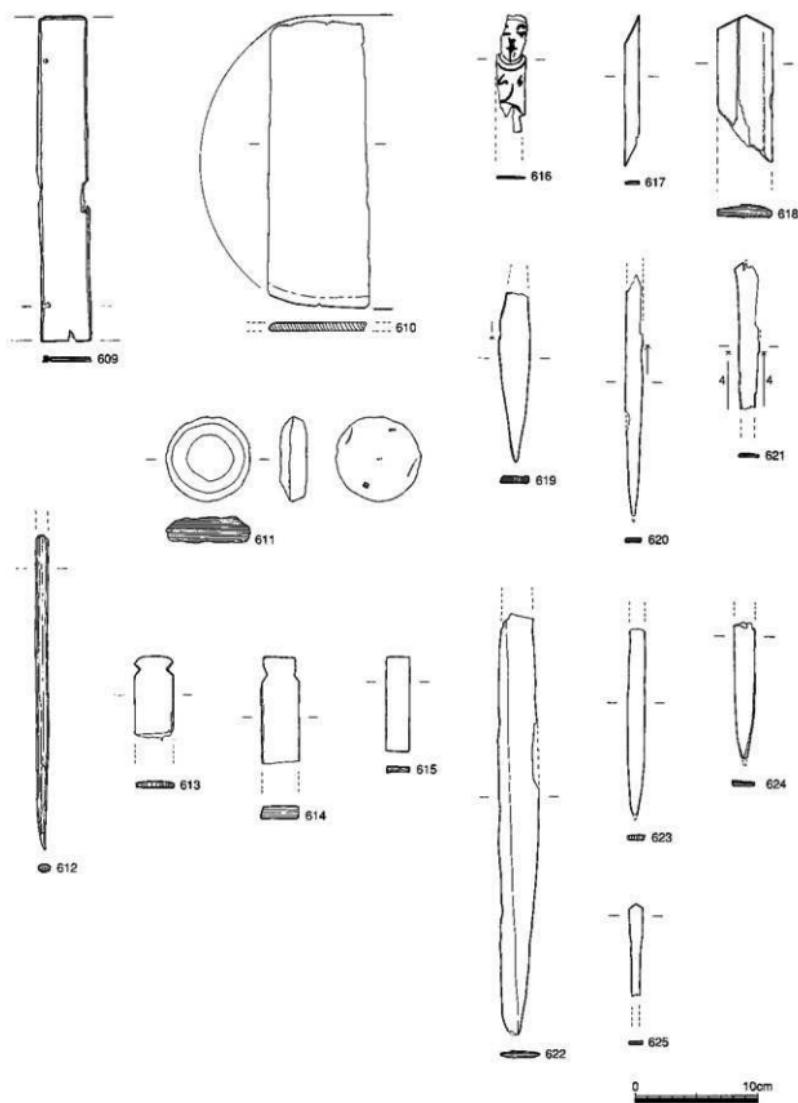
第265図 南区(2004年度2区)調査区平面図・土層柱状図



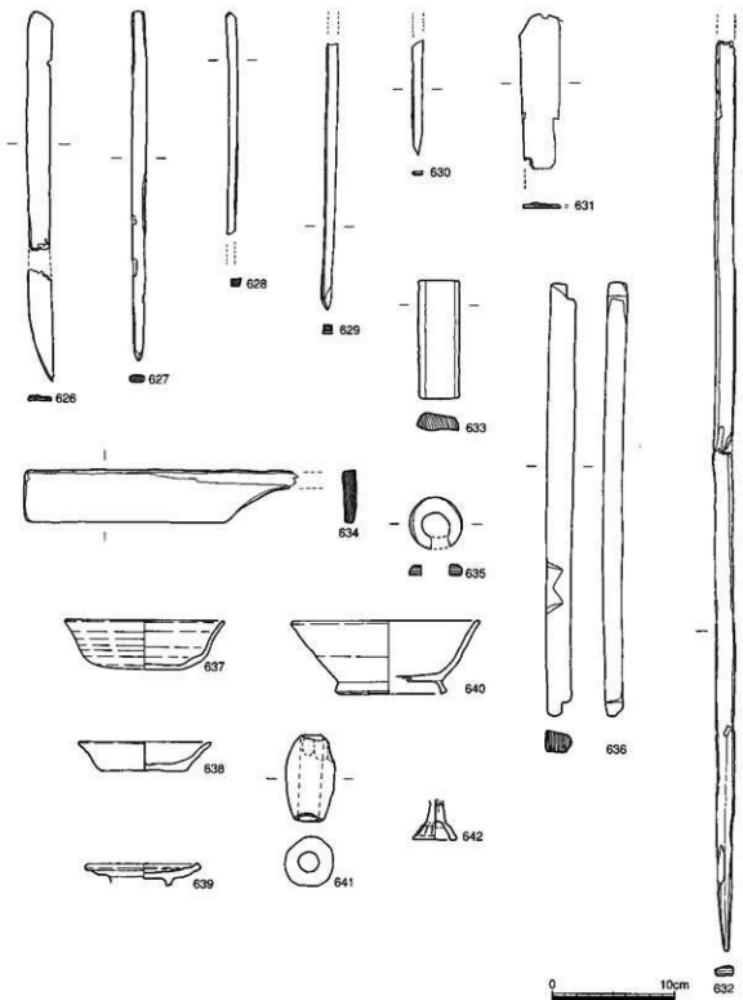
第266図 南区（2004年度2区）SR3001 II層遺物出土状況ドット図



第267図 南区（2004年度2区）SR3001 II層出土木製品（農具・紡織具・服飾具・容器）



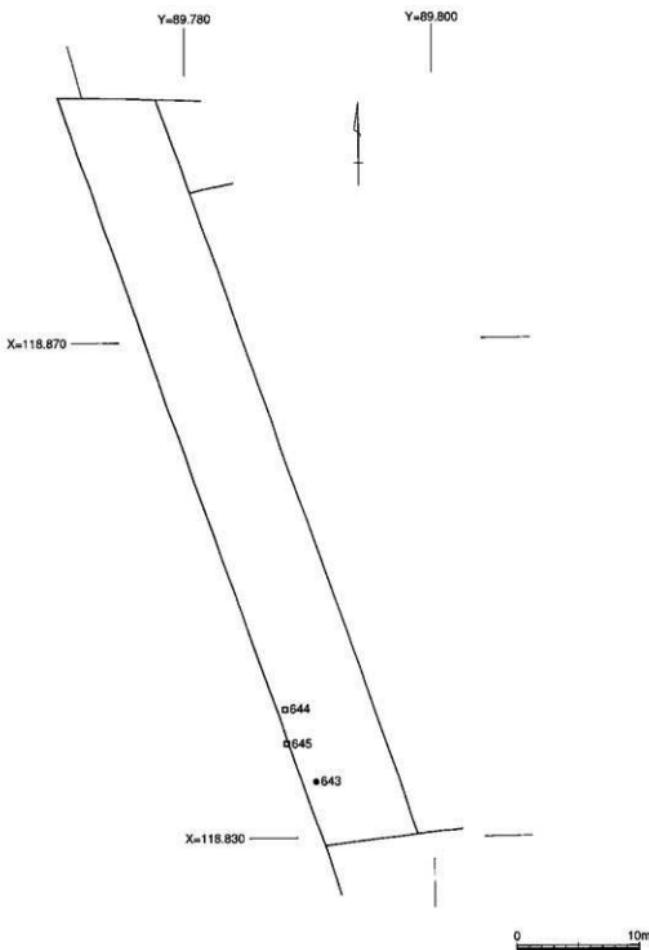
第268図 南区（2004年度2区）SR3001 II層出土木製品（容器・食事具・文房具・祭祀具）



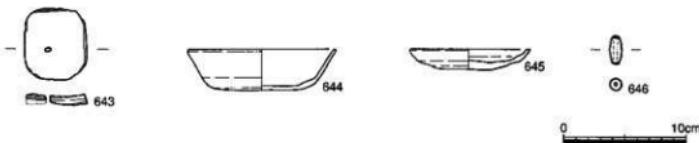
第269図 南区（2004年度2区）SR3001 II層出土遺物

自然流路（SR3001）II層出土遺物（第266～269図）

木製品は40点を図化した。597、598は縫針である。599、600は紡織具である。601は櫛刷である。602～610は曲物の底板である。大部分は円形であるが、方形や梢円形のものも含まれる。611は挽物の基部



第270図 南区（2004年度2区）SR3001Ⅲ層遺物出土状況ドット図

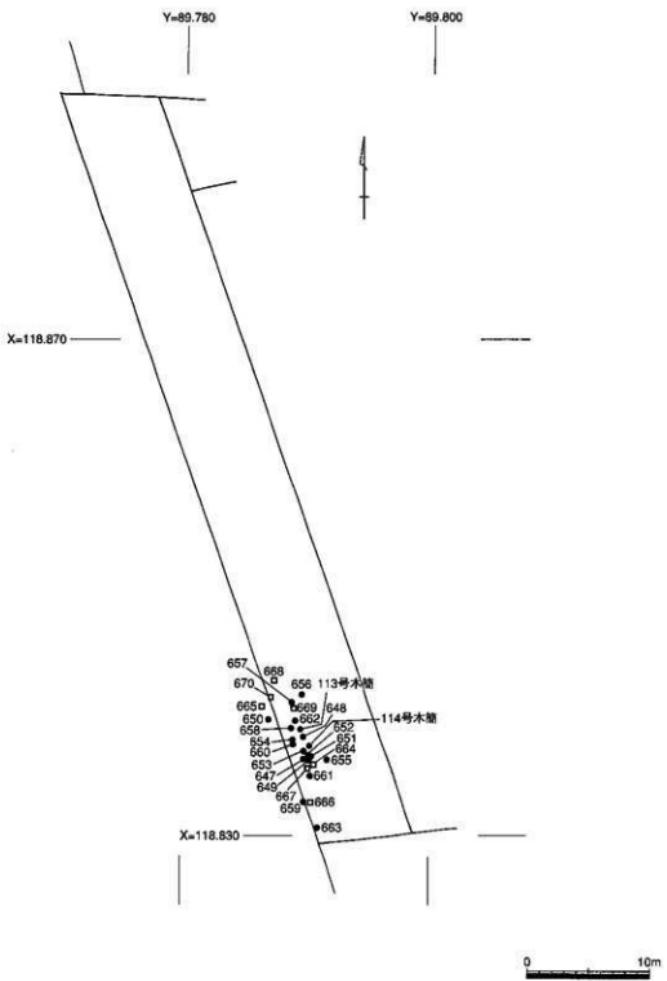


第271図 南区（2004年度2区）SR3001Ⅲ層出土遺物

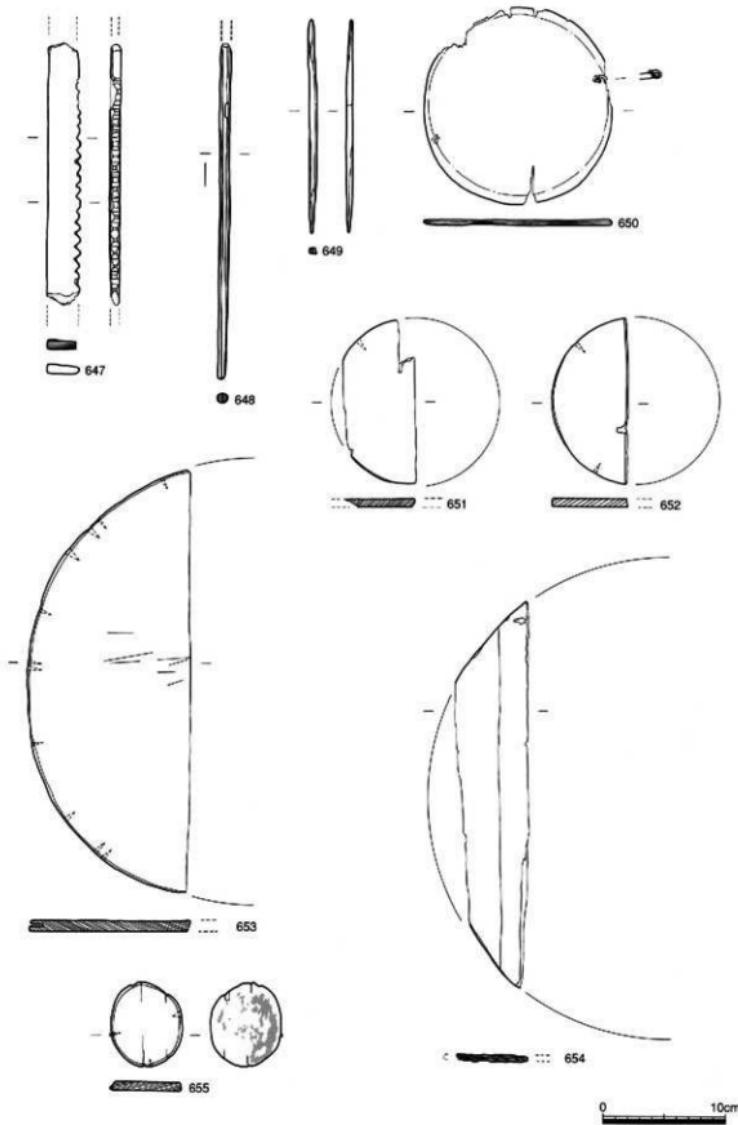
である。612は箸である。616は正面全身人形である。617～631は斎串である。632は棒状祭祀具である。634は台座である。土器は6点を図化した。637、638は土師器の杯である。639は土師器の皿である。640は黒色土器B類の碗である。641は大型の土錘である。

自然流路（SR3001）Ⅲ層出土遺物（第270、271図）

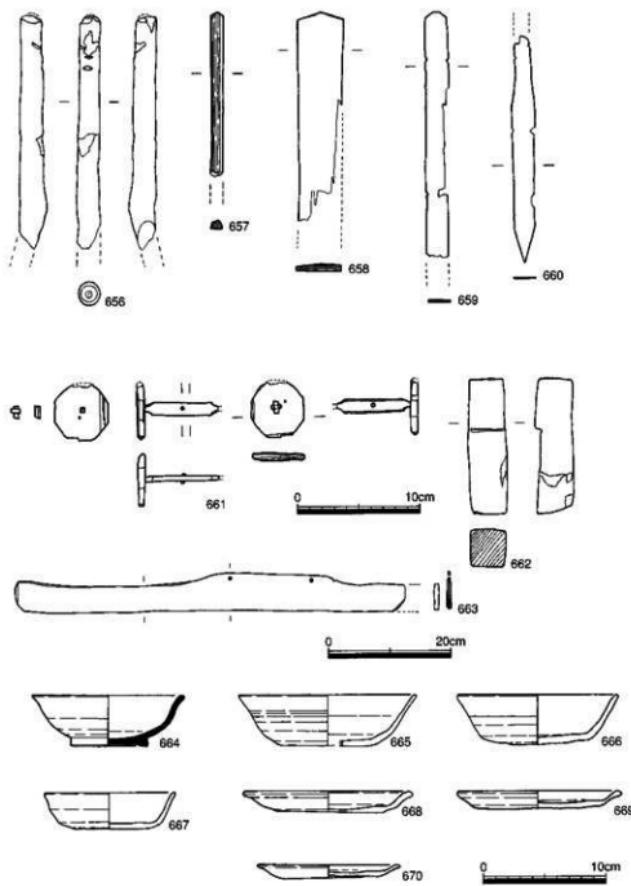
643は部材か。中心から外れた位置に穿孔がある。644は土師器の杯である。645は土師器の皿である。646は土錘である。



第272図 南区（2004年度2区）SR3001IV層遺物出土状況ドット図



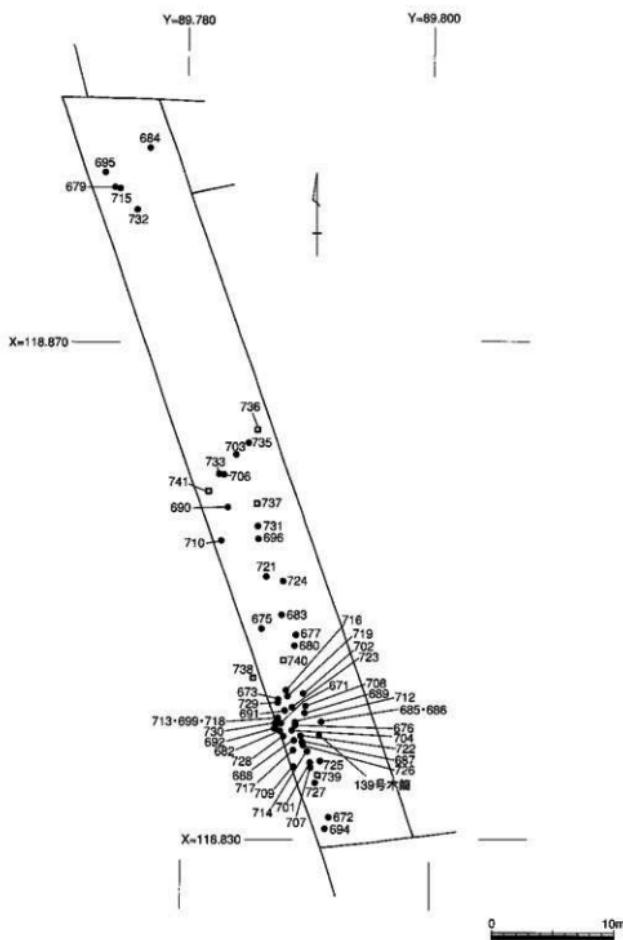
第273図 南区（2004年度2区）SR3001IV層出土木製品（農具・服飾具・容器）



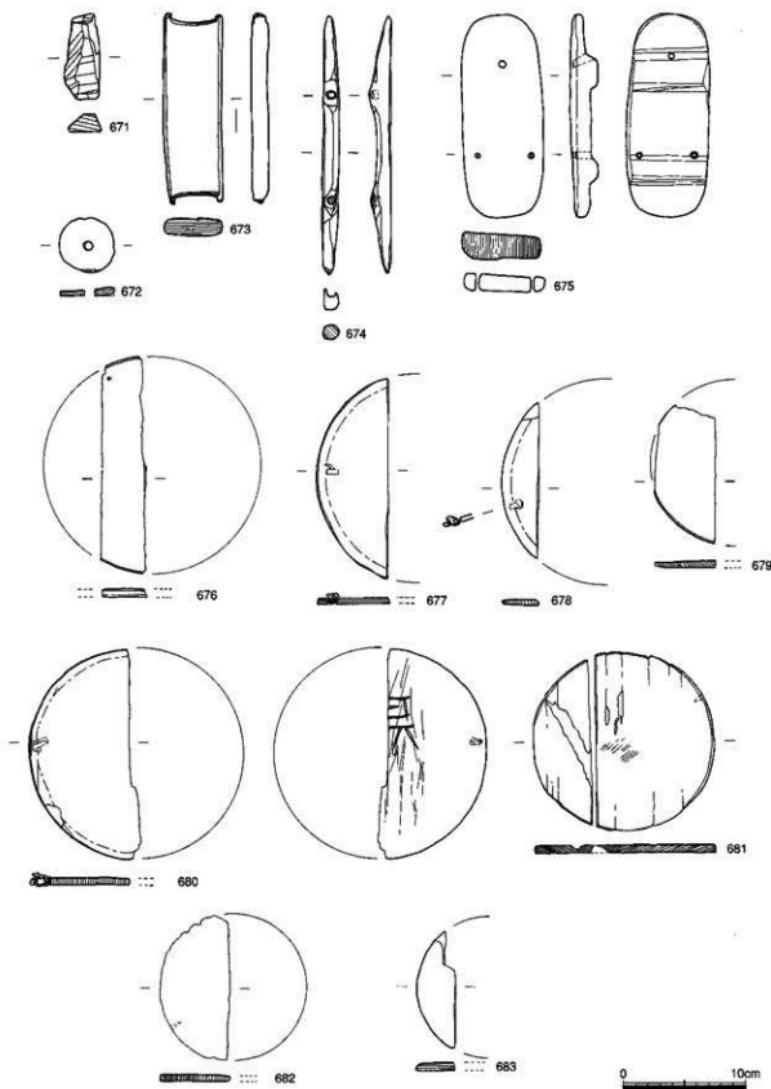
第274図 南区（2004年度2区）SR3001IV層出土遺物

自然流路（SR3001）IV層出土遺物（第272～274図）

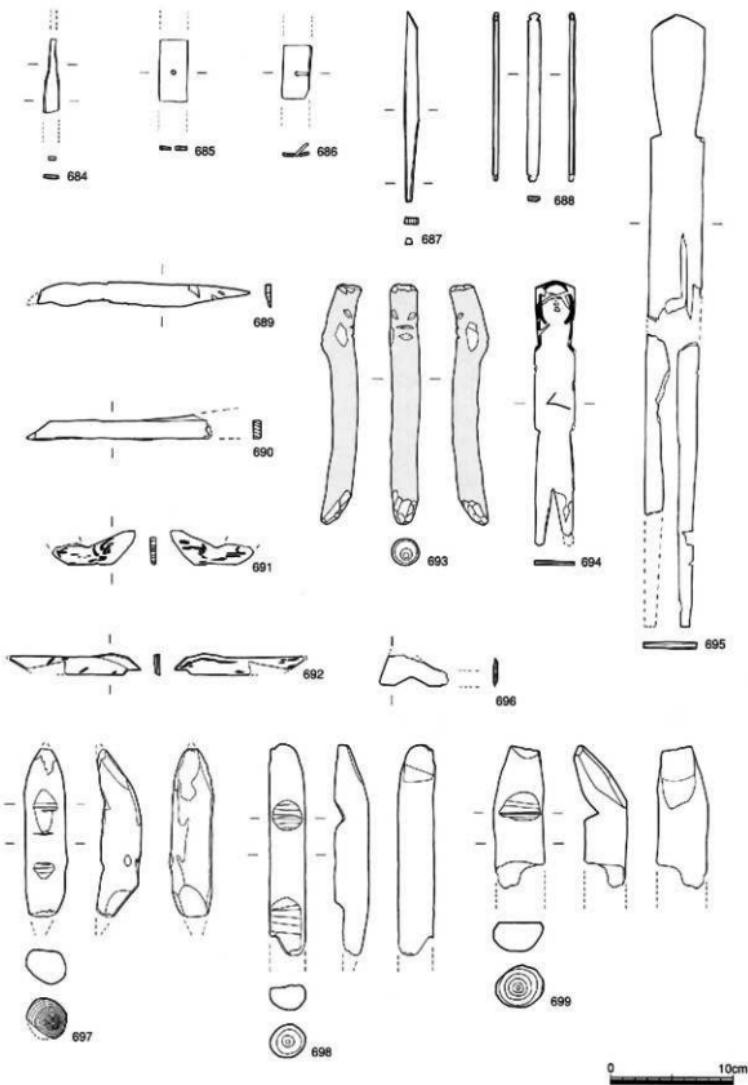
木製品は17点を図化した。647は編台である。648は編棒である。649は留針である。650～655は円形曲物の底板である。655は裏面に漆が塗布されている。656は円筒状人形である。657～660は斎串である。663は雑具の腰当てである。土器は7点を図化した。664は縁釉陶器の碗である。665～667は土師器の杯である。668～670は土師器の皿である。



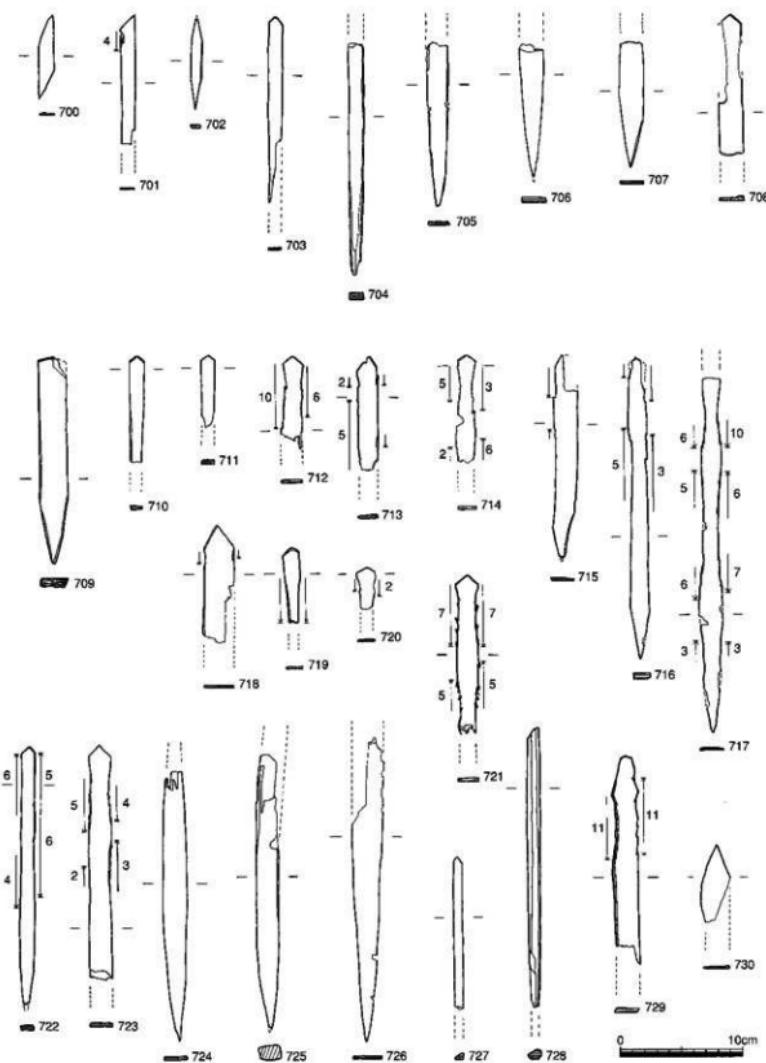
第275図 南区（2004年度2区）SR3001V層遺物出土状況ドット図



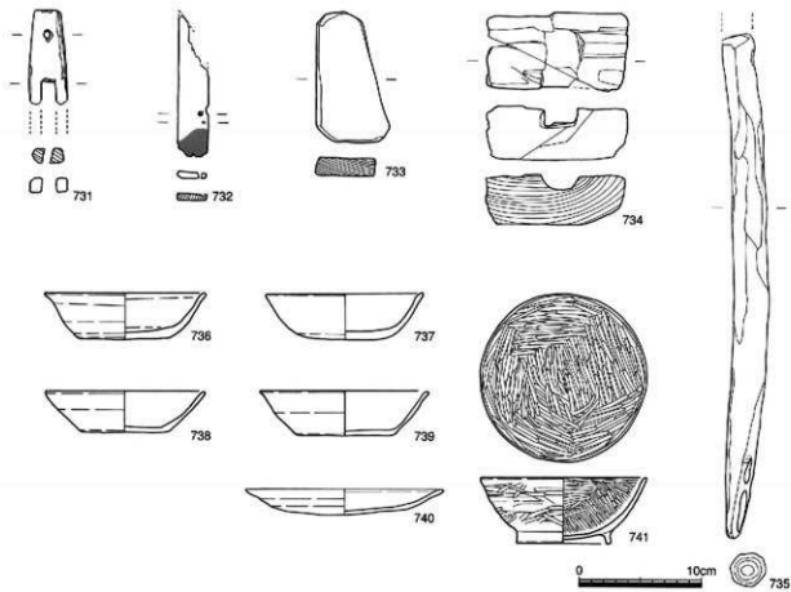
第276図 南区（2004年度2区）SR3001V層出土木製品（工具・紡織具・服飾具・容器）



第277図 南区（2004年度2区）SR3001V層出土木製品（食事具・文房具・祭祀具）



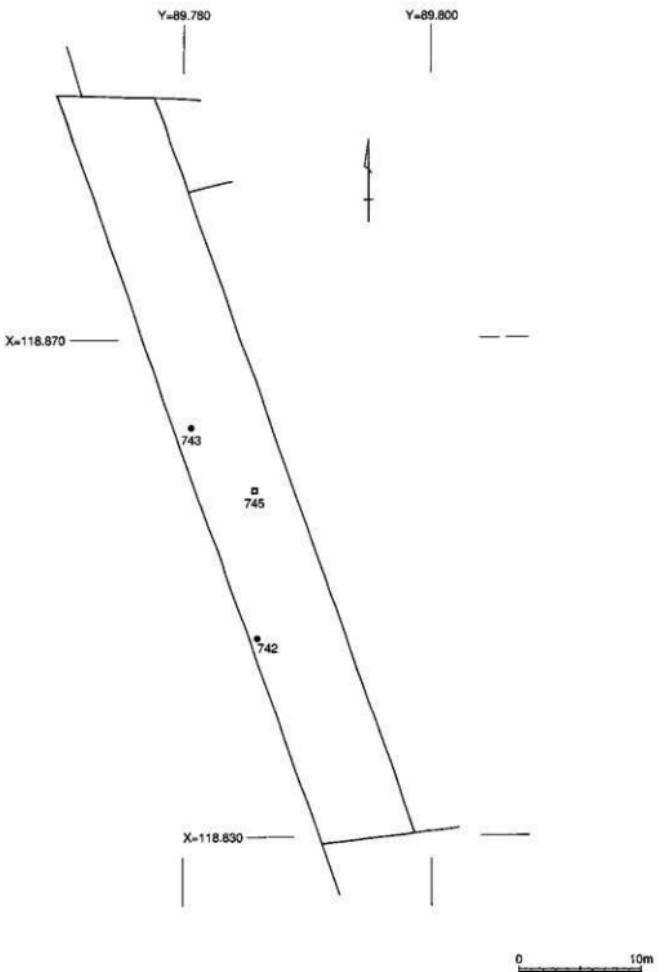
第278図 南区（2004年度2区）SR3001V層出土木製品（祭祀具）



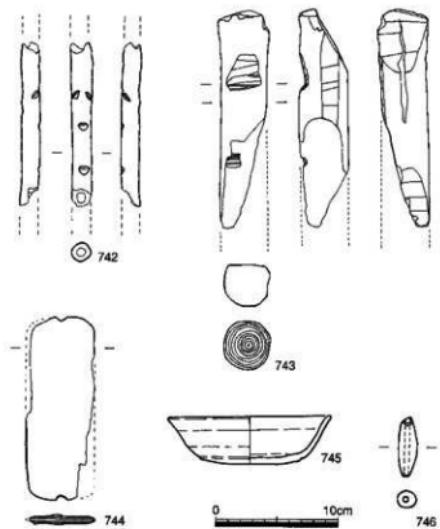
第279図 南区（2004年度2区）SR3001V層出土遺物

自然流路（SR3001）V層出土遺物（第275～279図）

本製品は63点を図化した。672は紡輪である。673は糸巻である。674は糸巻棒木である。横木を挿入するためのほぞ穴が2ヶ所残存している。675は服飾具の連歛下駄である。676～683は円形曲物の底板である。680は外面に「貝」と彫られている。687は刀子形である。688は紡織具形である。689～692は鳥形である。691、692は墨痕がある。墨で羽を表現したものか。693は円筒状人形である。694、695は正面全身人形である。694は墨書で髪の毛、眉、目、鼻、口手（袖）を表現している。696は馬形の断片か。697～699は舟形である。700～730は斎車である。731は雑具の自在か。土器は6点を図化した。736～739は土師器の杯である。739は内面に煤が付着し、灯明皿として使用されたものか。740は土師器の皿である。741は土師器の碗である。内外面ともに赤色塗彩され、丁寧にヘラミガキが施されている。



第280図 南区（2004年度2区）SR3001VI層遺物出土状況ドット図



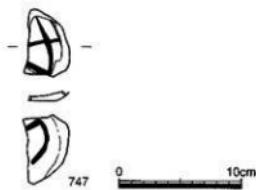
第281図 南区（2004年度2区）SR3001VI層出土遺物

自然流路（SR3001）VI層出土遺物（第280、281図）

742は円筒状人形である。743は舟形である。745は土師器の杯である。746は土錘である。

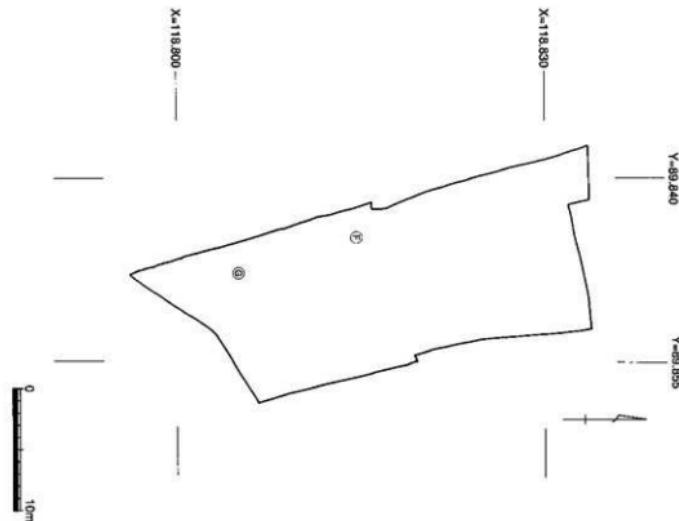
自然流路（SR3001）出土遺物（第282図）

747は墨書き土器である。土師器の杯の小破片に墨書きがあるが、文字の判読はできない。

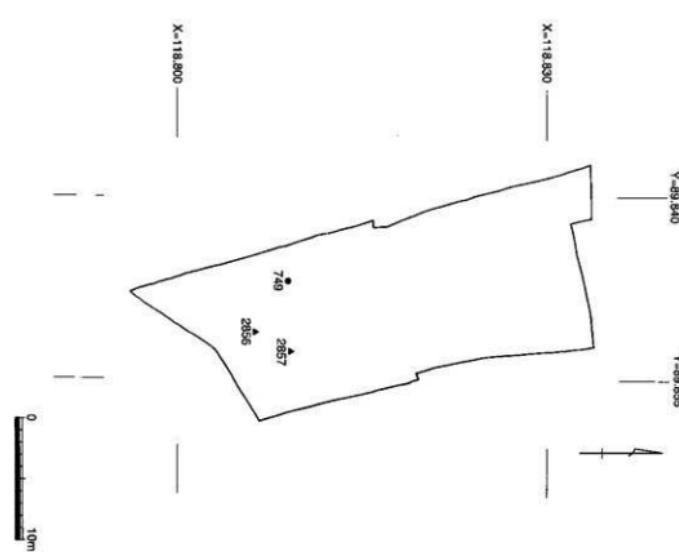


第282図 南区（2004年度2区）SR3001出土遺物

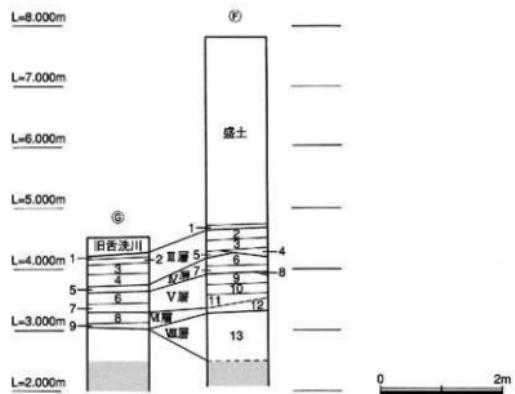
第283図 南区(2005年度1区) 調査区平面図



第284図 南区(2005年度1区) SR3001 I層遺物出土状況ドット図



(25) 2005年度1区



1	5Y4/2	灰オリーブ	砂質シルト	1	2.5Y4/3	オリーブ褐	シルト
2	5Y4/1	灰オリーブ	砂質シルト	2	2.5Y4/2	鷺灰黄	シルト
3	5Y3/2	オリーブ黒	粘質シルト	3	2.5Y3/3	鷺オリーブ褐	シルト
4	5Y3/2	オリーブ黒	粘質シルト	4	2.5Y4/2	鷺灰黄	砂質シルト
5	5Y4/1	灰	細砂混じり粘質シルト	5	5Y4/2	灰オリーブ	砂質シルト
6	5Y3/2	オリーブ黒	粘質シルト	6	5Y4/1	灰	粘質シルト
7	2.5Y3/1	黒喬	粘質シルト	7	5Y4/2	灰オリーブ	粘質シルト
8	2.5Y3/2	オリーブ黒	粘質シルト	8	5Y4/1	灰	粘質シルト
9	5Y4/1	灰	砂質シルト	9	5Y3/2	オリーブ黒	粘質シルト
				10	5Y4/2	灰オリーブ	粘質シルト
				11	5Y4/1	灰	粘質シルト
				12	7.5Y4/1	灰	粗砂
				13	5GY2/1	オリーブ黒	粗砂

第285図 南区（2005年度1区）土層柱状図

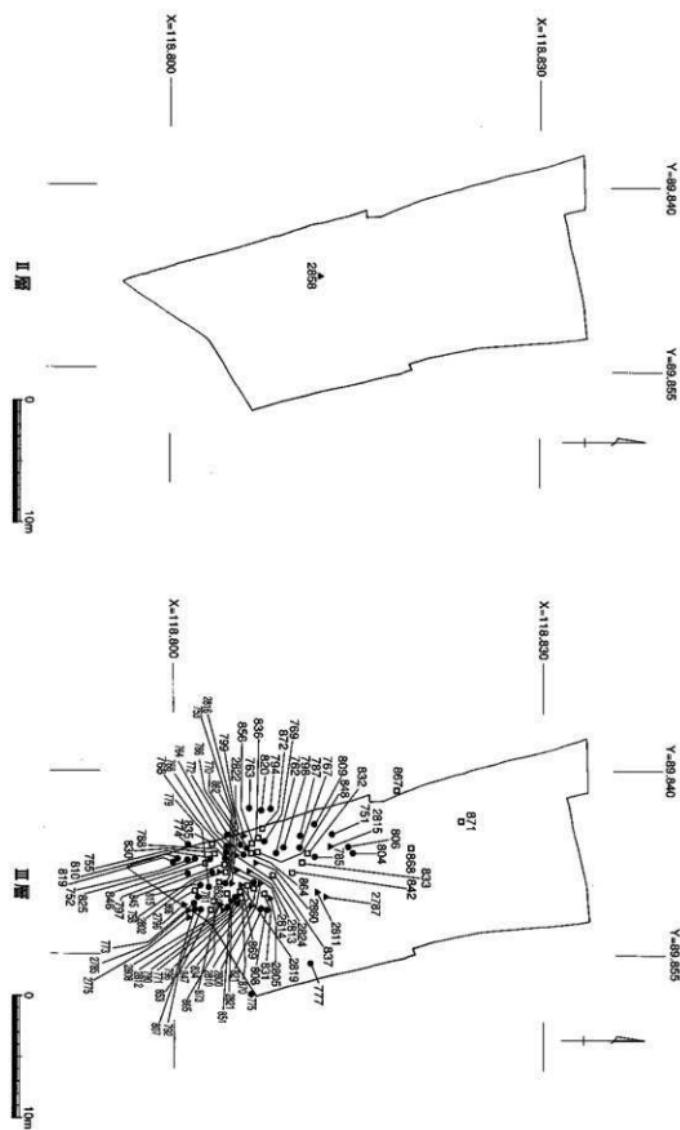


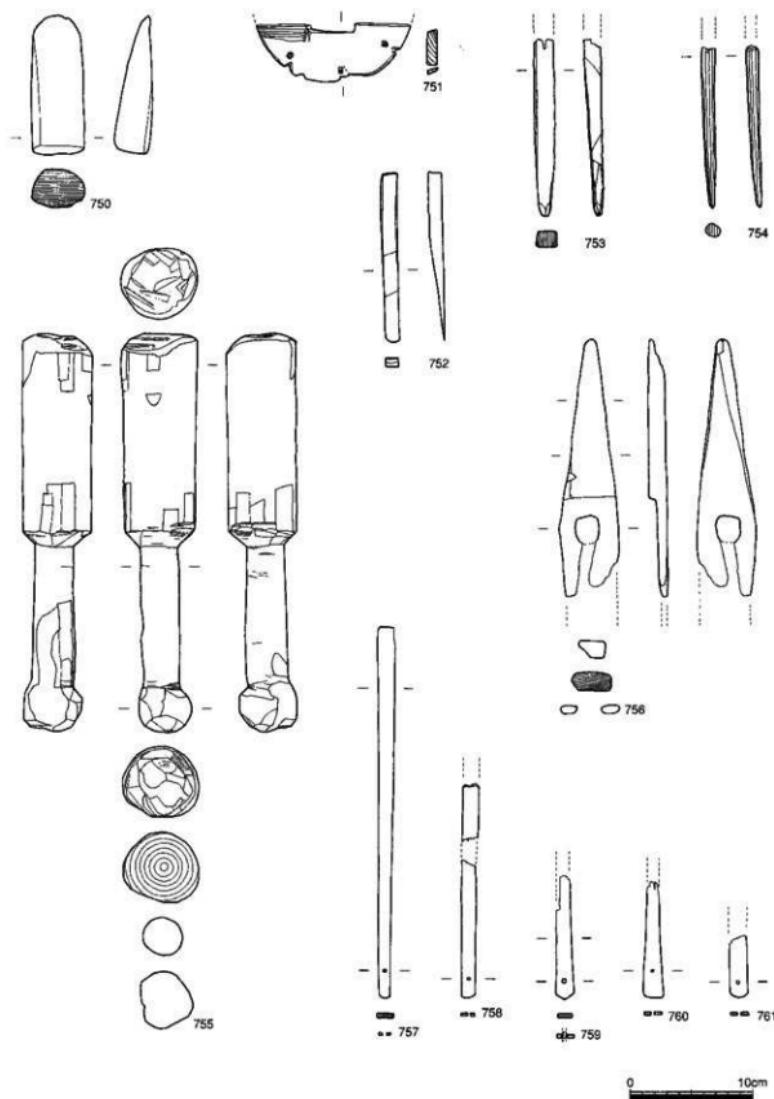
第286図 南区（2005年度1区）SR3001 I層出土木製品（服飾具・容器）

自然流路（SR3001）I層出土遺物（第284～286図）

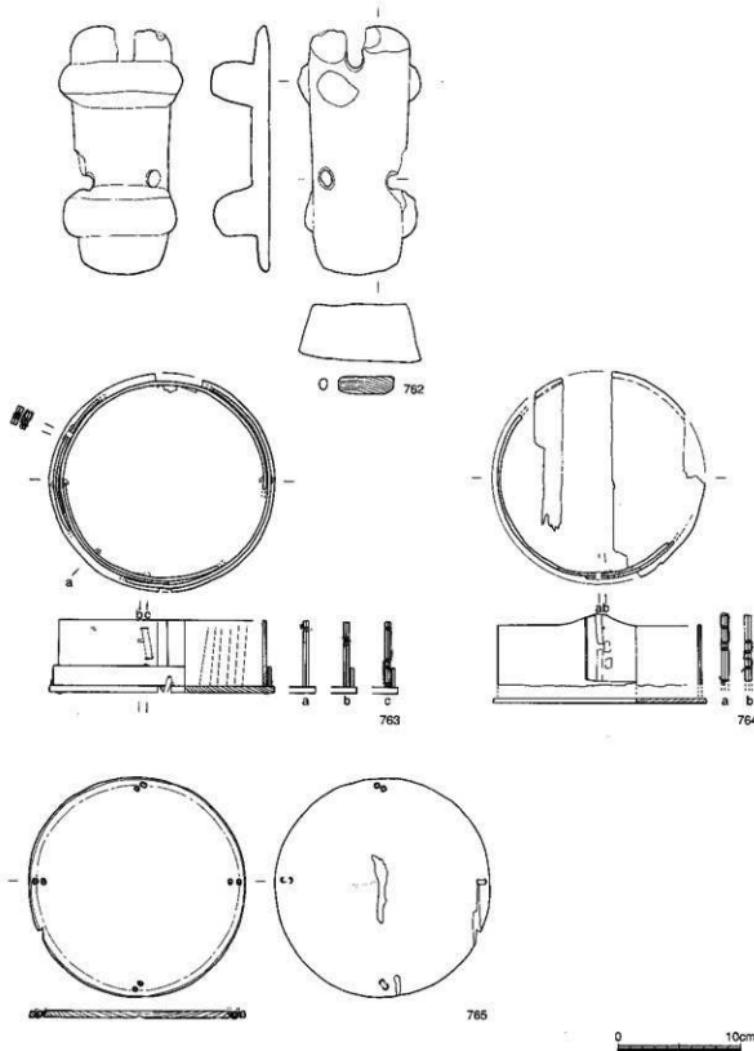
木製品は2点を図化した。748は服飾具の差歛下駄である。左右ともに描っており、台に指、踵の圧痕と焼き印がある。749は容器の挽物である。外面は黒漆、内面は赤漆が塗布されている。

第287図 南区(2005年度1区) SR3001 II層・III層遺物出土状況ドット図

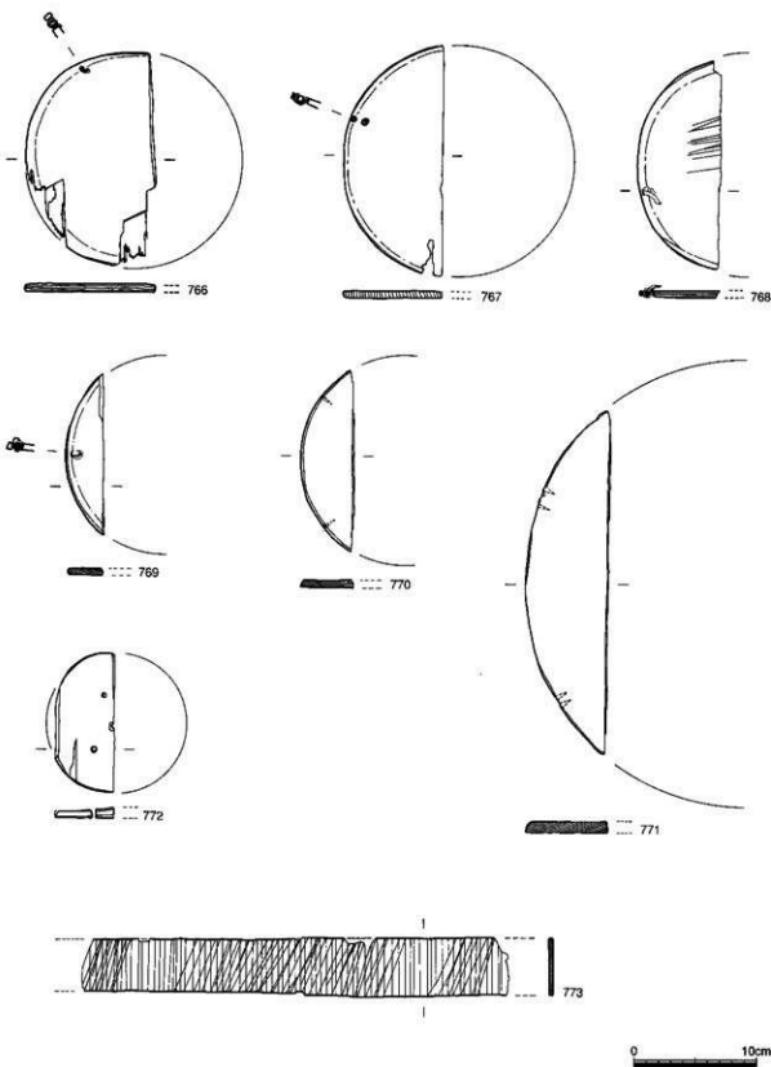




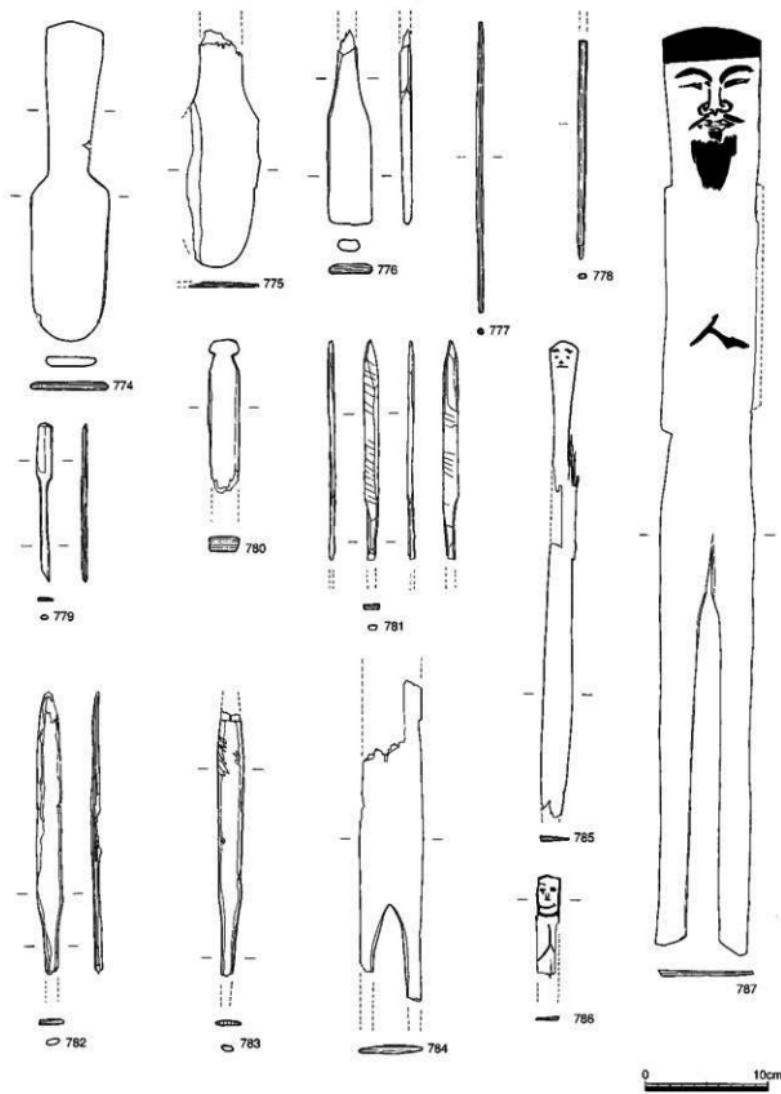
第288図 南区（2005年度1区）SR3001Ⅲ層出土木製品（工具・農具・紡織具・服飾具）



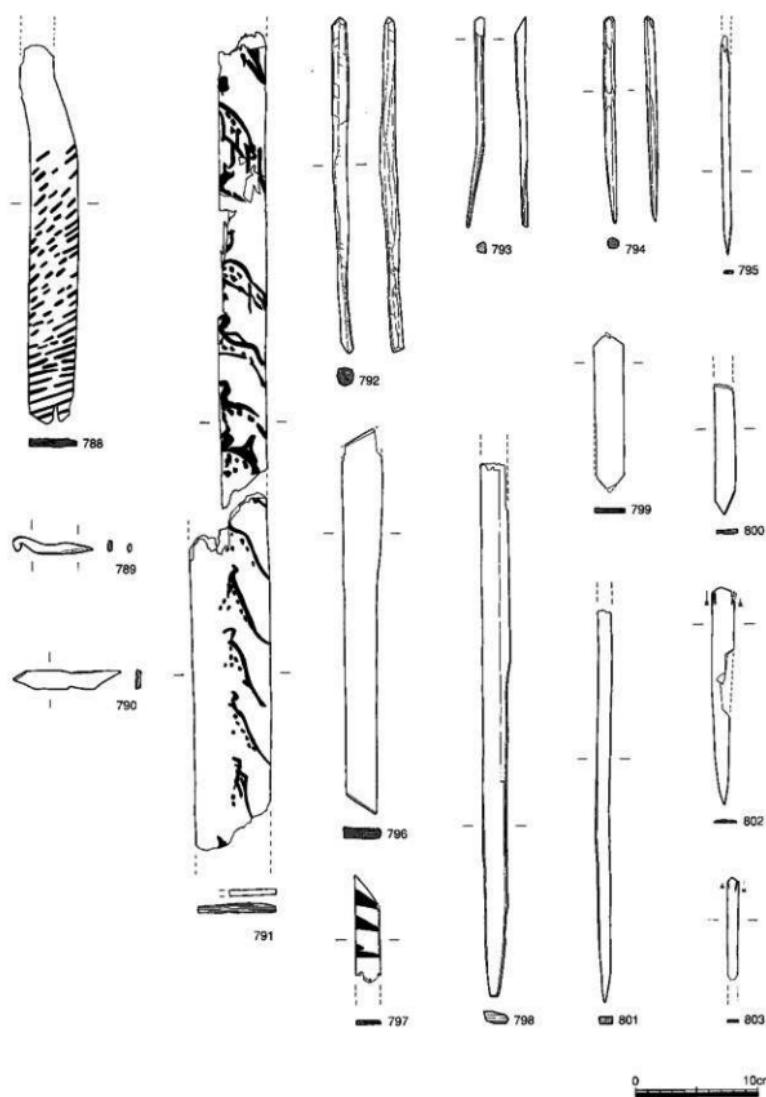
第289図 南区（2005年度1区）SR3001Ⅲ層出土木製品（服飾具・容器）



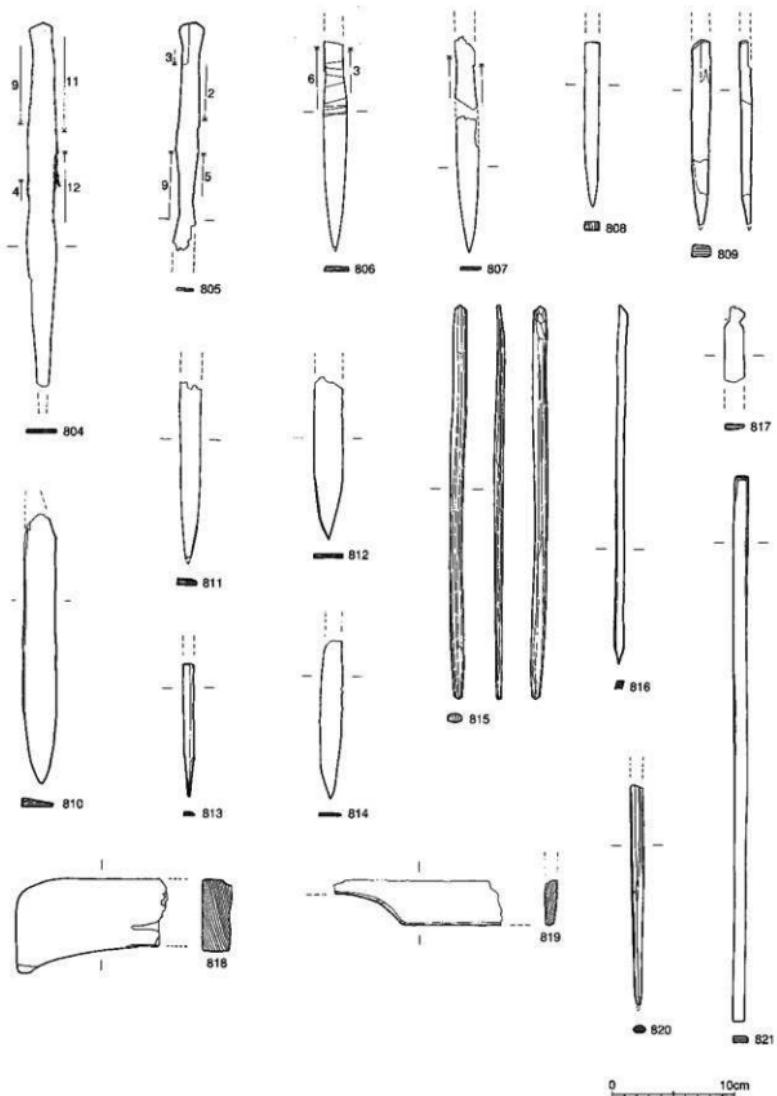
第290図 南区（2005年度1区）SR3001Ⅲ層出土木製品（容器）



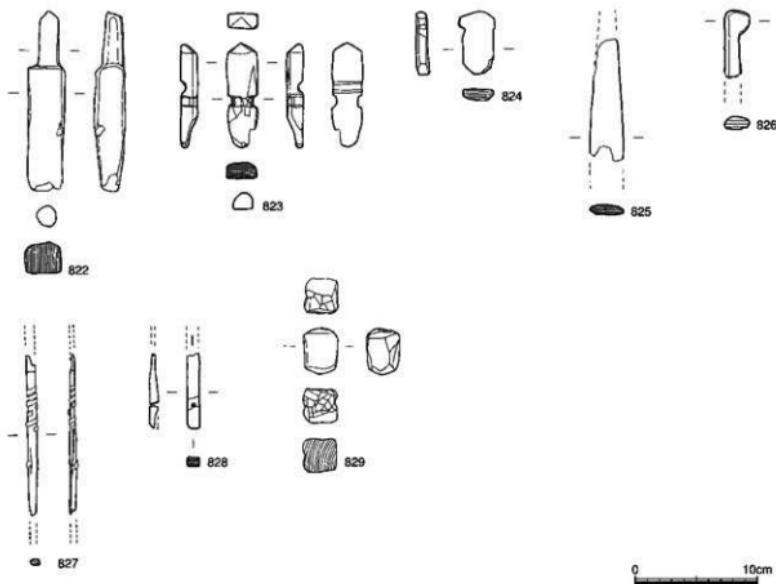
第291図 南区（2005年度1区）SR3001Ⅲ層出土木製品（食事具・文房具・祭祀具）



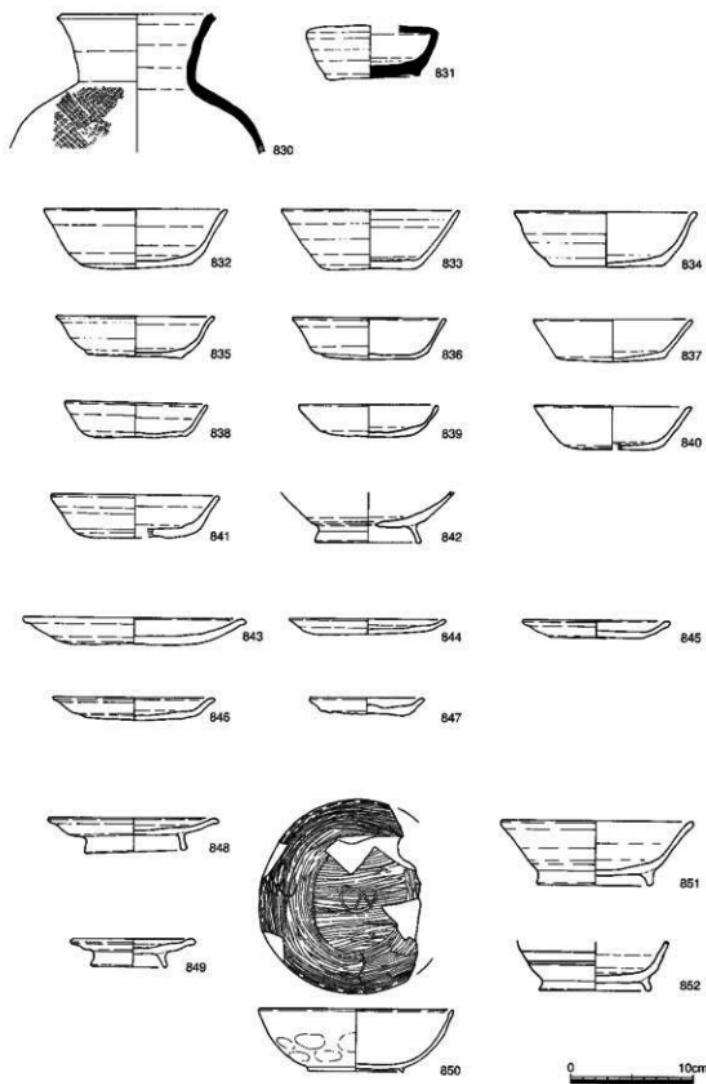
第292図 南区（2005年度1区）SR3001Ⅲ層出土木製品（祭祀具）



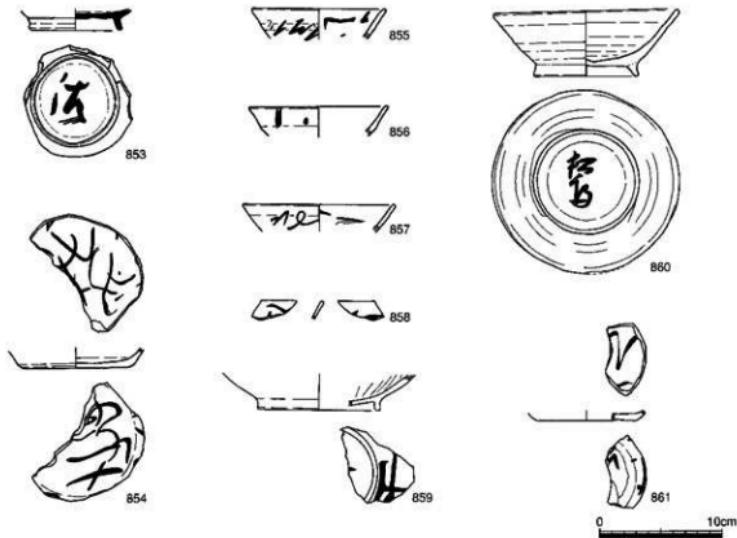
第293図 南区（2005年度1区）SR3001Ⅲ層出土木製品（祭祀具・部材）



第294図 南区（2005年度1区）SR3001Ⅲ層出土木製品（部材・用途不明）



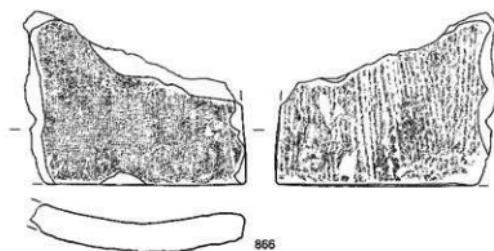
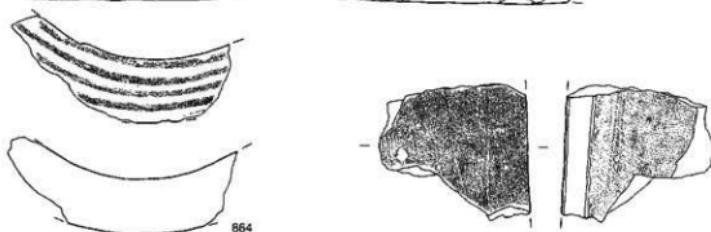
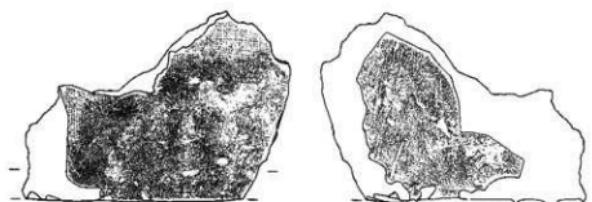
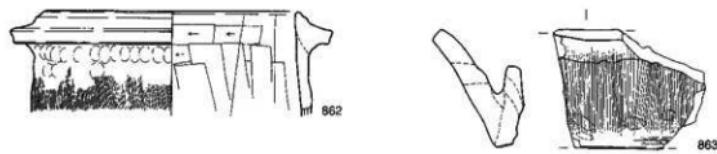
第295図 南区（2005年度1区）SR3001Ⅲ層出土遺物（1）



第296図 南区（2005年度1区）SR3001Ⅲ層出土遺物（2）

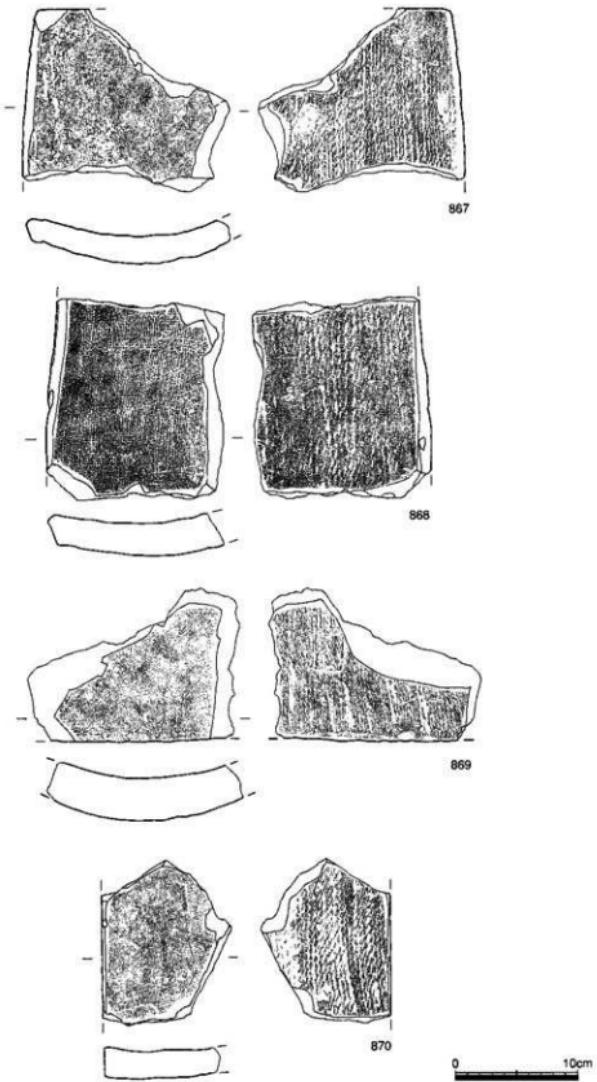
自然流路（SR3001）Ⅲ層出土遺物（第287～299図）

木製品は80点を図化した。750は楔である。751は座金形である。外周を六花形に成形し、穿孔が3ヶ所にある。753、754は馬鍔である。755は農具の横樋である。柄尻を有頭状に削り出している。756は大型の糸巻横木である。757～761は檜扇である。762は連齒下駄である。763、764は円形曲物の底板と側板が結合したものである。765～771は底板、772は蓋板である。773は曲物の側板である。内面に多数の罫引線が付けられている。774～776は杓子である。777、778は箸である。779は刺串か。板を削り平らな部分と棒状の部分を成形している。下端は斜めに尖らせている。780は織機である。781は刀子形、782、783は劍形である。784～787は祭祀具の正面全人形である。785は簾巾のC V型式に類似しているが、墨書きにより眉、目、鼻、口を描き下端は尖らせている。787は墨で頭（冠）、眉、日、鼻、口、髭を描く。788～791は祭祀具の鳥形である。788は墨痕が残存している。791は鳥の絵から文字になっていく様子を描いているものか。792～795は棒状祭祀具である。796～817は斎車である。818は雑具の腰掛けである。土器、土製品、瓦類は43点を図化した。830、831は須恵器の壺である。832～841は土師器の杯である。842は土師器の椀である。843～849は土師器の皿である。848、849は高台が付く。850は黒色土器A類の椀である。851、852は土師器の椀である。853～861は墨書き土器である。853は土師器の椀の底部外面に「佐」と墨書きしたもの。854は土師器の杯の底部外面に「八七六」と記し、内面に「此不」と墨書きする。855、858は土師器の杯の体部内外面に墨痕がある。文字の判読はできない。856は外表面のみに墨痕がある。857は土師器の杯である。体部外間にらせん模様、内面に松葉状模様がある。859は黒色土器A類の椀である。底部外面に「士」と墨書きする。860は赤色塗彩の土師器の椀である。底部外間に「松」

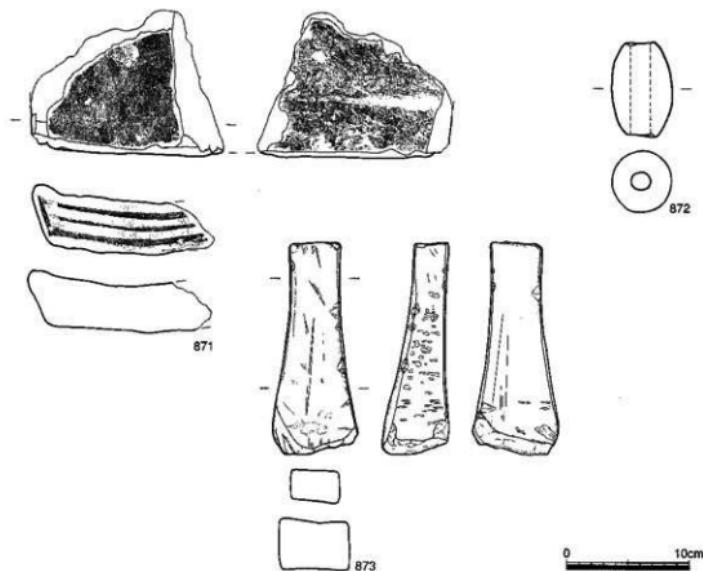


0 10cm

第297図 南区（2005年度1区）SR3001Ⅲ層出土遺物（3）

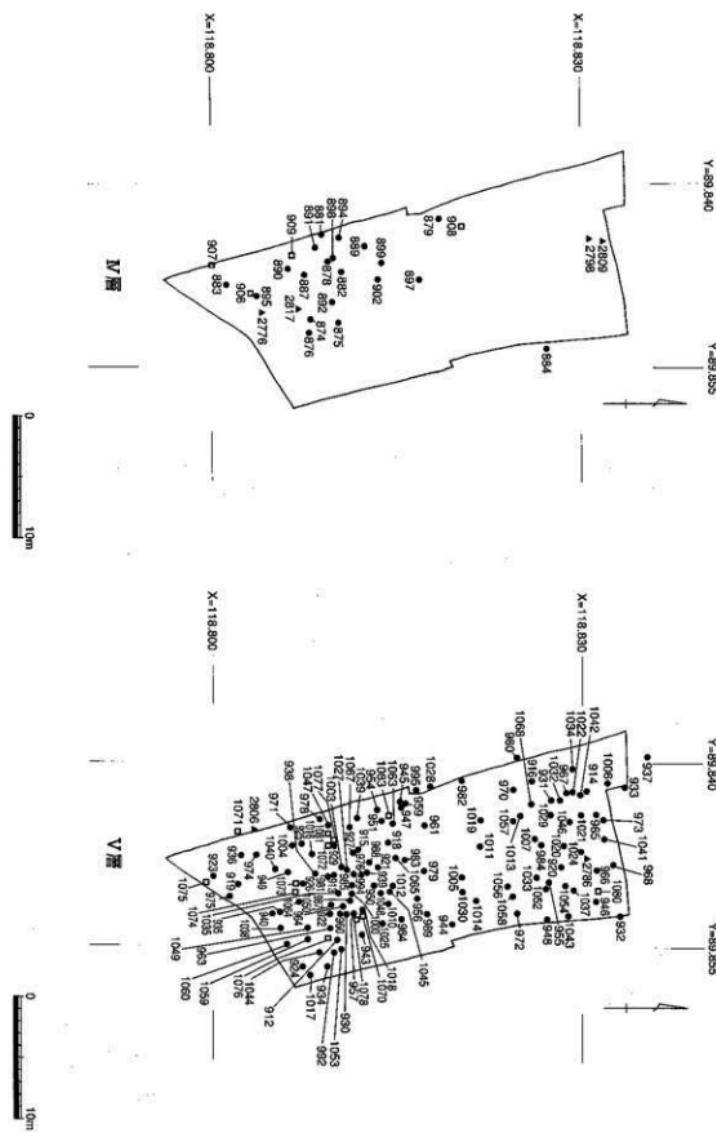


第298図 南区（2005年度1区）SR3001Ⅲ層出土遺物（4）

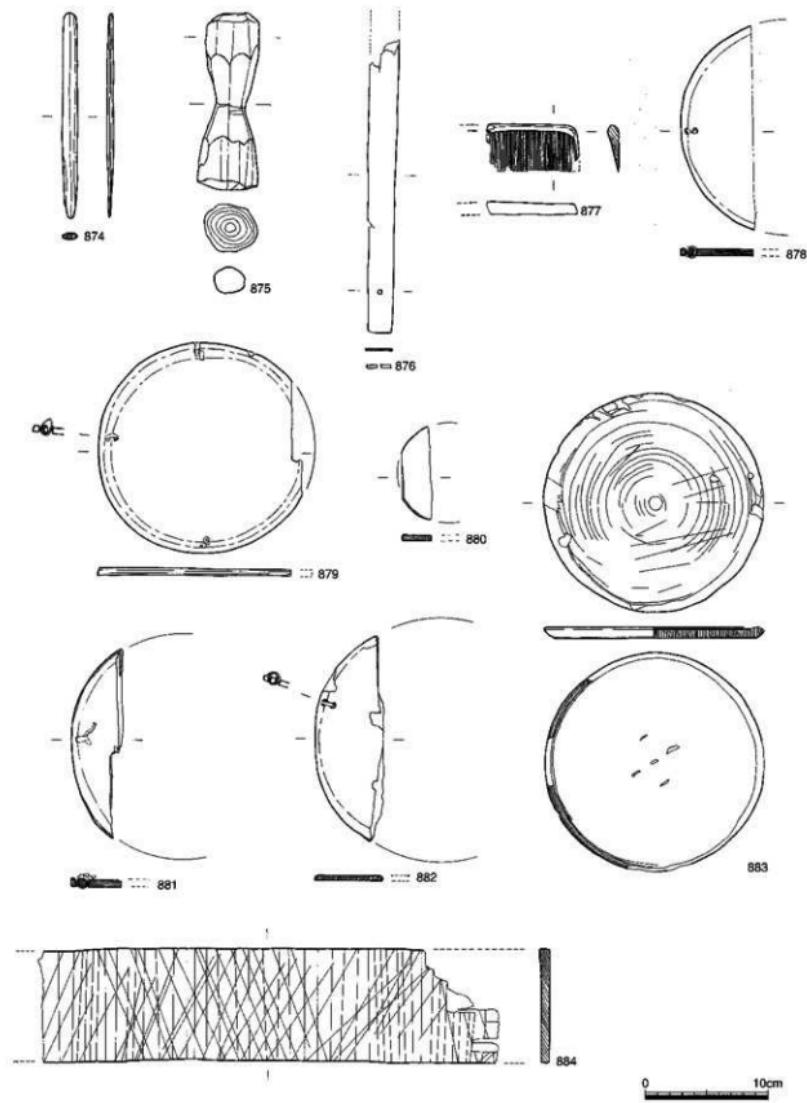


第299図 南区（2005年度1区）SR3001Ⅲ層出土遺物（5）

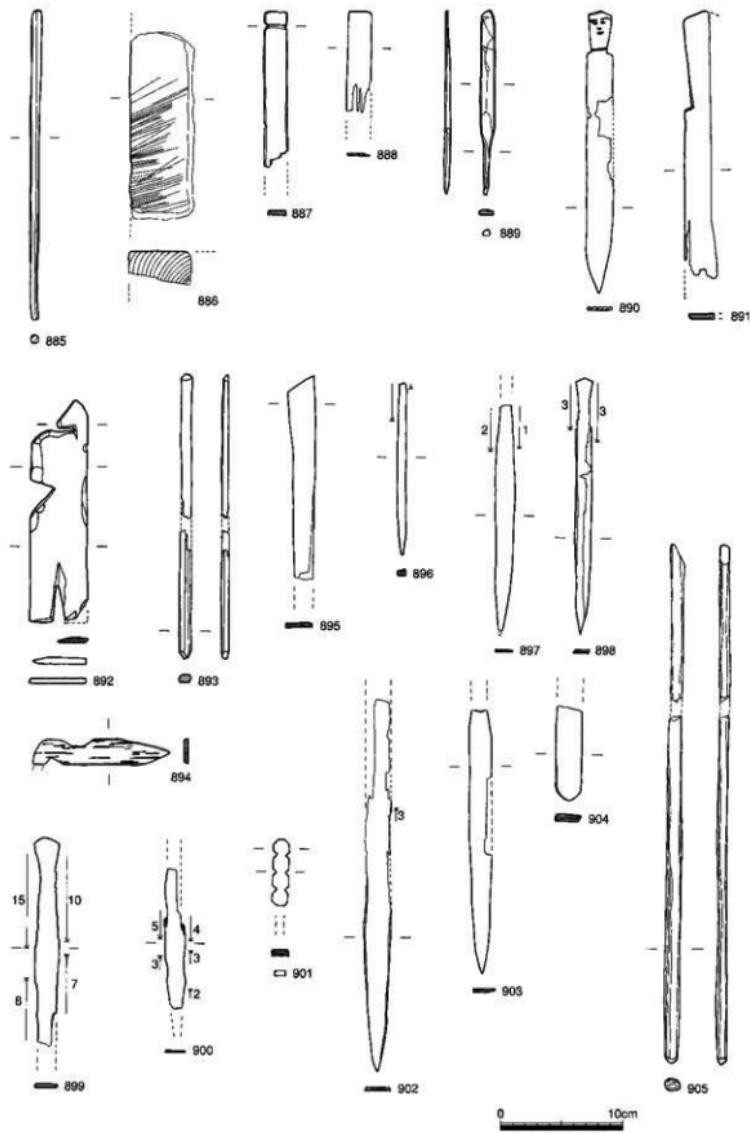
鷲」と墨書きする。「松鷲」は『和名類聚抄』によると板野郡松鷲郷が見える。861は土師器の皿の小破片である。外面は判読できないが、内面は「衣」と記す。862は土師器の羽釜である。863は甌の上部の一部である。864～871は瓦である。864と871は軒平瓦である。872は大型の土錘である。873は砂岩製の砥石である。



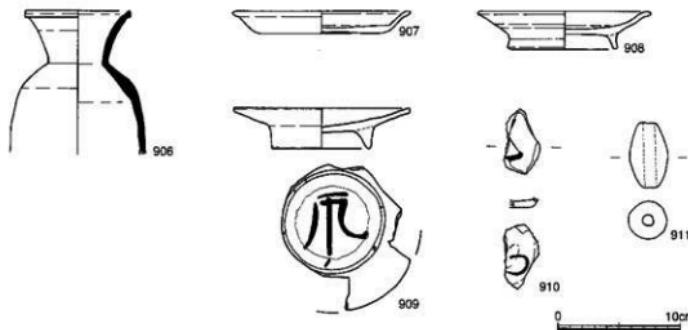
第300図 南区(2005年度1区) SR3001Ⅳ層・V層遺物出土状況ドット図



第301図 南区（2005年度1区）SR3001IV層出土木製品（工具・農具・服飾具・容器）



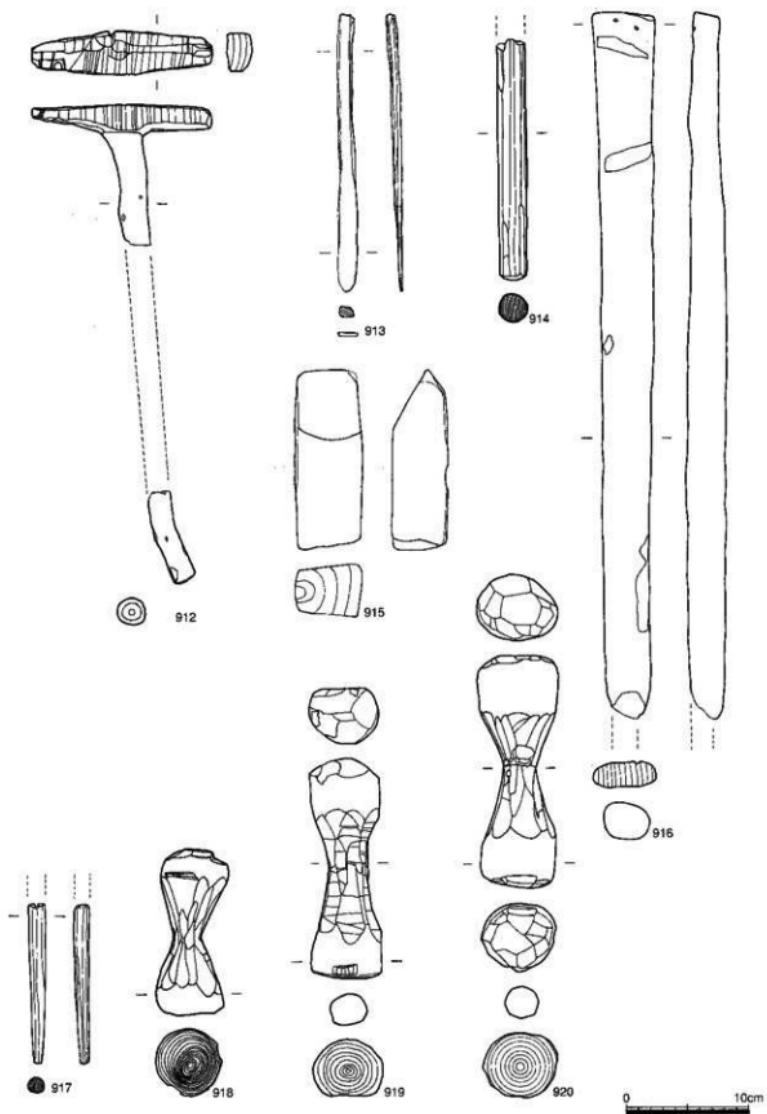
第302図 南区（2005年度1区）SR3001IV層出土木製品（食事具・文房具・祭祀具・雑具）



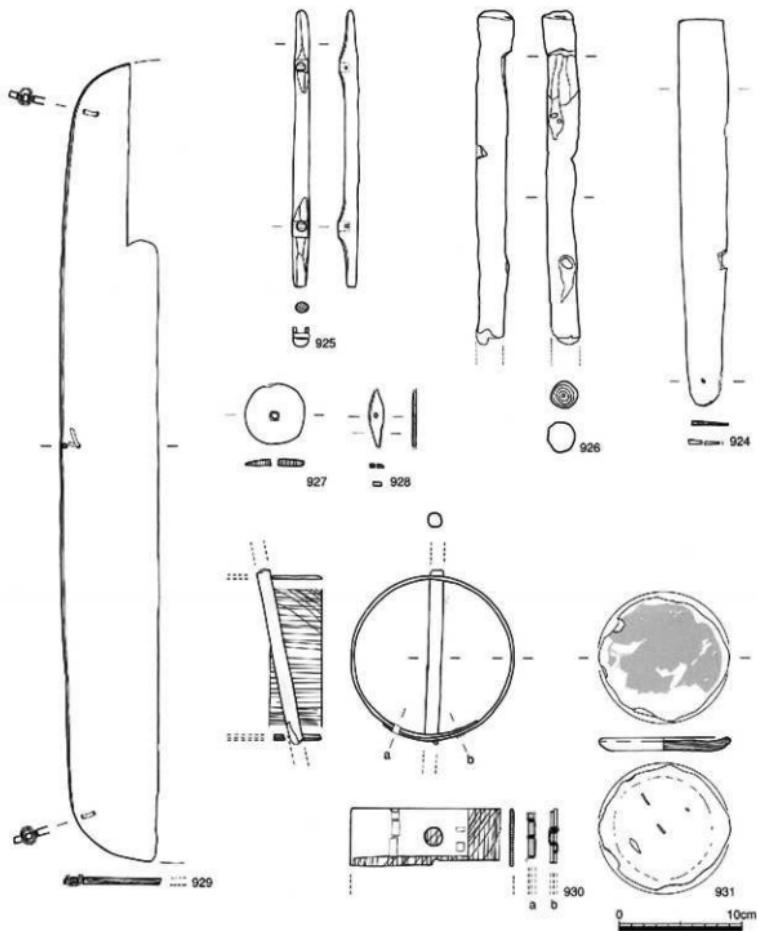
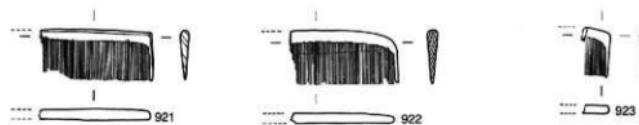
第303図 南区（2005年度1区）SR3001IV層出土遺物

自然流域（SR3001）IV層出土遺物（第300～303図）

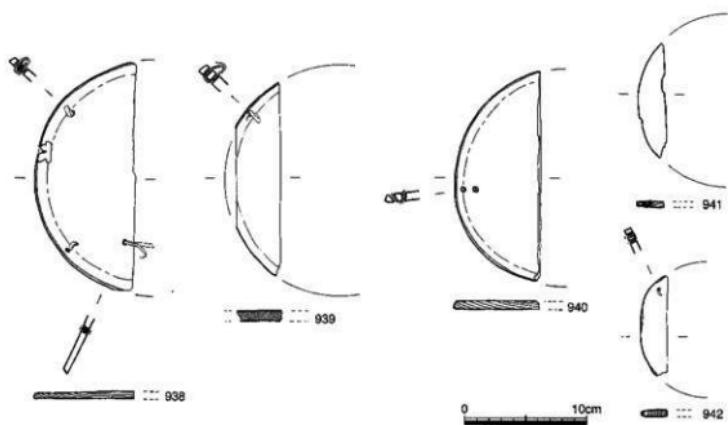
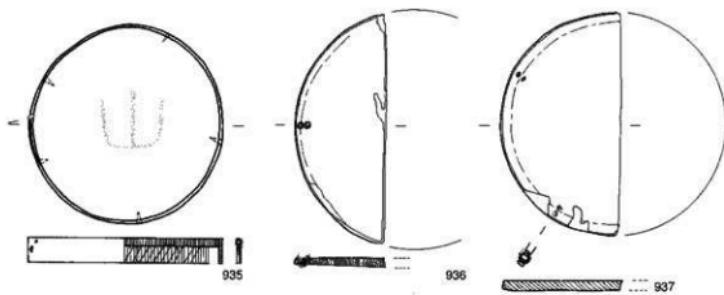
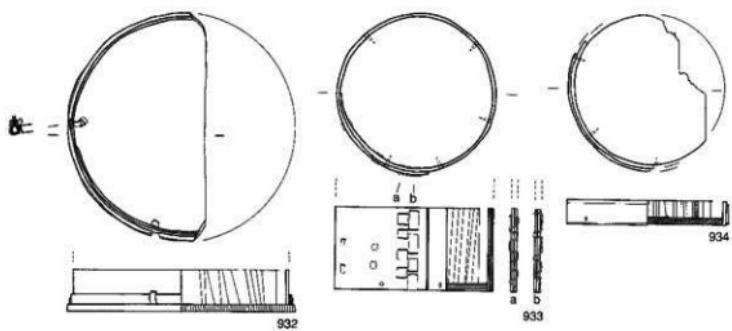
木製品は32点を図化した。874は箆である。875は木錘である。876は檜扇である。877は刻齒式横櫛である。878～882は円形曲物の底板である。883は容器の挽物である。縦木取りの製品であり、内外面に削り痕が多数見られる。884は曲物の側板である。885は箸である。886は食事具の俎である。889は刀子形である。890、891は祭祀具の正面全身人形である。890は肩から上を人形のように作り、下端部は斎串のように尖らせる。892は祭祀具の側面全身人形である。三角形の抉りにより、首と頭部の烏帽子を表現している。893は棒状祭祀具である。894は鳥形である。墨で羽毛を表現している。895～904は斎串である。905が棒状祭祀具を火付棒にしたものか。土器は6点を図化した。906は須恵器の壺である。907、908は土師器の皿である。909、910は墨書き土器である。909は土師器の皿の底部外面に則天文字の「天」に類似した文字を墨書きする。910は土師器の小破片で文字の判読はできない。911は土錘である。



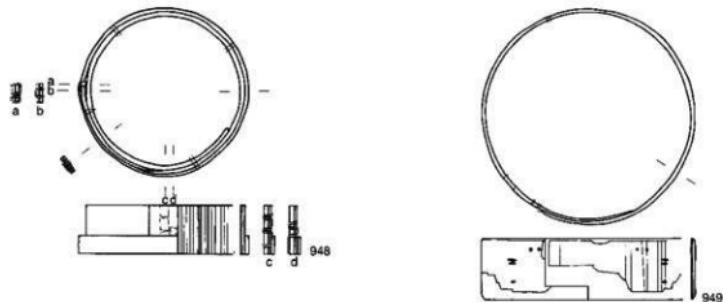
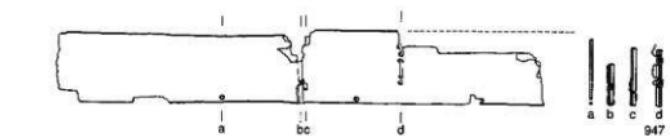
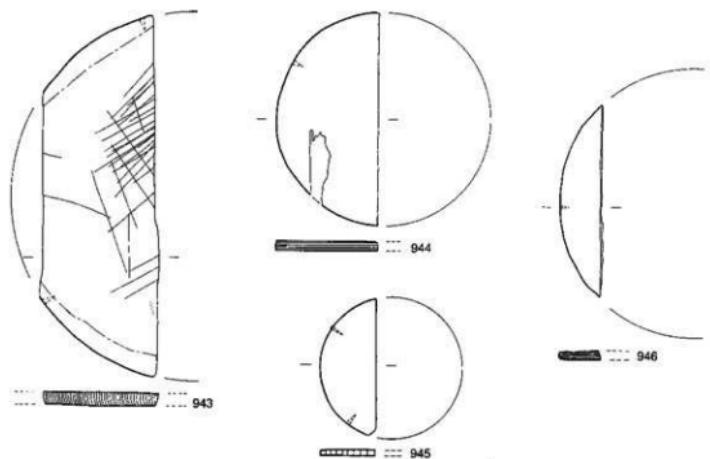
第304図 南区（2005年度1区）SR3001V層出土木製品（工具・農具）



第305図 南区（2005年度1区）SR3001V層出土木製品（紡織具・服飾具・容器）

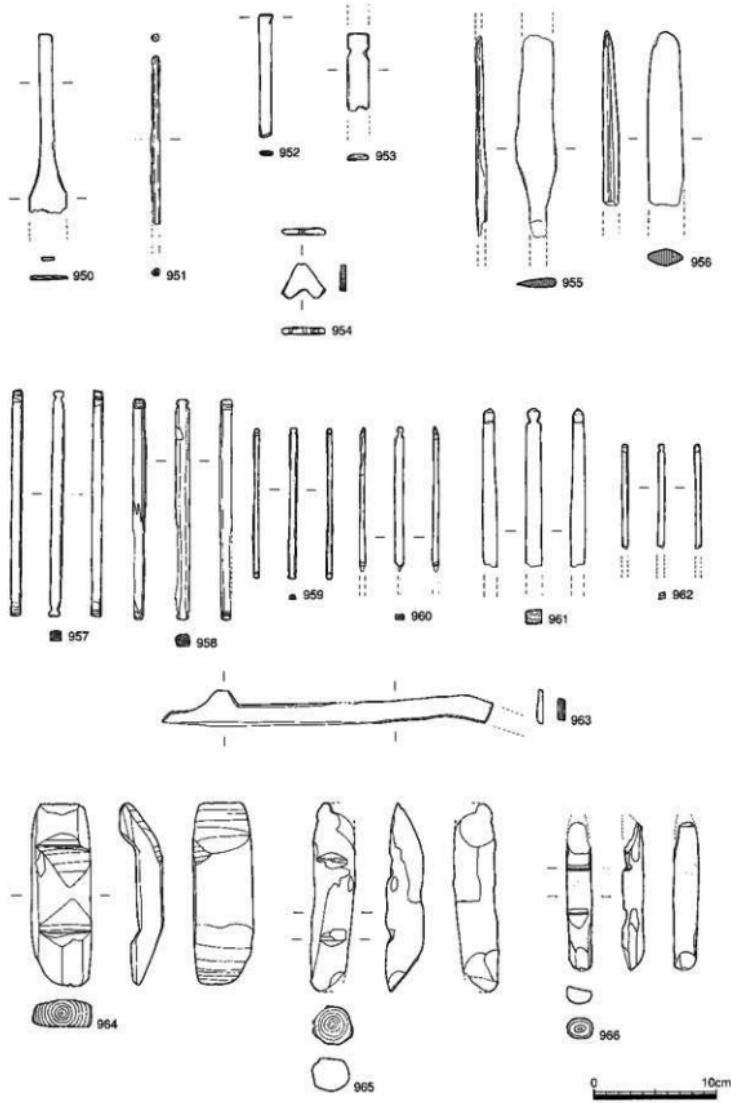


第306図 南区（2005年度1区）SR3001V層出土木製品（容器）(1)

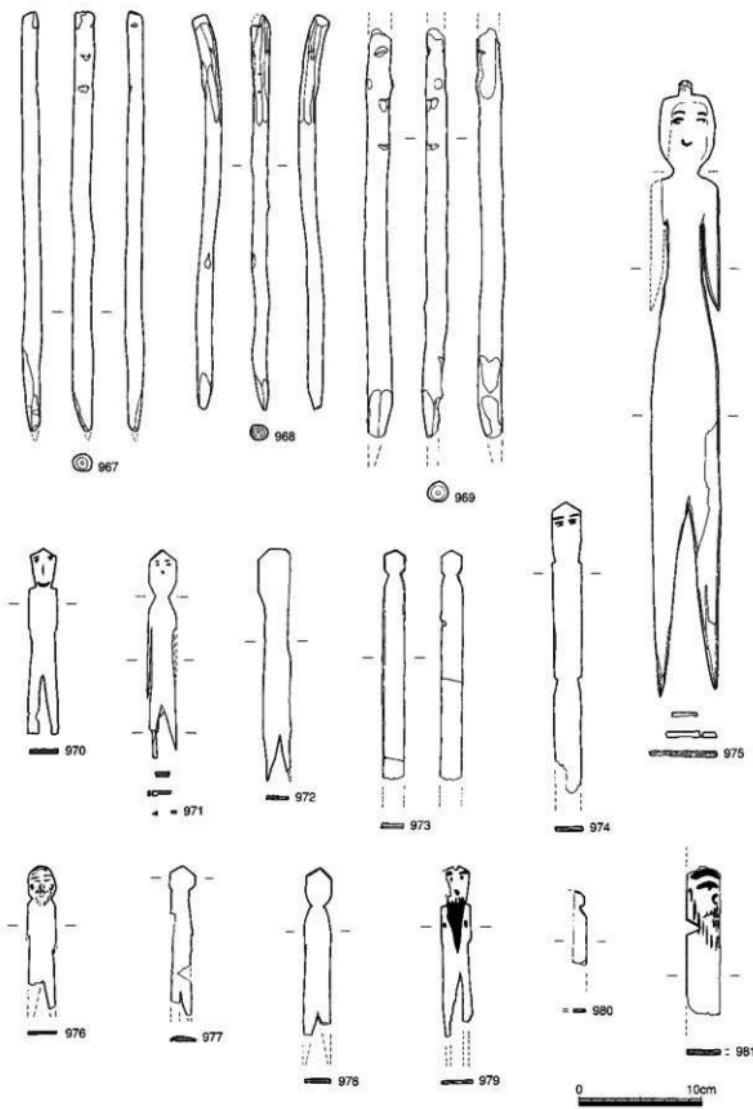


0 10cm

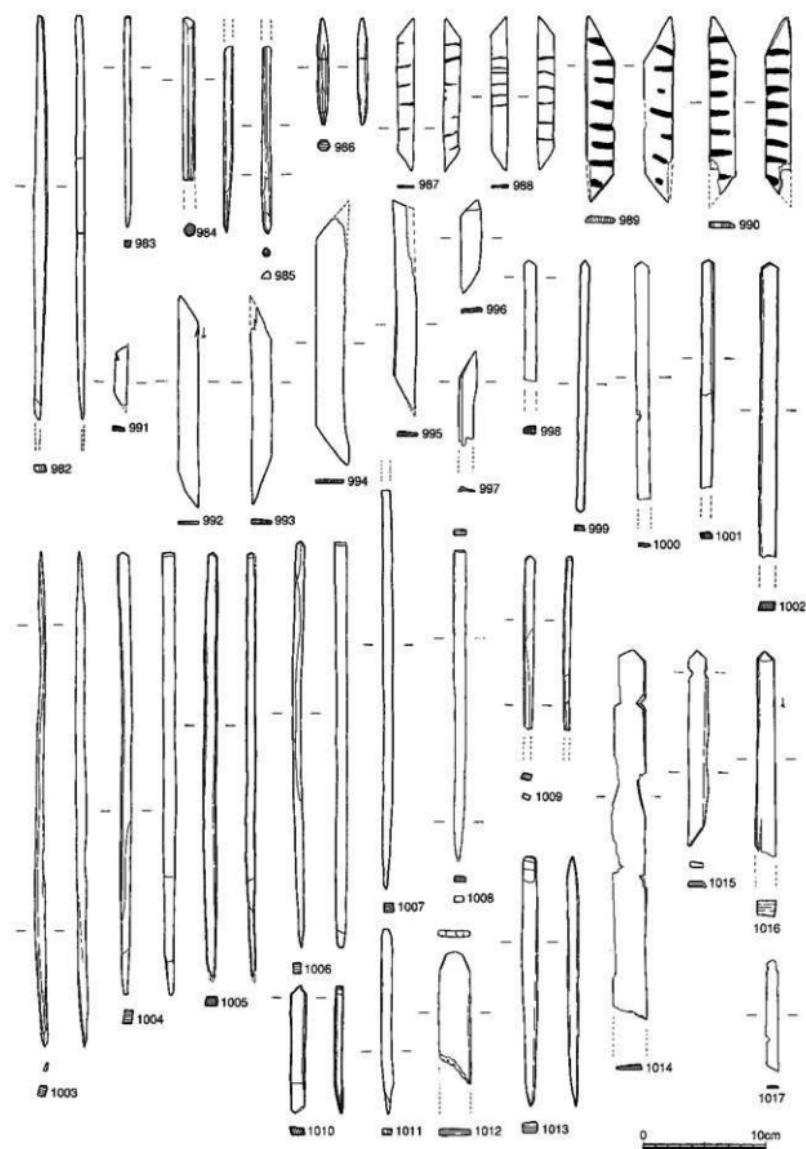
第307図 南区（2005年度1区）SR3001V層出土木製品（容器）（2）



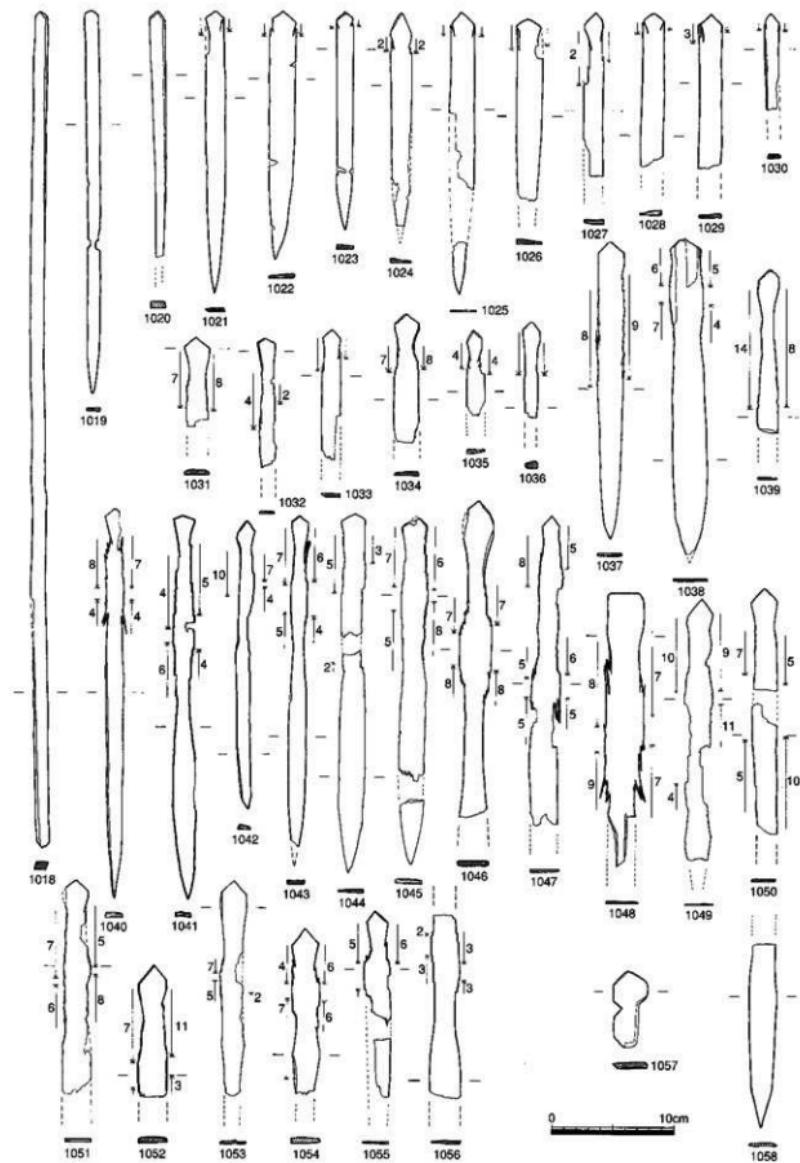
第308図 南区（2005年度1区）SR3001V層出土木製品（食事具・文房具・遊戯具・祭祀具）



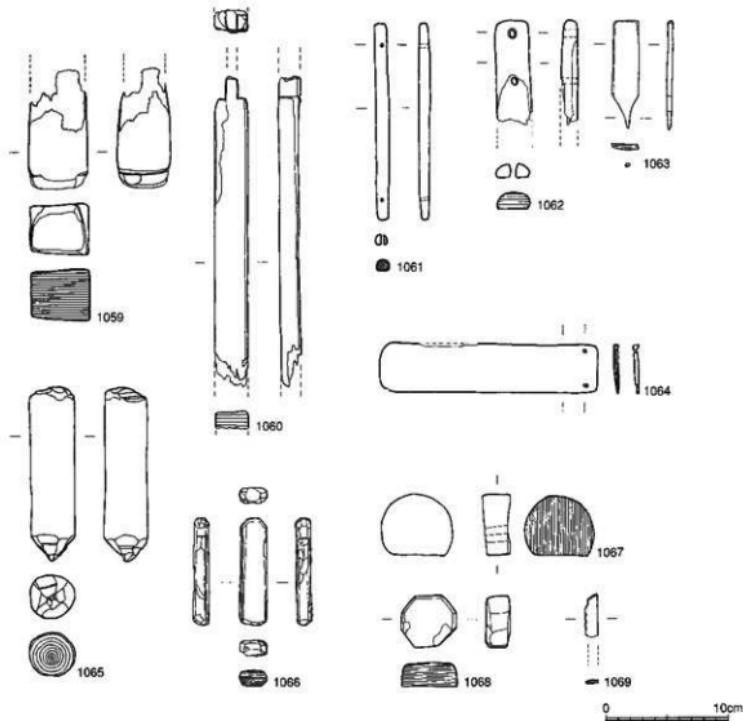
第309図 南区(2005年度1区)SR3001V層出土木製品(祭祀具)(1)



第310図 南区（2005年度1区）SR3001V層出土木製品（祭祀具）（2）



第311図 南区（2005年度1区）SR3001V層出土木製品（祭祀具）（3）

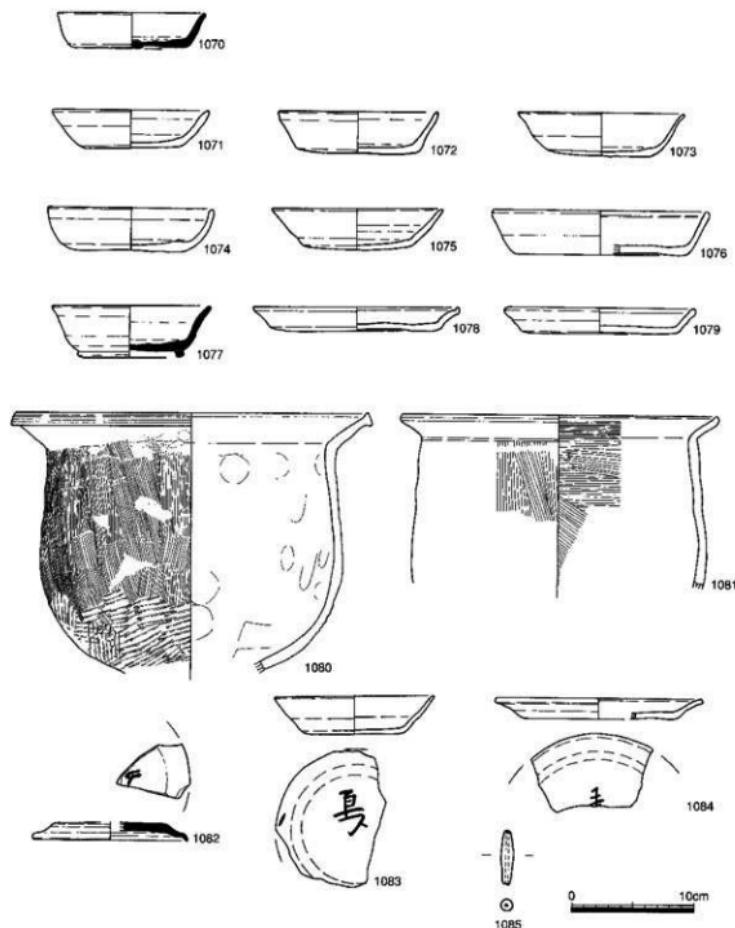


第312図 南区（2005年度1区）SR3001V層出土木製品（用途不明）

自然流路（SR3001）V層出土遺物（第300、304～313図）

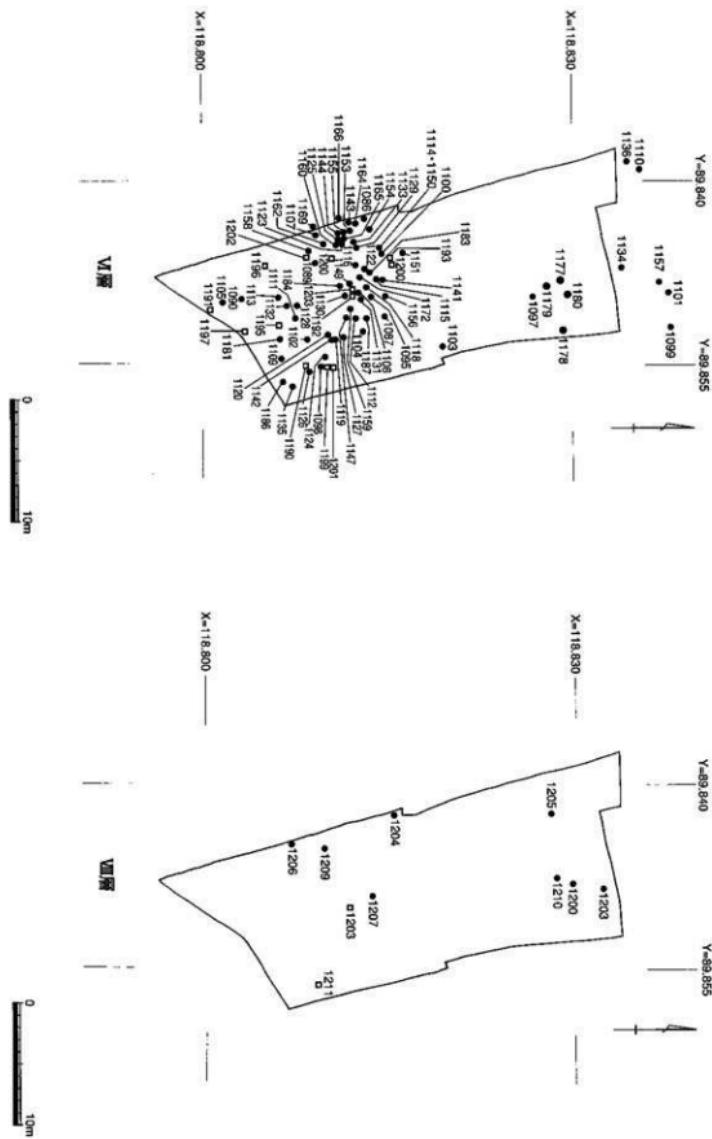
本製品は158点を図化した。912は工具の斧柄である。斧台は長台形で細かい削りにより成形している。913は箒である。914、916は柄である。915は楔である。917は馬銃である。918～920は木錘である。921～923は刺齒式横櫛である。924は檜扇である。925は糸巻棒木である。926は経巻具である。927は紡輪である。928は糸巻棒木である。929は楕円形曲物の底板である。930は容器の柄杓である。931は挽物の皿である。932～935は円形曲物の蓋板と側板である。935は表面に「山」の焼き印がある。936～946は円形曲物の底板である。947～949は円形曲物の側板である。948には捺が残存する。950は杓子である。951は箸である。954は琴柱である。955、956は刀形である。957～962は紡織具形である。963は祭祀具の鳥形か。964～966は舟形である。967～969は円筒状人形である。970～981は正面全身人形である。975は薄い板材を切り込んで頭、手、足を成形している。墨書きにより髪、目、眉を表現する。979は長い頭髪が描かれている。981は首に抉りがあり、墨書きで顔を表現している。中央から半裁され顔の左半分のみ残存する。982～986は棒状祭祀具である。987～1058は斎串である。987～990は台形状を呈し、両面に横状の墨書きがある。『観音寺遺跡I』（徳島県埋蔵文化財センター 2002）では木簡44号、46号とし

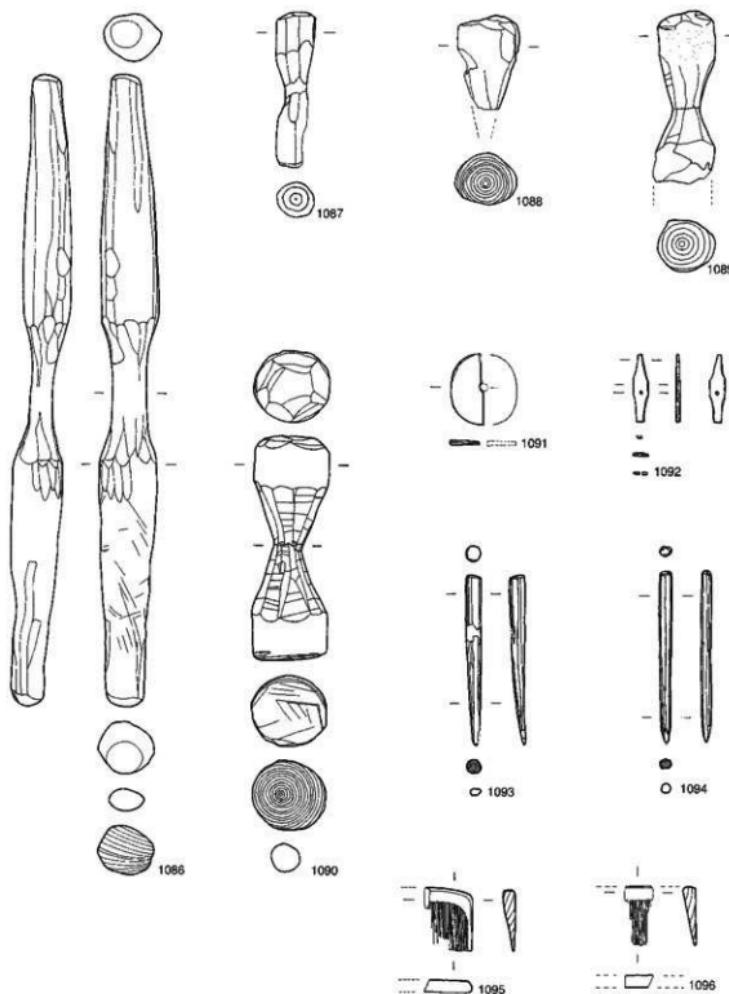
たものに類似している。987と988は外形、断面形状ともに類似する。厚めの板で斎串の形を作つておき、薄く水平方向に割ることで、複数のものを生産した可能性がある。1059、1060は支脚である。土器は16点を図化した。1070、1077は須恵器の杯である。1071～1076は土師器の杯である。1078、1079は土師器の皿である。1080、1081は土師器の壺である。1082～1084は墨書き器である。1082は須恵器の杯蓋の外側の天井部に「少」と墨書きする。1083は土師器の杯の底部外面に「安人」と墨書きする。1084は土師器の皿である。底部外面に墨書きの一部が見える。



第313図 南区（2005年度1区）SR3001V層出土遺物

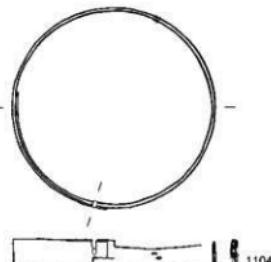
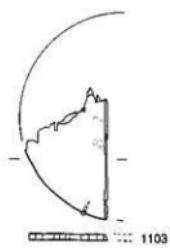
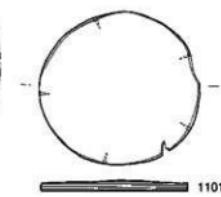
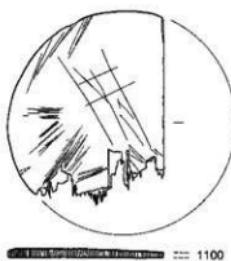
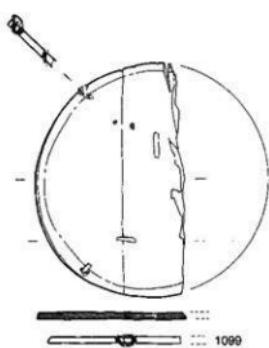
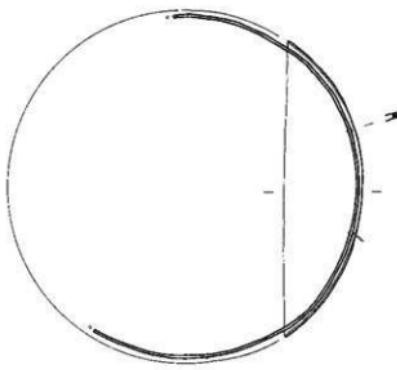
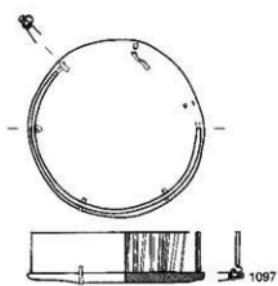
第314図 南区(2005年度1区)SR3001Ⅳ層・Ⅴ層遺物出土状況ドット図



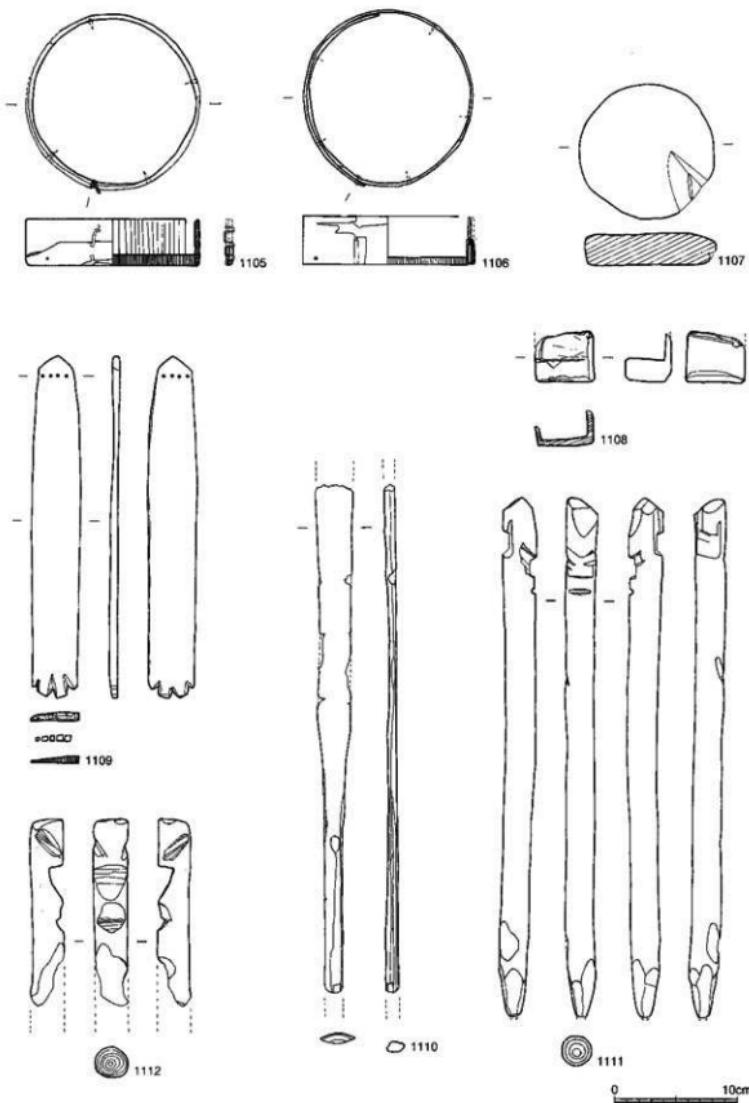


0 10cm

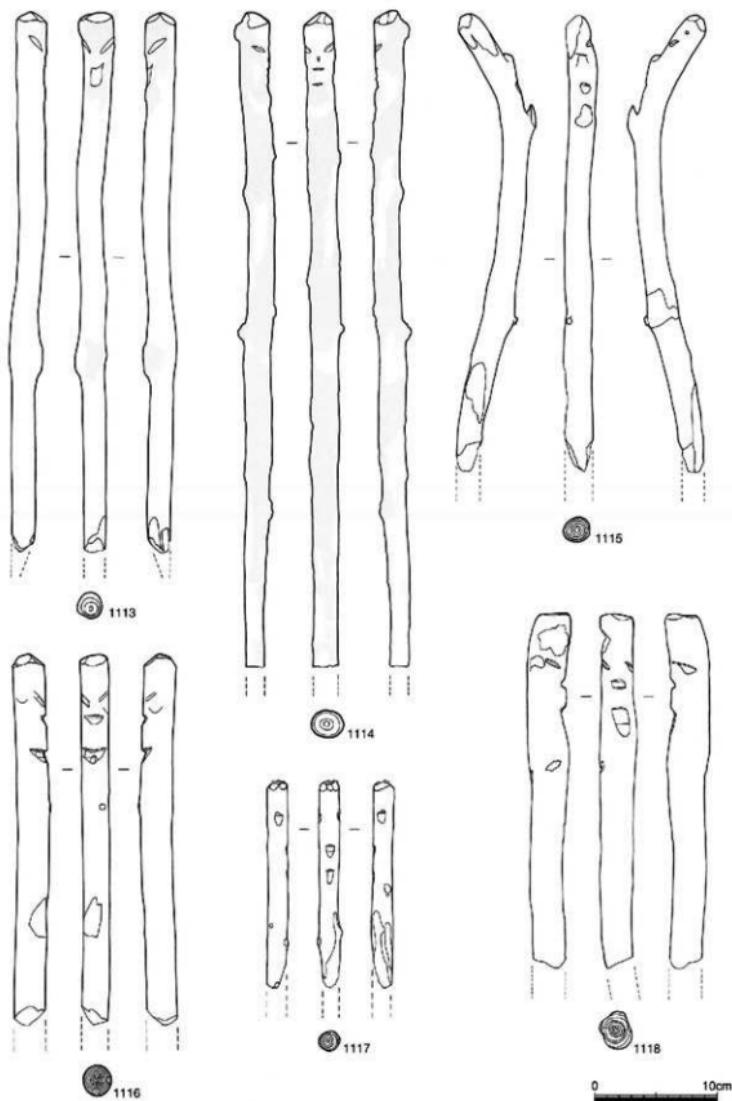
第315図 南区（2005年度1区）SR3001VI層出土木製品（農具・紡織具・服飾具）



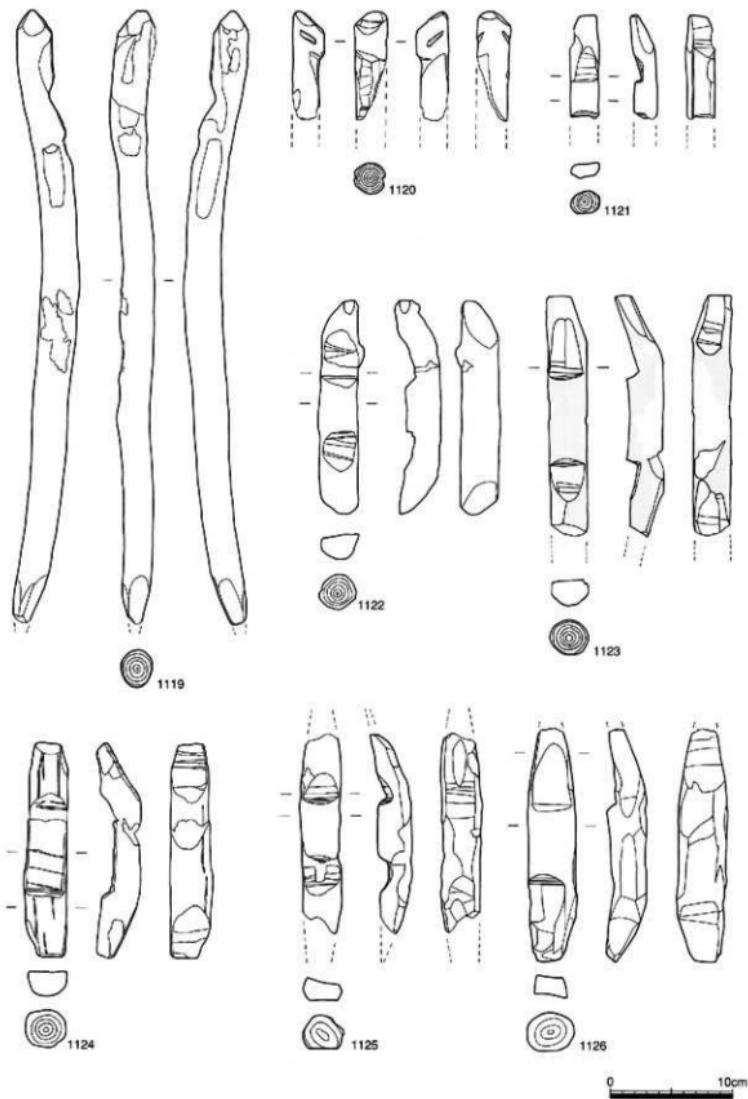
第316図 南区（2005年度1区）SR3001VI層出土木製品（容器）



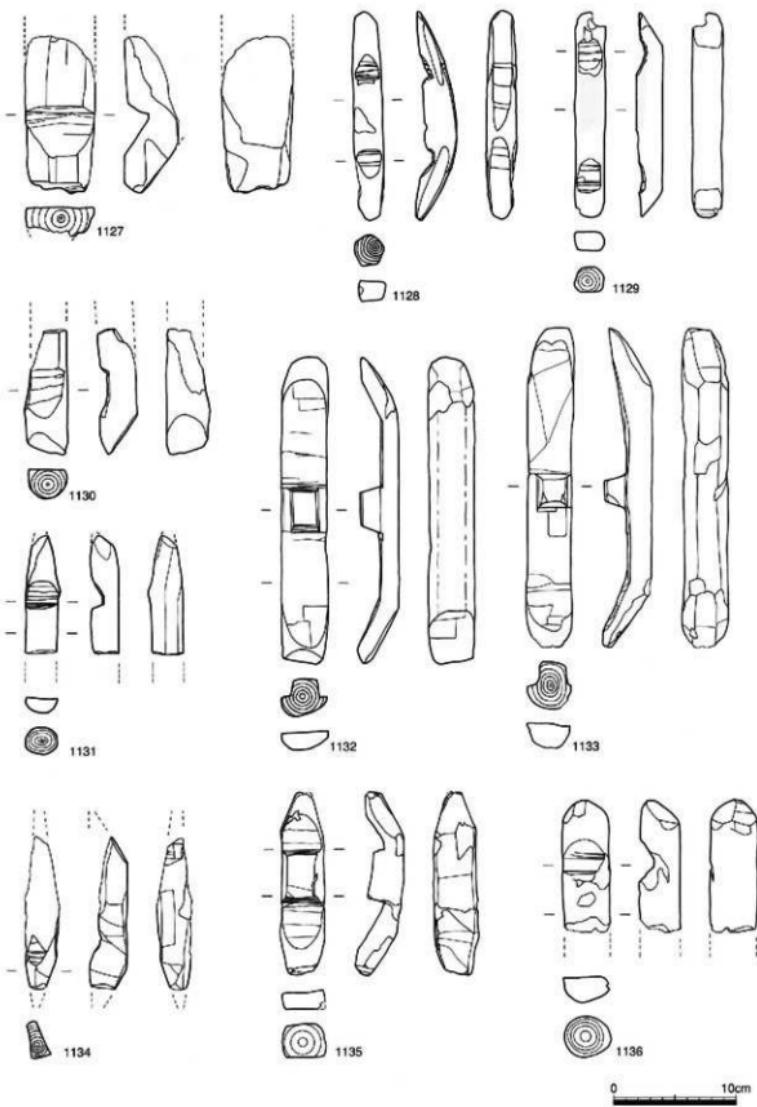
第317図 南区（2005年度1区）SR3001 VI層出土木製品（容器・遊戯具・祭祀具）



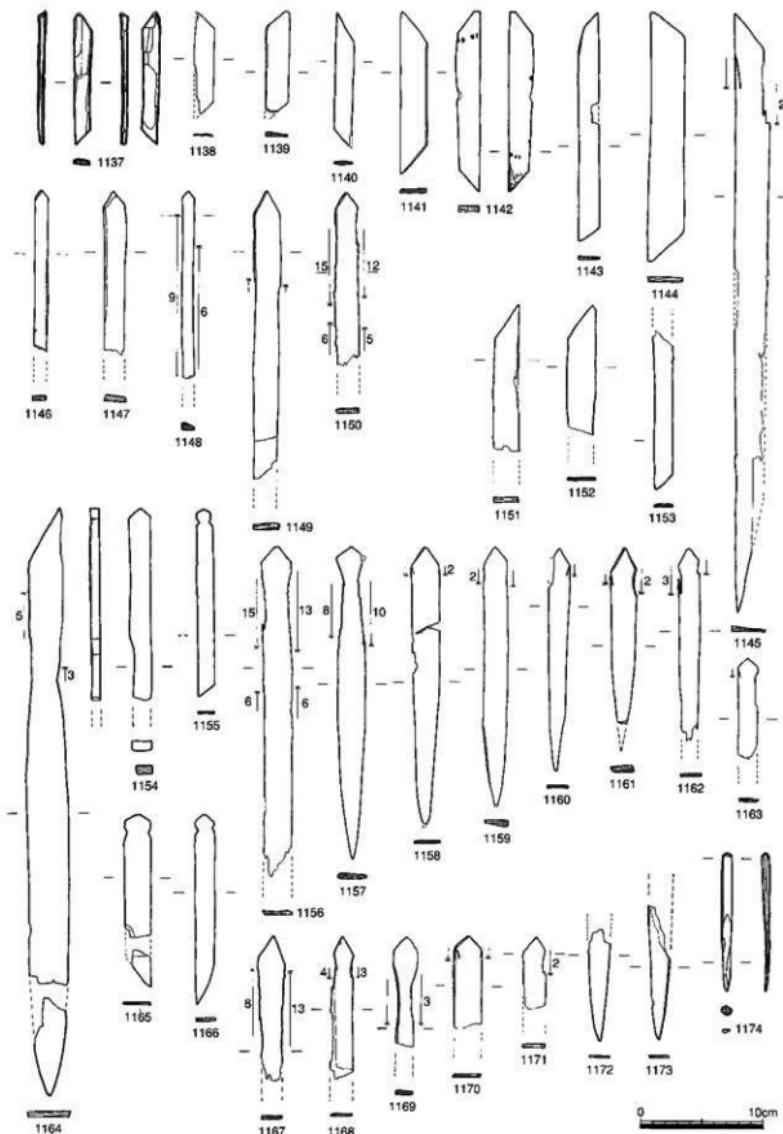
第318図 南区（2005年度1区）SR3001 VI層出土木製品（祭祀具）（1）



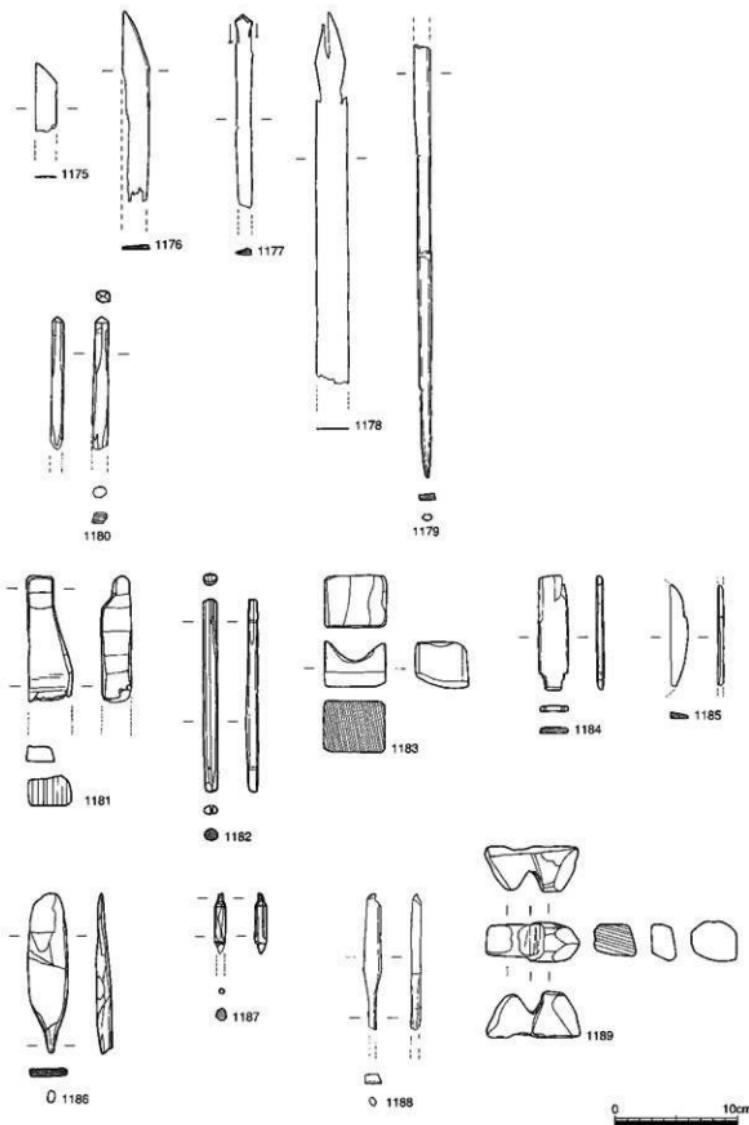
第319図 南区（2005年度1区）SR3001VI層出土木製品（祭祀具）（2）



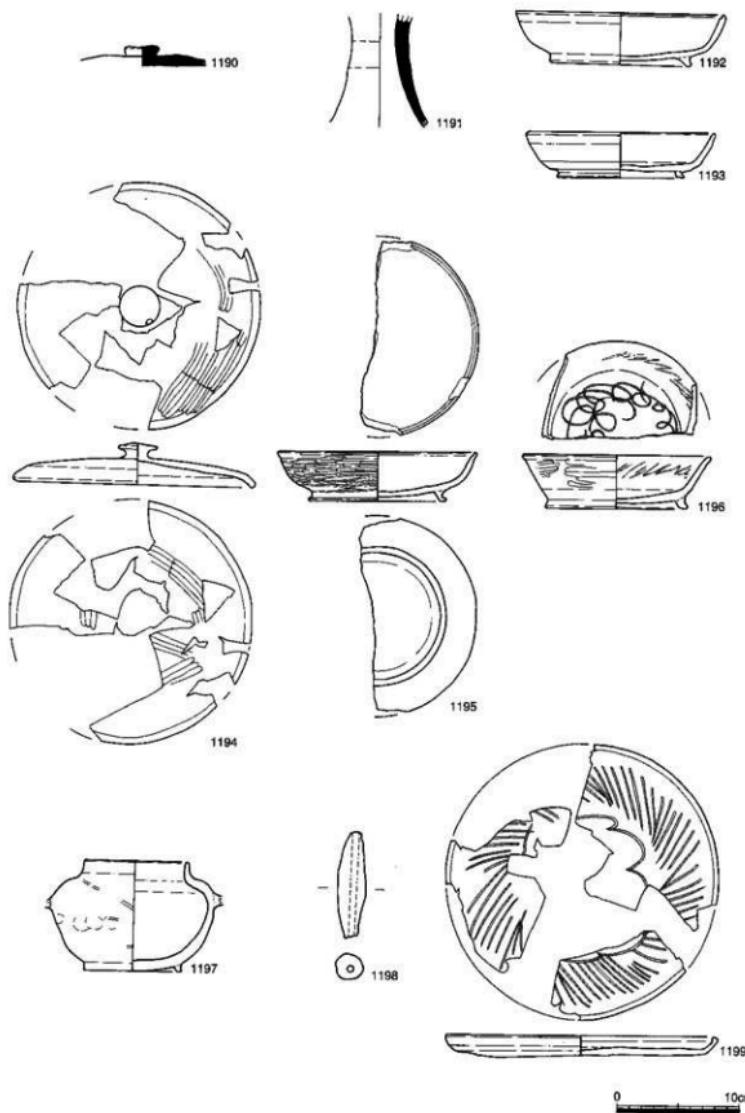
第320図 南区(2005年度1区)SR3001VI層出土木製品(祭祀具)(3)



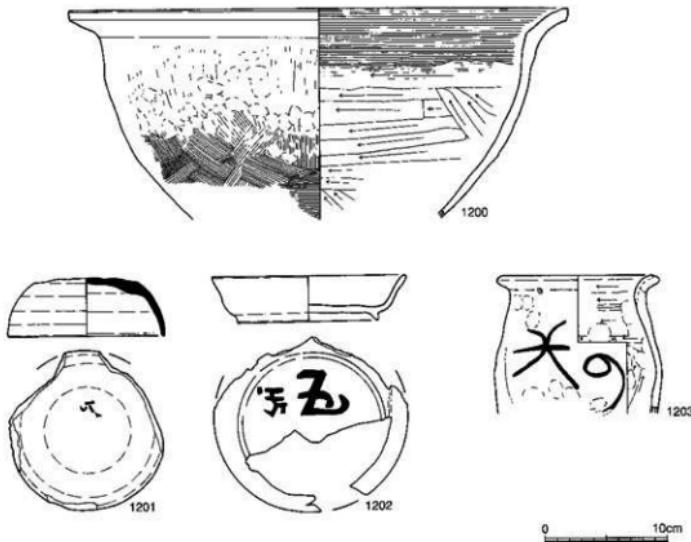
第321図 南区（2005年度1区）SR3001VI層出土木製品（祭祀具）(4)



第322図 南区（2005年度1区）SR3001VI層出土木製品（容器・祭祀具・部材・用途不明）



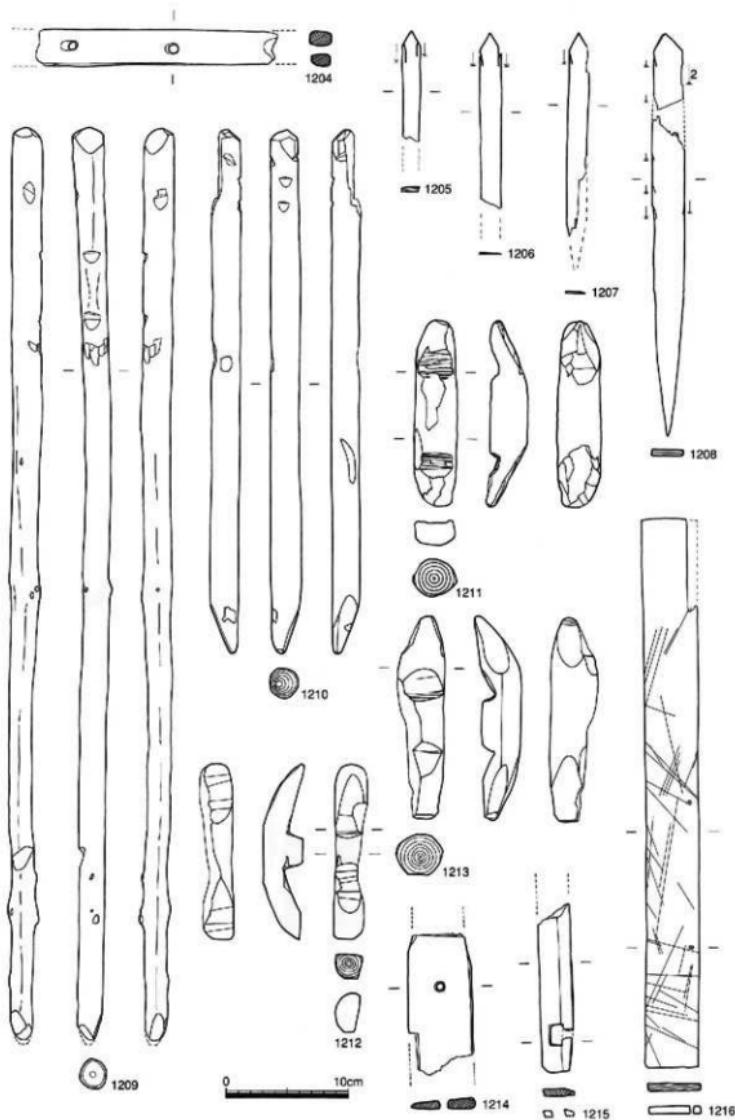
第323図 南区（2005年度1区）SR3001VI層出土遺物（1）



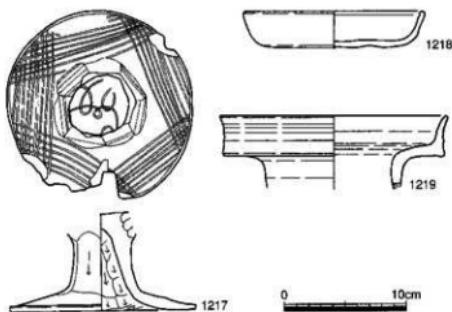
第324図 南区（2005年度1区）SR3001VI層出土遺物（2）

自然流路（SR3001）VI層出土遺物（第314～324図）

木製品は99点を図化した。1086は農具の堅杵である。刃材の中央部分を細く削り掘り部分を成形している。1087～1090は木鍤である。1091は紡輪である。1092は糸巻横木である。1093、1094は留針である。1095、1096は刻齒式横櫛の破片である。1097、1098、1105、1106は円形曲物の底板と側板が結合したものである。1099～1104は円形曲物の底板である。1103の曲物の底板は内面の2カ所に焼き印がある。1107は容器の蓋板である。1108は槽の一部である。1109は遊戯具の琴である。上部に4孔の集弦孔と下部に4突起の櫛形を成形している。1110は剣形である。1111～1120は円筒状人形である。1121～1136は舟形である。1137～1180は扇車である。土器は14点を図化した。1190は須恵器の杯蓋である。1191は須恵器の高杯である。1192、1193、1195、1196は土師器の杯である。1196は底部内面に螺旋状暗文が施される。1194は土師器の杯蓋である。1197は土師器の壺である。1198は土鍤である。1199は土師器の皿である。底部内面の中央にらせん状暗文、周辺に放射状暗文が施されている。1200は土師器の鍋である。1201～1202は墨書き器である。1201は須恵器の杯蓋の内面に墨書きがあるが、文字の判読はできない。1202は土師器の杯である。底部外面に「是小口」と記す。1203は刻書き器である。土師器の壺の外面にスイジカイ+勾玉模様を彫る。



第325図 南区（2005年度1区）SR3001VII層出土木製品（農具・祭祀具・部材）

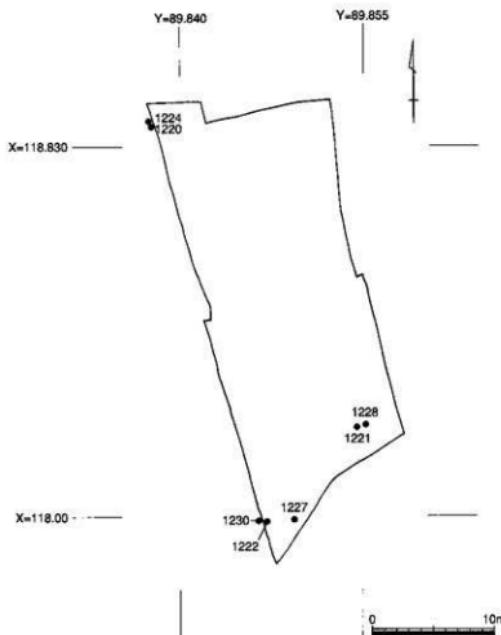


第326図 南区（2005年度1区）
SR3001Ⅶ層出土遺物

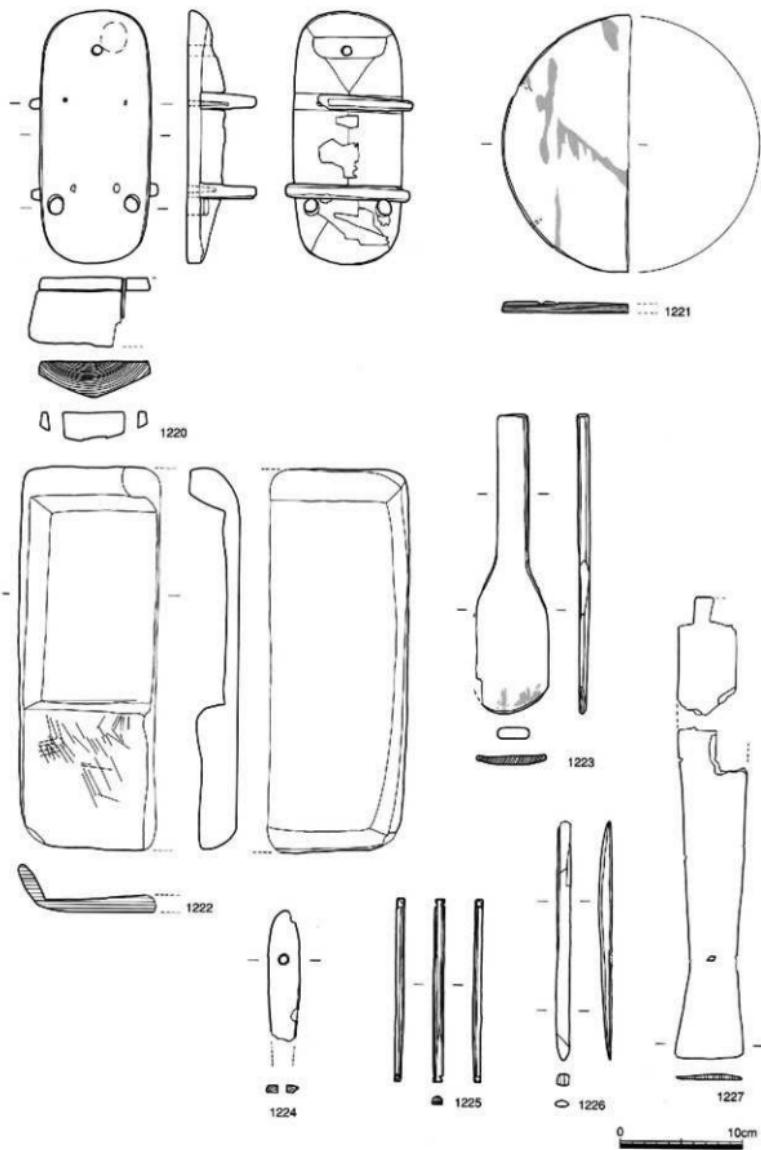
自然流路（SR3001）Ⅶ層出土遺物

(第314、325、326図)

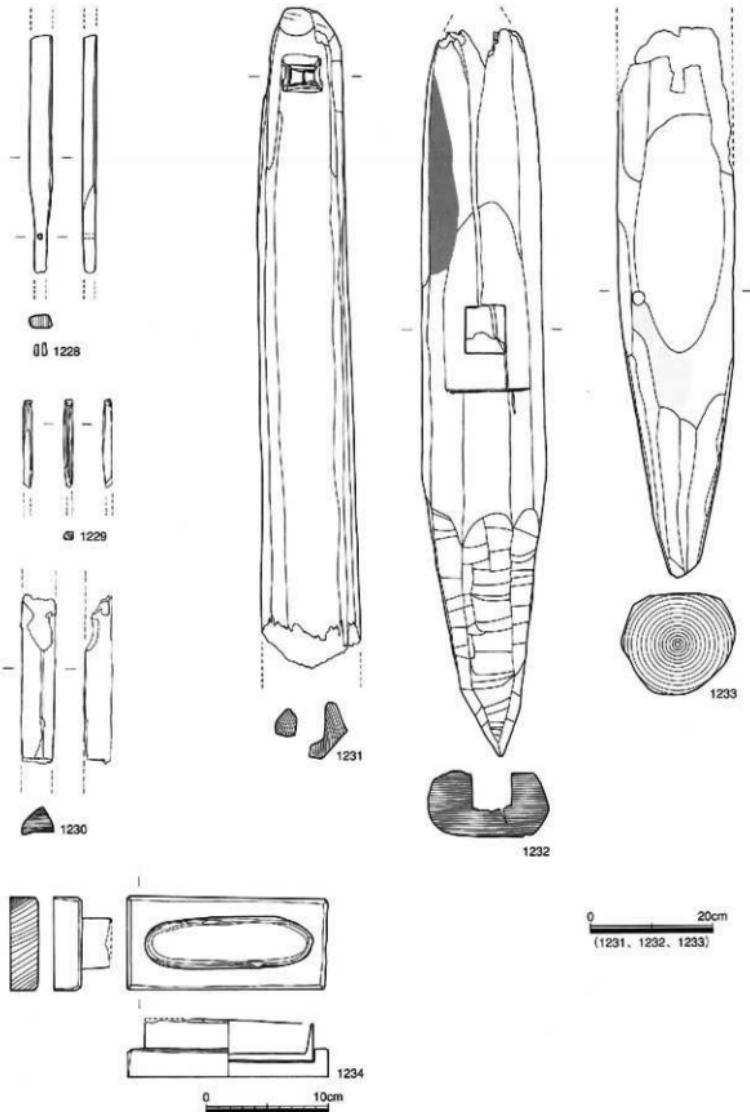
本製品は13点を図化した。1204は馬鍔である。1205～1208は蓋串である。1209、1210は円筒状人形である。1211～1213は舟形である。土器は3点を図化した。1217は土師器の高坏である。杯部の内面と脚部の外面向に暗文が施される。1218は土師器の杯である。



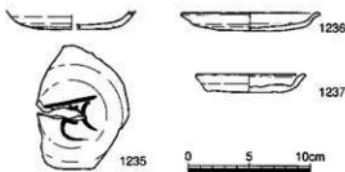
第327図 南区（2005年度1区）SR3001遺物出土状況ドット図



第328図 南区（2005年度1区）SR3001出土木製品（服飾具・容器・食事具・文房具・祭祀具）



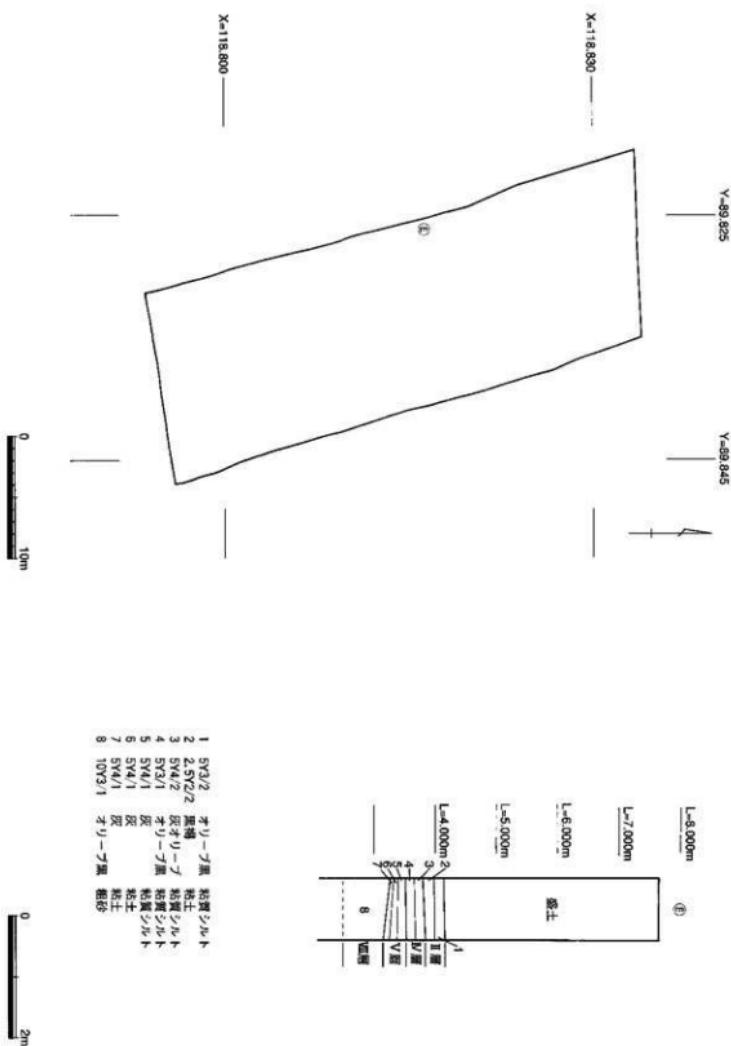
第329図 南区（2005年度1区）SR3001出土木製品（部材・建築部材・杭・用途不明・その他）



第330図 南区（2005年度1区）SR3001出土遺物

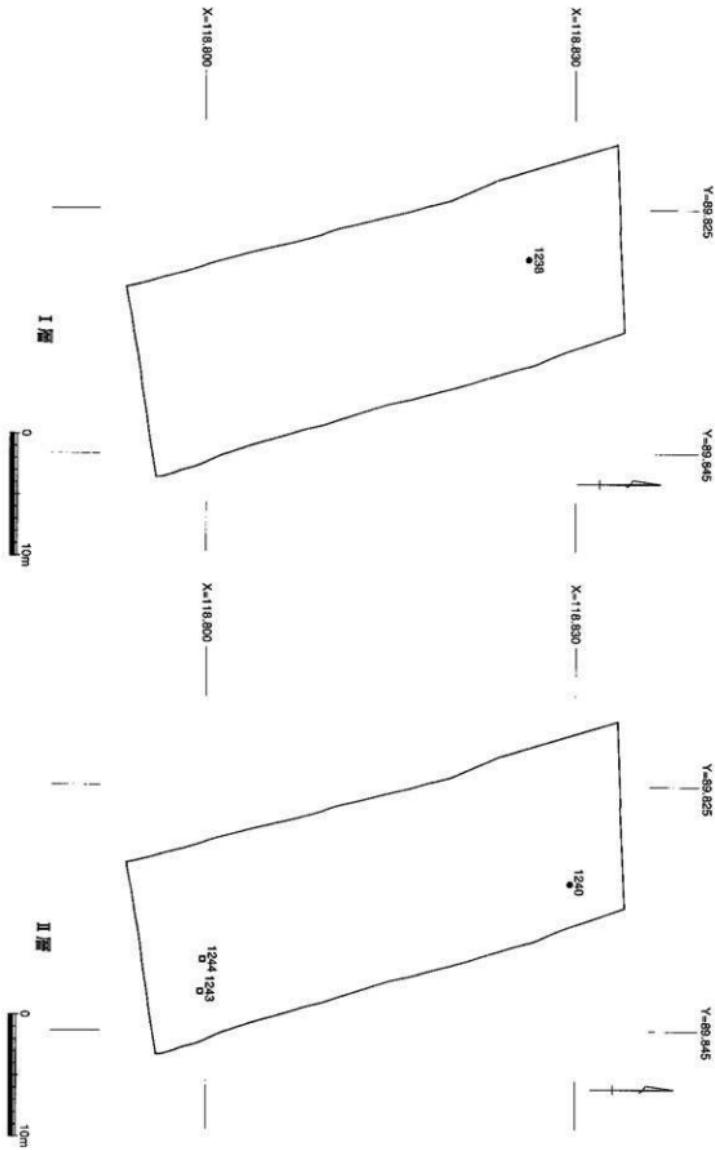
自然流路（SR3001）出土遺物（第327～330図）

木製品は15点を図化した。1220は差歎下駄である。左足用で親指による圧痕が見られる。1221は円形曲物の底板である。内面に漆が残存している。1222は容器の檜である。1223は食事具の杓子である。身部の先端に漆が残存している。1225は紡織具形である。1226は棒状祭祀具である。1231は建築部材の柱である。上部にはほぞ穴がある。1232は杭である。中央部にはほぞ穴がある。土器は3点を図化した。1235は墨書き器である。土師器の杯の底部外面に墨書きが見られる。1236、1237は土師器の皿である。

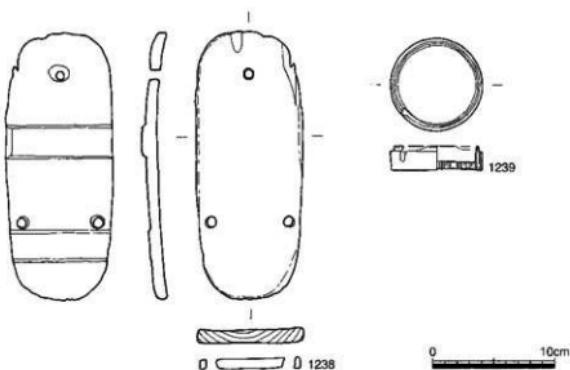


(26) 2005年度2区

- MI -



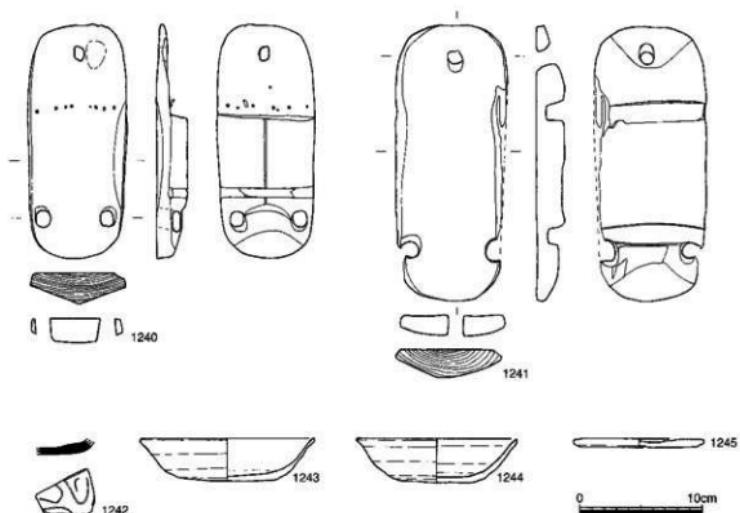
第332図 南区（2005年度2区）SR3001Ⅰ層・Ⅱ層遺物出土状況ドット図



第333図 南区（2005年度2区）SR3001 I層出土木製品（服飾具・容器）

自然流路（SR3001）I層出土遺物（第332、333図）

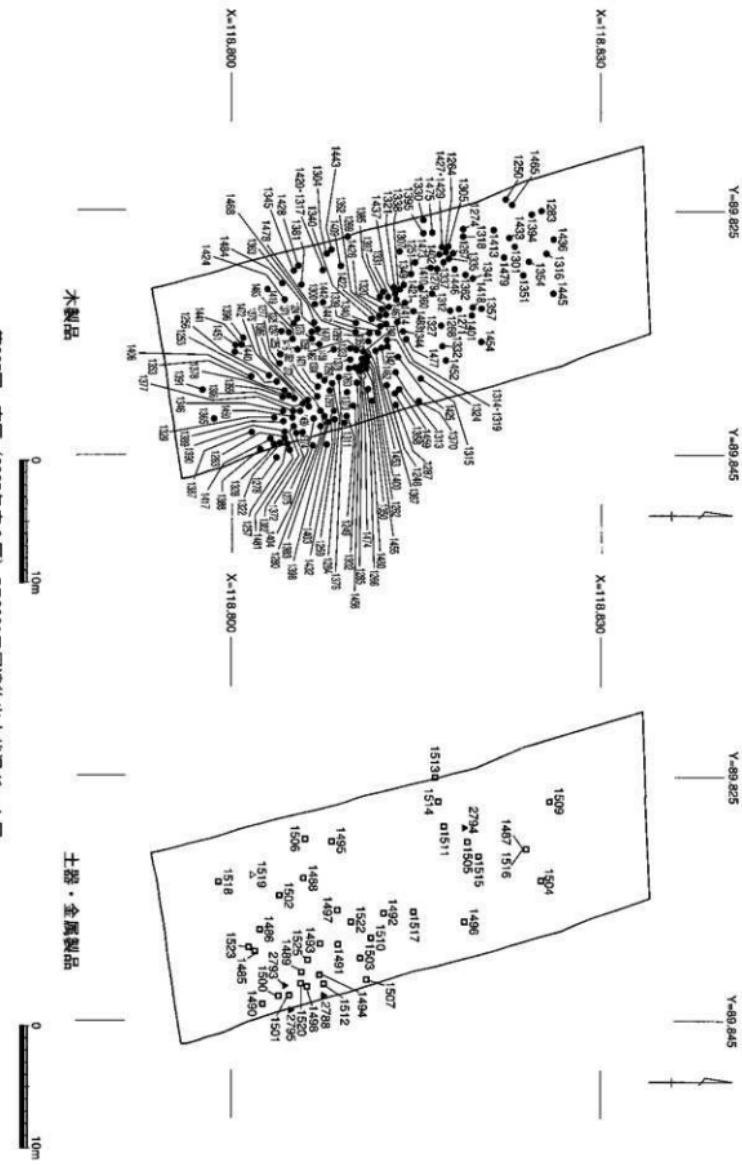
木製品は2点を図化した。1238は服飾具の連歛下駄である。右足用で台に浅い压痕がある。1239は合子である。外面に赤漆、内面に黒漆が塗布されている。



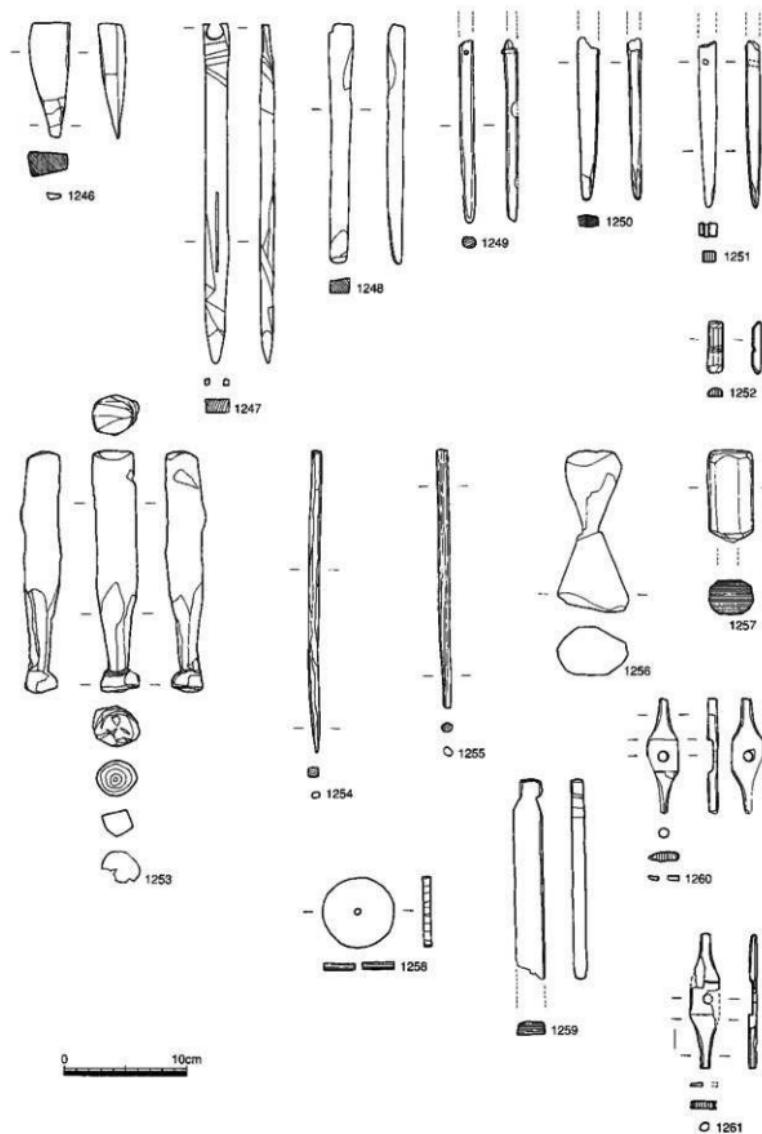
第334図 南区（2005年度2区）SR3001Ⅱ層出土遺物

自然流路（SR3001）Ⅱ層出土遺物（第332、334図）

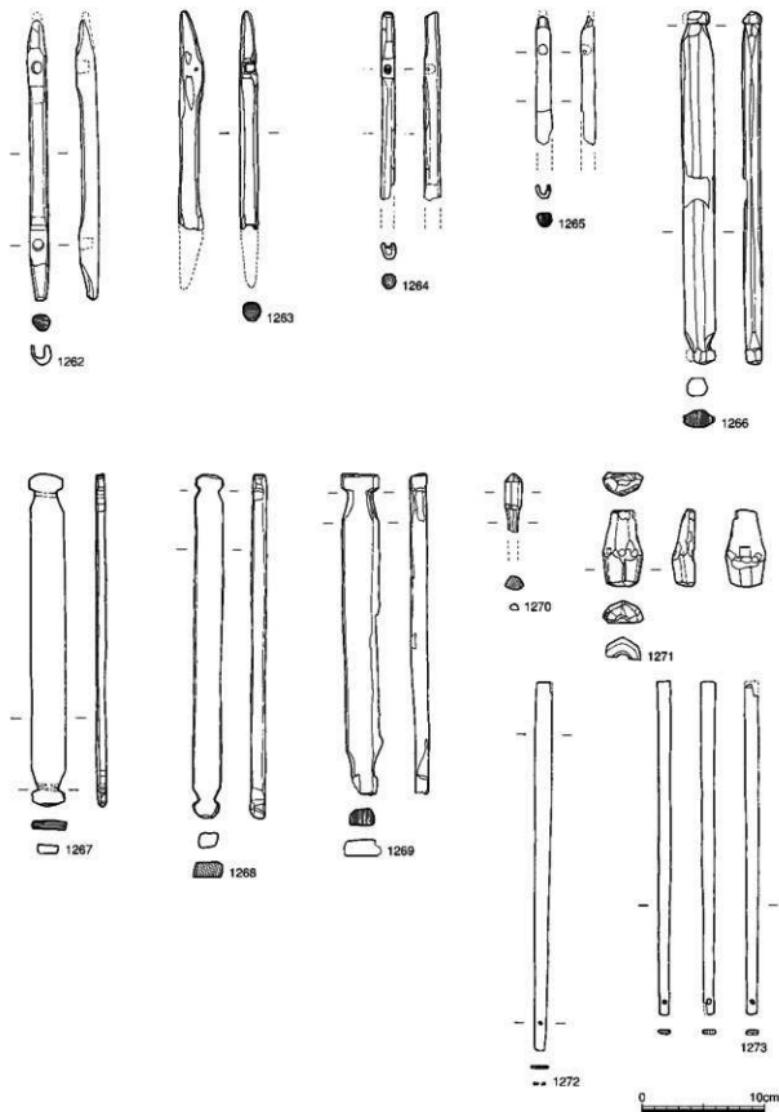
木製品は2点を図化した。1240、1241は服飾具の羃歎下駄である。いずれも左足用である。土器は4点を図化した。1242は刻書き土器である。須恵器の杯の小破片に線刻で模様を彫る。1243、1244は土師器の杯である。1245は土師器の皿である。底部に内面からの穿孔がある。



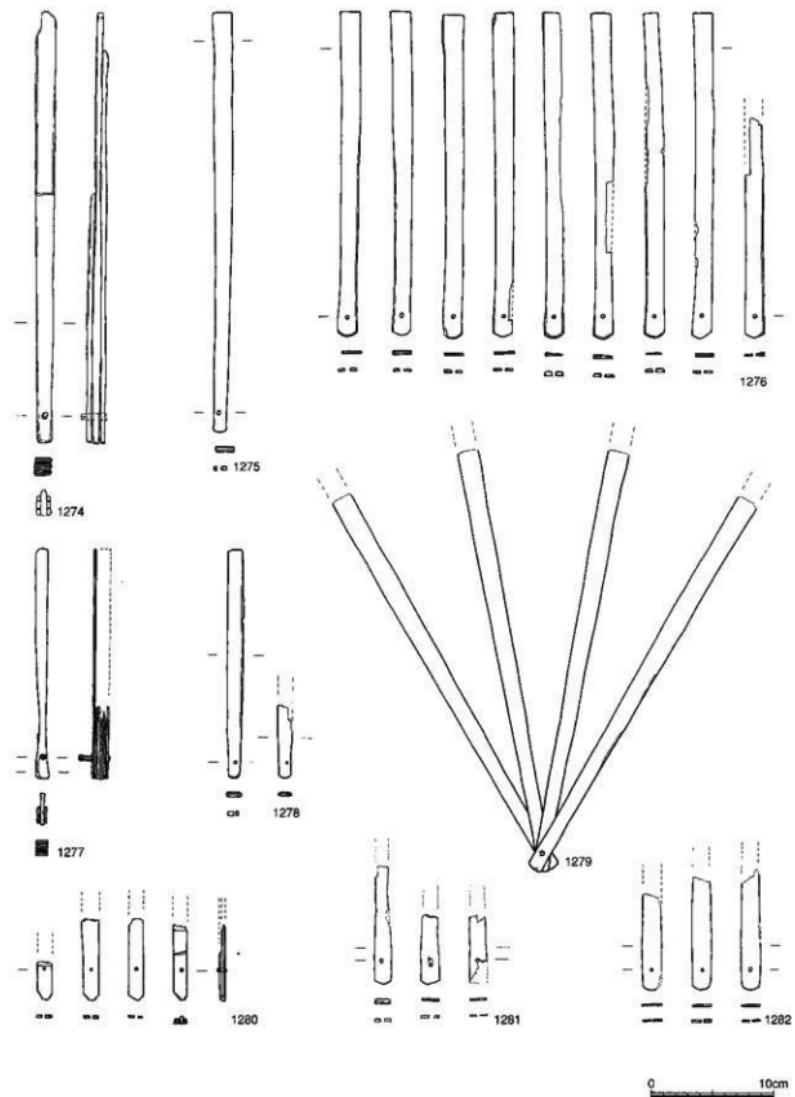
第335図 南区(2005年度2区)SR3001Ⅲ層遺物出土状況ドット図



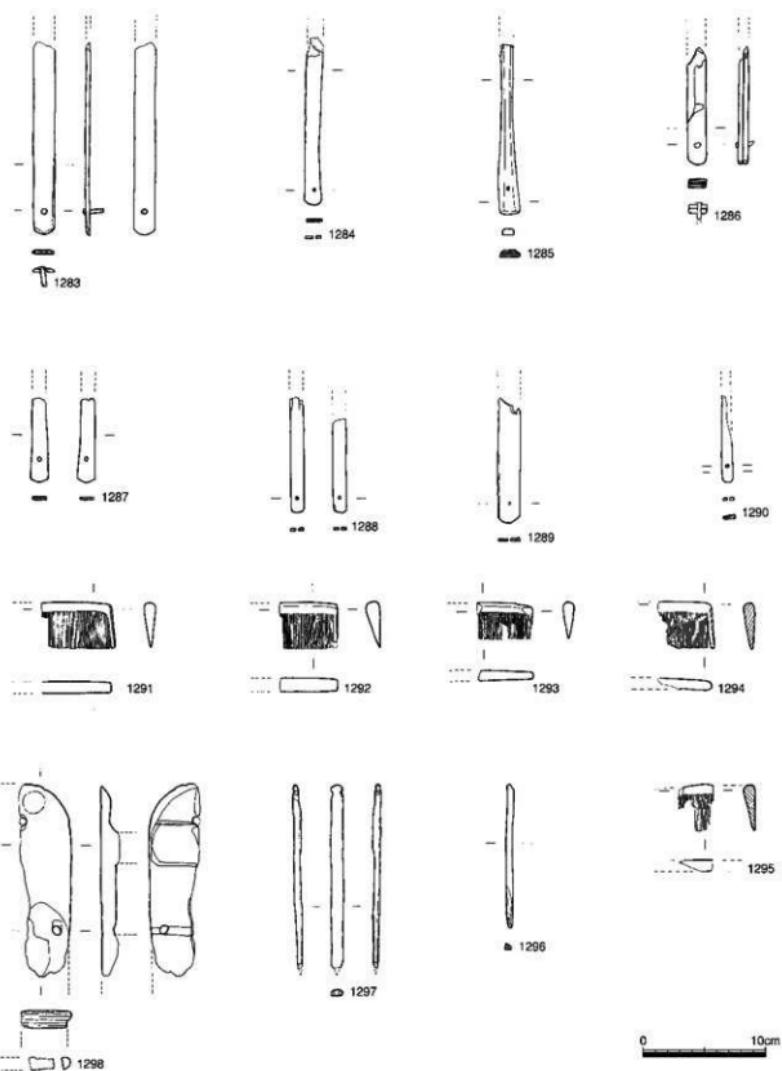
第336図 南区（2005年度2区）SR3001Ⅲ層出土木製品（工具・農具・紡織具）



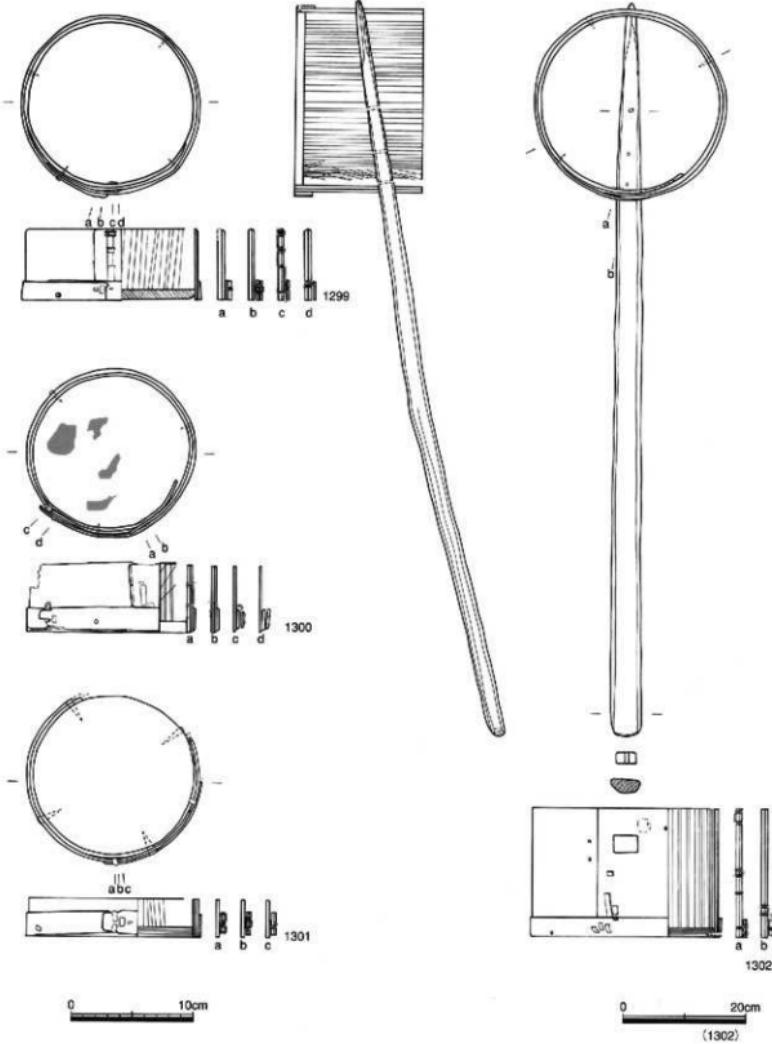
第337図 南区（2005年度2区）SR3001Ⅲ層出土木製品（紡織具・武器・服飾具）



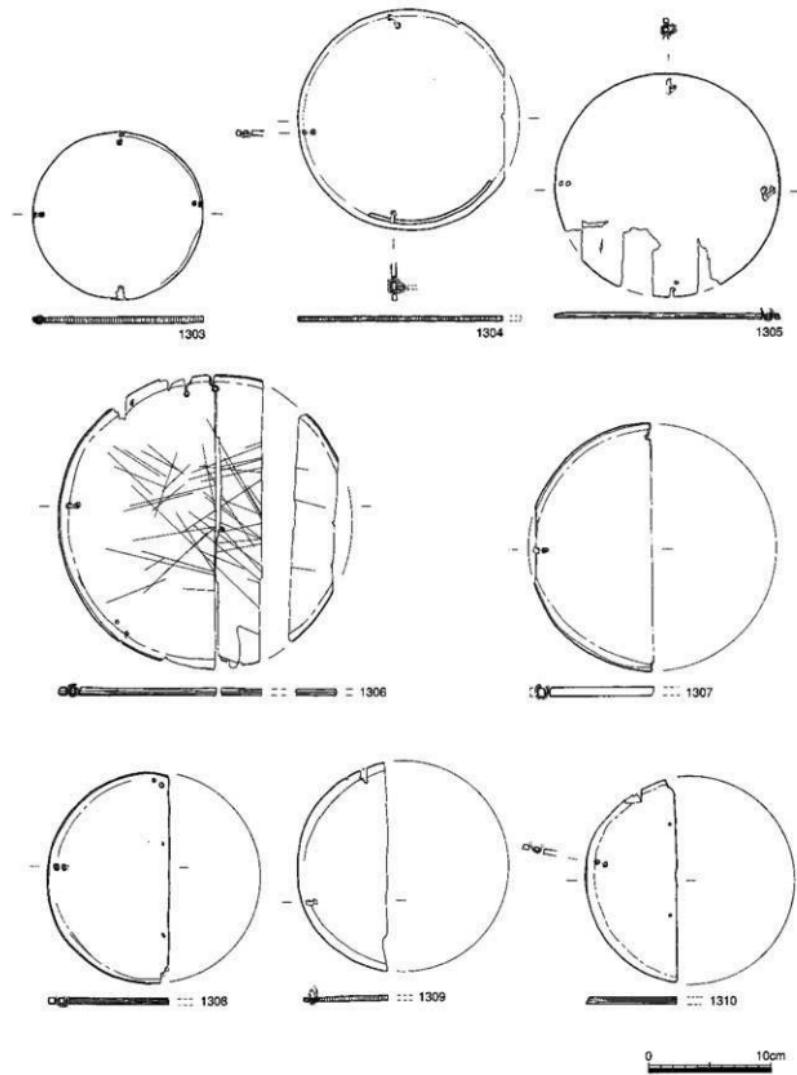
第338図 南区（2005年度2区）SR3001Ⅲ層出土木製品（服飾具）(1)



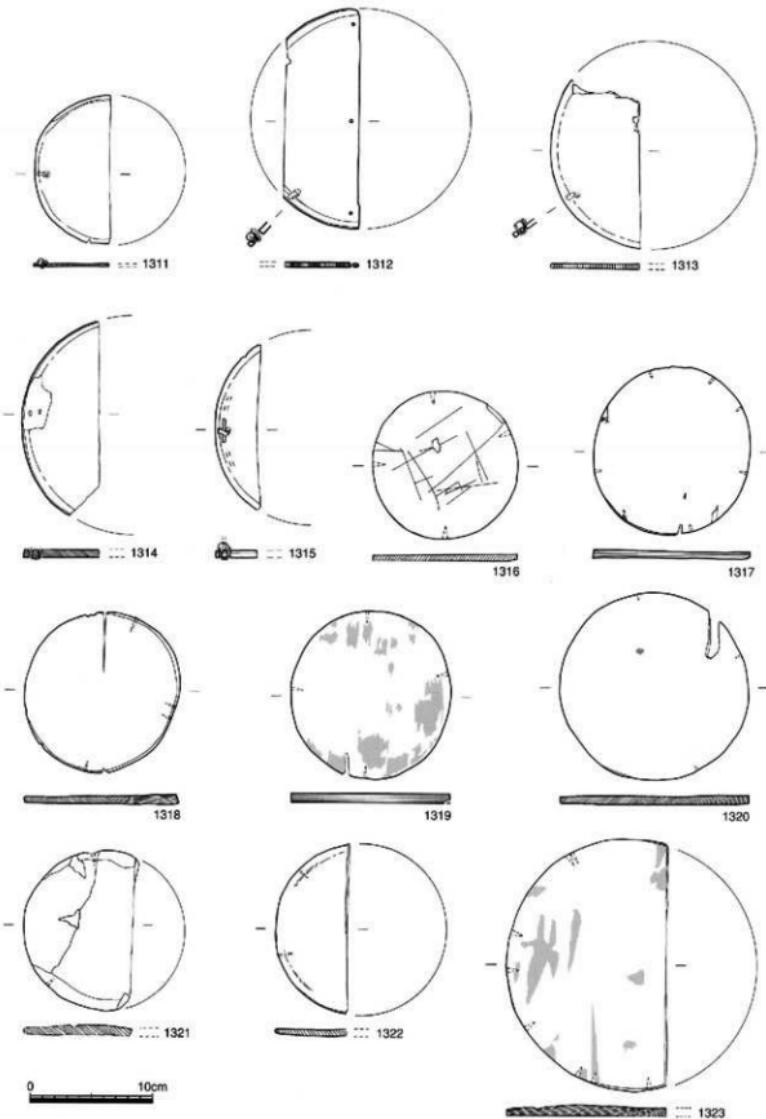
第339図 南区（2005年度2区）SR3001Ⅲ層出土木製品（服飾具）（2）



第340図 南区（2005年度2区）SR3001Ⅲ層出土木製品（容器）（1）



第341図 南区（2005年度2区）SR3001Ⅲ層出土木製品（容器）（2）



第342図 南区(2005年度2区)SR3001Ⅲ層出土木製品(容器)(3)